385
119

始

385-119

博物教材研究會著

新式 動物界攬要

（動物五百種の表解）

大正 9. 6 内交

コンドル
キツ子ザル
アメリカトラ
アナグマ
アメリカバク
ラマ

ハチドリ二種
ゴクラクドリ
レア
ウハバミ
メガネヘビ
シヒレウナギ

例言

一、本書は現今汎く行はるる中等動物學教科書を中心として、凡そ五百種の動物を選擇し是等を門、綱、目、亞目等に分類して排列し、個々の動物に就いては夫々其の主要なる形態上の特徴、習性、産地、及人生に對する利害の關係等、諸般の重要なる事項をば、正確、簡明且平易に敍述し、以て中等學校學生諸子、竝に各種專門學校入學受驗者諸君の參考用書として編纂したるものなれども、また中等學校敎官各位等の最も信頼すべき備忘錄として適當ならしむる爲め、廣く材料を搜め、且之を精選し、編纂上最も深く意を用ひたり

二、本書末には、動物界の分類表四十餘頁を挿入すると同時に、各綱目の通性を記述し、且其の類例を擧げ、また現行の狩獵法施行規則にて狩獵し得べき鳥獸の一覽表を收めたり。

大正九年十一月　　編者識

新式動物界攬要(動物五百種の表解)目次

頁
第一門　脊椎動物……一
第一綱　哺乳類……一
第一目猿類……一
サル……一
シヤウジヤウ……二
クロシヤウジヤウ……二
オホシヤウジヤウ……二
テナガザル……二
チナガザル……二
ヒヒ……二
テングザル……三
チマキザル……三
キツ子ザル……三
第二目食肉類……三
第一亞目裂脚類……三
ネコ……三
シシ……四
トラ……四
ヘウ……四
アメリカトラ……四
イヌ……五
オホカミ……五
ヤマイヌ……五
キツ子……五
タヌキ……五
マダラオホカミ……六
マングース……六
イタチ……六
テン……六
ラツコ……六
カハウソ……七
スカンク……七
アナグマ……七
クロクマ……七
ヒグマ……七
シロクマ……八
第二亞目鰭脚類……八
オツトセイ……八
アシカ……八
アザラシ……八
セイウチ……九
第三目有蹄類……九
第一亞目奇蹄類……九
ウマ……九
ウサギウマ……九
シマウマ……一〇
サイ……一〇
バク……一〇

第二亞目偶蹄類……一〇
第一類反芻類……一〇
ウシ……一一
スヰギウ……一一
カモシカ……一一
ヒツジ……一一
ヤギ……一二
シカ……一二
トナカイ……一二
キリン……一二
ジヤカウジカ……一二
ラクダ……一三
アルパカ……一三
ラマ……一三
第二類雜食類……一三
ヰノシシ……一三
ブタ……一四
カハウマ……一四
第四目長鼻類……一四
ザウ……一四
マンモス……一五
第五目鯨類……一五
セミクヂラ……一五
ナガスクヂラ……一五
イワシクヂラ……一六
イルカ……一六
マツカウクヂラ……一六
サカマタ一名シヤチ……一六
ウニコール……一六
ジユゴン……一七
第六目齧齒類……一七
子ズミ……一七
ノウサギ……一七
カヒウサギ……一七
エチゴウサギ……一八
リス……一八
ムササビ……一八
カイリ……一八
ヤマアラシ……一八
モルモット……一八
第七目翼手類……一九
カウモリ……一九
オホカウモリ……一九
第八目食蟲類……一九
モグラモチ……一九
カハネズミ……二〇
ハリ子ズミ……二〇
第九目貧齒類……二〇
センザンカフ……二〇
アリクヒ……二〇
アルマヂロ……二一
ナマケモノ……二一
第十目有袋類……二一
オホカンガルー……二一
コモリ子ズミ……二二
第十一目單孔類……二二
カモノハシ……二二
ハリモグラ……二二
第二綱　鳥類……二二
第一目猛禽類……二三

ワシ……二三
タカ……二三
トビ……二三
コンドル……二四
フクロフ……二四
ミミヅク……二四
第二目攀禽類……二四
キツツキ……二四
ホトトギス……二五
クワクコウ……二五
アフムとインコ……二五
第三目鳴禽類……二六
ツバメ……二六
ヒタキ……二六
セキレイ……二六
ヒバリ……二六
ミソサザイ……二七
モズ……二七
ヤマガラ……二七
シジフカラ……二七
ヒガラ……二七
カラス……二七
ムクドリ……二八
メジロ……二八
ゴジフカラ……二八
スズメ……二八
ニウナイスズメ……二八
ツグミ……二八
ウグヒス……二九
カナリヤ……二九
アマツバメ……二九
ゴクラクドリ……二九
ヨタカ……二九
ハチドリ……三〇
イスカ……三〇
カハセミ……三〇
第四目鳩類……三〇
イヘバト一名ドバト……三一
カハラバト……三一
キジバト……三一
アチバト……三一
第五目雞類……三一
ニハトリ……三一
シチメンテウ……三二
クジヤク……三二
キジ……三二
ヤマドリ……三二
コウライキジ……三三
ウヅラ……三三
ライテウ……三三
ホロホロテウ……三三
第六目渉禽類……三三
タンチヤウヅル……三三
マナヅル……三四
コフノトリ……三四
シラサギ……三四
ゴヰサギ……三四
シギ……三四
クヒナ……三五
バン……三五

オホバン……三五
チドリ……三五
ミヤコドリ……三五
第七目游禽類……三五
カモ……三五
アヒル……三六
チシドリ……三六
ガン……三六
ガテウ……三六
ハクテウ……三六
ウ……三六
ペリカン又ガランテウ……三六
カイツブリ……三七
ペンギン……三七
カモメ……三七
アハウドリ……三七
第八目走禽類……三八
ダテウ……三八
レア……三八
ヒクヒドリ……三八
エミウ……三八
キヴ井……三八
第三綱　爬蟲類……三九
第一目龜類……三九
イシガメ……三九
スツポン……三九
アヲウミガメ……三九
アカウミガメ……四〇
タイマイ……四〇
第二目蜥蜴類……四〇
トカゲ……四〇
カナヘビ……四〇
オホトカゲ……四一
カメレオン……四一
ヤモリ……四一
第三目鰐類……四一
ワニ……四二
第四目蛇類……四二
アヲダイシヤウ……四二
シマヘビ……四三
ヤマカガシ……四三
ヒバカリ……四三
マムシ……四三
ハブ……四三
メガ子ヘビ……四三
ガラガラヘビ……四四
エラブウナギ……四四
ニシキヘビ……四四
ウハバミ……四四
第四綱　兩棲類……四四
第一目無尾類……四四
トノサマガヘル……四五
アマガヘル……四五
イボガヘル……四五
カジカガヘル……四五
ヒキガヘル……四五
アカガヘル……四六
ウシガヘル……四六
第二目有尾類……四六
井モリ……四六

ハコ子サンセウウヲ……四六
オホサンセウウヲ……四七
第五綱　魚類……四七
第一目硬骨類……四七
第一亞目棘鰭類……四七
スズキ……四七
ムツ……四七
オホダヒ……四七
カサゴ……四八
アヂ……四八
サバ……四八
カツヲ……四八
マグロ……四八
サハラ……四九
コバンイタダキ……四九
アマダヒ……四九
アンカウ……四九
コチ……四九
ホウボウ……五〇
カナガシラ……五〇
ハゼ……五〇
トビハゼ……五〇
テツパウウヲ……五〇
ボラ……五一
アヲベラ……五一
ウミタナゴ……五一
トゲウヲ……五一
第二亞目軟鰭類……五一
タラ……五二
ヒラメ……五二
カレヒ……五二
第三亞目喉鰾類……五二
ナマヅ……五二
コヒ……五三
フナ……五三
タナゴ……五三
ヒガヒ……五三
キンギヨ……五三
ドヂヤウ……五三
サヨリ……五三
サンマ……五四
トビウヲ……五四
サケ……五四
マス……五四
アユ……五五
ニシン……五五
イワシ……五五
コノシロ……五五
ウナギ……五五
ハモ……五六
アナゴ……五六
ウツボ……五六
メダカ……五六
ハダカイワシ……五六
シビレウナギ……五七
第四亞目固顎類……五七
フグ……五七
ハコフグ……五七
ハリセンボン……五七
マンボウ……五八

第五亞目總鰓類……五八
タツノヲトシゴ……五八
ヤウジウヲ……五八
第二目軟骨類……五八
アヲザメ……五八
ホシザメ……五九
子コザメ……五九
シユモクザメ……五九
ナヌカザメ……五九
ノコギリザメ……五九
アカエヒ……五九
シビレエヒ……六〇
ガンギエヒ……六〇
第三目硬鱗類……六〇
テフザメ……六〇
第四目肺魚類……六〇
セラトダス……六一
レピトサイレン……六一
プロトプテラス……六一
第五目圓口類……六一
ヤツメウナギ……六一
メクラウナギ……六二
被囊類……六二
ホヤ……六二
第二門　節足動物……六二
第一綱　昆蟲類……六三
第一目鞘翅類……六三
ミチシルベ……六三
ハンメウ……六三
ゲンゴラウ……六三
ガムシ……六三
ミヅスマシ……六四
コメツキムシ……六四
コクザウムシ……六四
タマムシ……六四
カミキリムシ……六四
トラカミキリ……六四
ホタル……六五
ハ子カクシ……六五
テンタウムシ……六五
マメハンメウ……六五
コガ子ムシ……六五
サルハムシ……六六
ウリバヘ……六六
カツヲブシムシ……六六
第二目鱗翅類……六六
第一亞目蝶類……六六
アゲハノテフ……六六
キアゲハ……六六
モンシロテフ……六六
キテフ……六七
モンキテフ……六七
コノハテフ……六七
イチモジセセリ……六七
カヒコ……六八
サクサン……六八
ヤママユ……六八
クスサン一名
クリケムシ……六八
テグスガ……六九
ズ井ムシ一名
メイチユウ……六九

ヨタウムシ……六九
ネキリムシ……七〇
クハエダシャク……七〇
ハマキムシ……七〇
ミノムシガ……七〇
イガ……七〇
セスヂスズメ……七〇
スカシバ……七一
第三目膜翅類……七一
ミツバチ……七一
アシナガバチ……七一
ヤドリバチ……七一
ヂナガバチ……七二
アリ……七二
モツシヨクシバチ……七二
第四目雙翅類……七二
イヘバヘ……七二
シマバヘ……七二
サシバヘ……七三
カヒコノウジバヘ……七三
アブ……七三
ウシアブ……七三
ノミ……七四
ヱリウジカガンボ……七四
カ……七四
ハマダラカ……七四
ツエツエバヘ……七四
ハナアブ……七四
シホヤアブ……七五
第五目半翅類一名有吻類……七五
クサガメ……七五
タガメ……七五
ナンキンムシ……七五
セミ……七六
アリマキ……七六
ウンカ……七六
ヨコバイ……七六
カヒガラムシ……七六
エンジムシ……七七
フジノアブラムシ……七七
シラミ……七七
イボタラフムシ……七七
アメンボウ……七七
第六目脈翅類……七七
トンボ……七八
カゲロフ……七八
ウスバカゲロフ……七八
クサカゲロフ……七八
シロアリ……七九
第七目直翅類……七九
イナゴ……七九
バッタ……七九
キリギリス……七九
コホロギ……八〇
スズムシ……八〇
マツムシ……八〇
ケラ……八〇
カマキリ……八〇
ゴキブリ……八〇
第八目彈尾類……八一

シミ……八一
第二綱 蜘蛛類……八一
第一目眞正蜘蛛類……八一
ヂヨラウグモ……八一
ハヘトリグモ……八二
トタテグモ……八二
アリグモ……八二
第二目節腹類……八二
サソリ……八二
メクラグモ……八三
アトヒザリ……八三
第三目壁蝨類……八三
ダニ……八三
アカムシ……八三
ヒゼンノムシ……八三
ニキビムシ……八四
カブトガニ……八四
第三綱 多足類……八四
ムカデ……八四
ゲジゲジ……八四
ヤスデ……八五
第四綱 甲殼類……八五
第一目胸甲類……八五
イセエビ……八五
クルマエビ……八六
シバエビ……八六
サクラエビ……八六
ヤドカリ……八六
カザミ……八六
ベンケイガニ……八七
ヘイケガニ……八七
タラバガニ……八七
タカアシガニ……八七
アミ……八七
シヤコ……八八
第二目節甲類……八八
フナムシ……八八
ワラヂムシ……八八
キクヒムシ……八八
エラムシ……八八
トビムシ……八九
第三目切甲類……八九
カメノテ……八九
エボシガヒ……八九
フヂツボ……八九
サツクリナ……八九
テウ……八九
レルネア……九〇
ホウネンギヨ……九〇
ミヂンコ……九〇
第三門 軟體動物……九〇
第一綱 頭足類……九一
第一目二鰓類……九一
マダコ……九一
イヒダコ……九一
タコブ子……九一
マイカ……九一
ヤリイカ……九二
スルメイカ……九二
ホタルイカ……九二

第二目四鰓類……九二
アフムガヒ……九二
第二綱 腹足類……九三
第一目有肺類……九三
カタツムリ……九三
ナメクヂ……九三
モノアラガヒ……九三
第二目前鰓類……九三
タニシ……九四
カハニナ……九四
ウミニナ……九四
ヘビガヒ……九四
ツメタガヒ……九四
タカラガヒ 一名コヤスガヒ……九四
ホラガヒ……九五
アハビ……九五
トコブシ……九五
サヽエ……九五
ヤクワウガヒ……九五
アカニシ……九六
サラガヒ……九六
第三目後鰓類……九六
アメフラシ……九六
ウミウシ……九六
第四目有板類……九七
ヂイガセ……九七
第四綱 斧足類……九七
第一目有管類……九七
ハマグリ……九七
アサリ……九八
マテガヒ……九八
シヤコ……九八
シジミ……九八
第二目無管類……九八
カラスガヒとドブガヒ……九八
イガヒ……九九
ヒミズガヒ……九九
タヒラギ……九九
アコヤガヒ……九九
ホタテガヒ……九九
カキ……100
第四門 蠕形動物……100
第一綱 環蟲類……100
ゴカイ……100
ケヤリムシ……100
セルプラ……100
ミミズ……101
イトミミズ……101
イヨウビル……101
第二綱 圓蟲類……101
カイチユウ……101
ゲウチユウ……101
ジフニシチヤウチユウ……102
センマウチユウ……102
第三綱 扁蟲類……102
ウヅマキムシ……102
カウガイビル……103
ヂストマ類……103
肺臟ヂストマ……103
肝臟ヂストマ……103

カンテツ（肝蛭）……一〇三
ミゾサナダ……一〇四
カギナシサナダ……一〇四
カギサナダ……一〇四
第五門 棘皮動物……一〇四
第一綱 海膽類……一〇四
ウニ……一〇四
マグソガゼ……一〇五
タコノマクラ……一〇五
キキヤウガヒ……一〇五
第二綱 海星類……一〇五
ヒトデ……一〇五
モミヂガヒ……一〇五
イトマキヒトデ……一〇六
クモヒトデ……一〇六
第三綱 沙噀類……一〇六
ナマコ……一〇六
キンコ……一〇六
第四綱 海百合類……一〇七
ウミユリ……一〇七
ウミシダ……一〇七
第六門 腔腸動物……一〇七
第一綱 珊瑚類……一〇七
第一目八射類……一〇八
アカサンゴ……一〇八
モモイロサンゴ……一〇八
シロサンゴ……一〇八
イソバナ……一〇八
ウミマツ……一〇九
ウミエラ……一〇九
ウミヤナギ……一〇九
ウミサボテン……一〇九
第二目六射類……一〇九
イソギンチヤク……一〇九
ミドリイシ……一一〇
クサピライシ……一一〇
キクメイシ……一一〇
ピハガライシ……一一〇
第二綱 水母類……一一〇
ミヅクラゲ……一一一
タコクラゲ……一一一
ビゼンクラゲ……一一一
ヒドラ……一一一
カヤ……一一二
カツチノエボシ……一一二
第七門 海綿動物……一一三
ユアミカイメン……一一三
ウミヘチマ……一一三
カイラウドウケツ……一一三
ホツスガヒ……一一三
イソカイメン……一一三
タウナス……一一四
マミヅカイメン……一一四
第八門 原始動物……一一四
第一綱 纎毛類……一一四
ザウリムシ……一一四
ツリガ子ムシ……一一四
ラツパムシ……一一五
第二綱 鞭毛類……一一五
ヤクワウチユウ……一一五

ミドリムシ……一二五
トリパノゾーマ……一二五
第三綱 胞子蟲類……一二六
プラスモヂウム……一二六
ビリユウシチユウ……一二六
第四綱 根足類……一二六
ハウサンチユウ……一二七
イウコウチユウ……一二七
アメーバ……一二七
動物界の分類表と
各綱目の通性……一二八
現行の狩獵法施行規則に
て狩獵し得べき鳥獸一覽
表……一六三

新式動物界攬要（動物五百種の表解）目次終

新式

動物界攬要（動物五百種の表解）

博物教材研究會編纂

第一門　脊椎動物

第一綱　哺乳類

第一目　猿類

サル

四肢皆手の用をなす、前肢は後肢より長し、扁爪あり、拇指は短く他指と向き合ひよく物を握む、身長二尺許全身に暗褐色の毛を生ず、頰嚢と尻だこと一寸許の尾とあり、琉球、北海道、對馬、樺太には産せず

シヤウジヤウ　ボルネオ島の海岸低濕地の森林に棲むスマトラ島には少し、身長四尺五寸顏面は稍鉛色にして毛なく體には赤褐色の長毛あり、頰嚢と尻だこと尾とを缺く

クロシヤウジヤウ　チンパンジーといふ、西阿弗利加ギニアの內なるカマロン地方及佛領コンゴーに產す、身長四五尺全身には黑色の疎毛を生ず、よく人に馴れ諸藝を演ずべし

オホシヤウジヤウ　ゴリラといふ、西阿弗利加の佛領コンゴーの內なるガブウン河附近の森林に棲む、身長五六尺體重四十八貫に達するものあり、骨骼逞く性質暴し

テナガザル　シヤム、ビルマ、スマトラ、ジヤバ等に產す、七種位あり、身長三尺體軀と四肢とは細長く前肢は極めて長し尻だこを有すれども頰嚢と尾とを缺く

ヲナガザル　阿弗利加印度南洋諸島等に產す三十種位あり、體軀は倭小にして尾は甚だ長し大なる頰嚢と尻だことを有す

ヒヒ　エジプト、アビシニア、アラビアに產し地上に棲む、口吻突出し大なる尾あり、頰嚢と尻だことを有す、牡は頰と胸とに長毛を生ず、果實などを食ふ

テングザル　ボルネオ島の河邊の樹上に大群をなして棲む、鼻は人類のそれに類し尚人のよりも高し

ヲマキザル　南米ペルー、ブラジル等に產す、身長一尺許體は橄欖色、尾は其の全周に毛を生じ先端はよく屈撓す

クモザル　ブラジル、ペルー等に產す、兩肢共に細長く行歩極めて遲し、尾は身長よりも長し、昆蟲を食ふ

キツネザル　レムウルといふ、主としてマダガスカル島に產す、口吻は狐の如く突出し尾も亦狐の如き形狀をなして長く多毛なり、耳殼と眼とは大なり、果實小蛇鳥昆蟲等を食す

第二目　食肉類

第一亞目　裂脚類

ネコ　埃及東北部に棲めるヌビア猫より出でたりといふ、頭圓く頰には咬筋發育し舌の表面にはワサビオロシの如き無數の突起ありて骨片につける肉片を舐めるに適す、前肢には五指後肢には四趾あり爪は出沒自在なり、瞳孔は正午は針狀にして夜間は正圓なり、盜心あるは害なれども捕

鼠の效あり、皮は三味線の胴を張り摩擦電氣を起すに用ゆ

シシ

東部阿弗利加に多し又ペルシア、アラビアにも產す、牡は頸の周圍に鬣あり、牝は鬣なく牡よりは四分一小形なり、體毛は短く帶黃褐色にして上體は下部よりも稍濃く沙漠の色と一致す所謂保護色をなす

トラ

體色は枯草色の地に暗黑色の橫條あり叢藪中の草の影に似て保護色をなす、身長五六尺尾は三尺ありアムールを最北限としスマトラ、ジャバ、バリを最南限とし東は樺太西はジョルジアまでの亞細亞特產のものなり但セイロン、ボルネオ島には產せず、猪鹿の類を食ふ

ヘウ

體は輝ける黃褐色にして暗褐色若くは暗色の斑紋を列生し木葉の影に紛れ易し、身長三尺數寸乃至四尺數寸尾は二尺乃至三尺あり阿弗利加アラビヤ、ペルシヤ、印度支那、ジャバ、スマトラに產すれども、ボルネオ島には產せず、猪鹿野生の鷄を食ひまた犬を好みて食ふ

アメリカトラ

中央亞米利加よりブラジルに產す、體色はヘウの如くで主に淡褐色其の中に二三重の輪黑斑あり性兇猛なり

イヌ

祖先は狼なりといふ、口吻は前方に突出す、舌にはワサビオロシ狀の突起なく皮膚には汗腺なく爪は出沒することなし、皮は大鼓、鼻緒、防寒用具等とす、エスキモー人と支那の貧民は犬肉を食ふ、使役用及愛翫用となる

オホカミ

露佛國中央アジア西比利亞樺太北海道に產するが內地には棲まず、形狀毛色は狐に似たるが額は反つて廣し其の性兇猛なり

ヤマイヌ

本邦支那に產す犬より大きく瘠形で耳は聳へ口は大きく裂け四肢は細長く全身灰色或は薄茶色なり人畜を害す

キツネ

毛色は暗赤褐色で腹部は灰白色なり尾毛は叢生す鼠蛙鳥類を食ひ家禽を掠む、淡路沖繩諸島對島には棲まず

タヌキ

東亞細亞、本邦の特產なれども沖繩諸島小笠原島豆南諸島及樺太には棲まず體は肥滿し吻端は尖り尾は割合に短く四肢は短し毛色は頰と尾端は黑く其他は暗褐色と淡黑色の毛を混ず野鼠を食ひ有益なり毛皮は防寒具等とす

マダラオホカミ

ハイエナといふ阿弗利加のナイル地方アラビヤ、ペルシア等に産す、頸には鬣あり後肢は前肢より短く體は後方にて垂下す、爪は地を堀ろに適す、屍肉を食ひ時には牛馬を攻撃す

マングース

印度支那臺灣等に産す二十種もあり口吻は鋭く尖り體は細く屈撓し易く四肢は短し　好んで鼠や毒蛇を喰ふ

イタチ

體は細長く四肢は短小にして五趾あり毛色は赤褐色にして體下は純白色なり肛門腺より惡臭を出す魚類家禽鶏卵を食へども捕鼠の効果は甚大なり、身長一尺許毛皮は襟卷、下駄の鼻緒等とし毛を筆毛とす

テン

田舍の舊墟樹上に棲み鳥卵鼠などを食ふ、夏毛は黒黄色にして鼻端と四肢の下面とは黒し

ラッコ

體形カハウソに似たれども頭は小さく胴は肥大し柔軟にして光澤ある暗褐色の綿毛を以て被はる前肢は小さく後肢は強大にして後方に向ひ鰭狀をなし趾間に蹼を張り且曲爪あり、北海道、千島列島のウルツプ、ウシリ、スレート島附近、樺太の海中及北太平洋に産す

河畔池沼の邊に穴居し夜間出でて魚類を貪食す、身長二三尺尾は一尺位あり、體は長く四肢

カハウソ

は短く各肢には五趾あり、趾間には蹼を張り尾は長く扁平で舵の如く作用す毛皮は外套の襟袖口、防寒具とす本邦北亞細亞歐洲に産す

スカンク

北米に産す、身長は尾を除いて一尺五寸あり尾は長く長毛を密生す、體色は黒く一條の白色條あり尾には幅廣き白色の二縱條あり他より容易に識別せられ所謂警戒色をなす、肛門腺より惡液を出す蝗蟲甲蟲を食す

アナグマ

體はタヌキ大なり、外觀タヌキに似たれども稍肥へ尾は左程長からず山間に穴居す、毛皮は防寒用とす

クロクマ

本州四國朝鮮臺灣支那ヒマラヤ等に産す、體は肥大し尻の方は急に刮げ尾は短し、口吻は稍鈍く頭は大きく圓く額は廣く耳殻は小さく眼も小なり、胸邊にY字形の純白斑(月の輪)あり桑實栗實イチゴ魚類蟻蜂蜜等を食ふ

ヒグマ

北海道、千島、樺太、西比利亞、カムチヤツカ、ノルウエー、露國に産す、全體褐色にして肩より胸にかけて長き白斑あり

シロクマ　北極熊といふ、千島より北極地方に產す、體毛は少しく黃色を帶べる銀白色なり、毛は密生し蹠にも長毛を生す

第二亞目　鰭脚類

オットセイ　北太平洋に產す北米合衆國領プリビロープ諸島露領コンマンダア諸島我樺太の海豹島は北太平洋に於ける有名なる繁殖場なり西曆千九百十一年英米日露間にオットセイ保護條約を結び少くも向ふ十五ヶ年間北緯三十度以北の太平洋海にて該獸の海上漁獲を禁止せり、體は紡錘形四肢は鰭狀五趾を有し、趾間に蹼を張り爪は連結す、身長五六尺、極めて小なる耳殼あり、潮流を追ふて洄游す、毛皮は諸種の衣服帽子などに使用して、ラッコの代用とす

アシカ　北太平洋に多きが本邦沿岸にも群棲し殊に千島に多し大なるは牛大なり小形の耳殼あり、毛皮は防水用具とす

アザラシ　本州の東北海、北海道千島其他北太平洋に棲む、頭圓く耳殼なし、胴は後方に狹く尾は短し四肢鰭狀なり、身長五六尺體には剛き帶黃灰色の毛を生じ帶褐黑色の豹に似たる斑紋あり毛皮は雨具敷物とし脂肪は燈用機械用とす

セイウチ　オランダ語より出でたりといふ、北氷洋の沿岸に大群をなす、身長一丈二尺に達するあり全體面に褐色の毛を疎生す、上顎より二尺數寸もある犬齒が下方に突出す之れにて氷を破り岩角に攀ぢ上り又貝類を堀るに用ゆ

第三目　有蹄類

第一亞目　奇蹄類

ウマ　頸は長く鬣あり門齒は大きく鑿狀にして其の咀嚼面には橫斷せる卵形の凹凸あり其數は兩顎共に六枚宛あり犬齒は牡にのみあり犬齒と臼齒との間には隙間ありて沓輪を入るべし、臼齒は兩顎共に十二枚宛あり咀嚼面には凹凸あり、凸部は琺瑯質より成り凹部は齒質と白堊質とより成る、四肢は細長く第三趾のみ地につき蹄あり、脛と見ゆるは實は踵なり、馬には膽嚢なし使役用となる外、毛蹄骨など夫々用途あり

ウサギウマ　馬より小さく頭は割合に大きく額とこめかみとに毛あり耳長し

シマウマ　南阿弗利加に産す帶黄白色の地に黒色の斑條ありこれは同類相識る爲めの彩色ならんといふ

サイ　體軀肥大、頸は短く頭は稍三角形をなす、體は暗灰色でヒダは幾重にも深く刻まる、兩肢共に發育せる三趾ありてこれには圓蹄あり、阿弗利加スマトラ馬來ボルネオ産のものは二角を有し印度ジヤバ産は一角なり　角は頭骨に關係なく單に皮膚によりて固着するのみ、陰鬱なる密林泥濘地を徘徊し木の新芽及果實を食ふ

バク　上唇は吻狀に長く突出し屈伸自在なり、前肢には四趾を有し其中の一趾は地を踏まず後肢には三趾あり、馬來半島スマトラ南米ボルネオに産す南米産のものには鬣あり、密林の濕地に棲み草木の葉果實を食ふ、皮は靴等とす

第二亞目　偶蹄類

第一類　反芻類

頭には二本の角ありこれは前頭骨より突起せる骨心より成り其の上を被へる中空の角質の鞘あり、四肢は短く其の脛と見ゆるは趾骨なり第三第四趾は地につき蹄あり、上顎には門齒及

ウシ　犬齒なし下顎には八枚の門齒あれども犬齒なし、臼齒は兩顎の一側に六枚宛あり表面は凹凸多く碾臼の如く働く、胃は四囊より成る第一胃は瘤胃といひ内容は二斗内外あり第二胃は蜂巣胃といふここより食物を口に吐き出し幾十回も咬み液體として呑むと第三胃の重瓣胃を經て第四胃の皺胃に入り小腸大腸を經て消化せらる、使役用とし肉乳汁脂肪骨蹄は夫々用途あり印度にては糞を燃料とす

スヰギウ　野生はヒマラヤ山麓印度ガンガ河等の濕地に棲み臺灣南支那印度北阿弗利加南歐洲にては飼育す水に入るを好む

カモジカ　角は黒く五寸許少く後曲す體には灰黒色若くは褐色の毛あり皮は敷物とし絨毛は毛布織とし肉は食用とす

ヒツジ　廿餘種あり有角種の角の先端は、螺旋狀に彎曲す羊毛は長さ一二寸乃至一尺六寸位で纎維は管狀且無數の鱗片を有し接觸すれば縮むを以て壓搾して毛絲とし羅紗毛布フランネル等とす皮は書籍の表皮靴甲とし肉乳汁は食用とす

ヤギ
牡は顎下に髭を有す、角は眼上より生じ直立して後方と外方とに曲る、毛は織物とす、皮の用途羊と同じ

シカ
幼獣の毛色は赤褐色にして白斑極めて鮮明なり親は牝牡共に夏毛は大體茶褐色にして白斑あれども冬毛にはなし牡は角を有す奈良春日社の鹿は毎年二月頃角落ち三四月頃蕈狀の「フクロヅノ」を生じ始め八月下旬より上を被へる皮が裂け始め九月中旬には角は全く骨質と變化す、ブナ、カシ、クリの果實カヤ、ススキの芽及樹枝を食ふ

トナカイ
歐亞北米の極地に棲む雪中を踏む爲めに第二乃至第五趾の四趾共に地につき趾端には裂けたる廣蹄あり、牝牡共に角あり、運搬用とす、皮は敷物衣服靴とす、肉乳汁は食用とす

キリン
赤道下の東阿弗利加に産す、高一丈八尺以上に達す頸長く四肢亦長し、牝牡共に二本の短角あり、體はクリーム色を帶びたる黄褐色にして暗黄褐色及帶褐黒色の斑紋あり赤色アカシア樹の幹に似て保護色をなす、舌甚だ長し

ジヤカウジカ
身長三尺牡の陰莖と臍との間に麝香を分泌する腺囊あり、樺太西藏支那の四川省雲南省ヒマラヤ山等に産す

ラクダ
中央亞細亞支那蒙古滿洲産のものは背上に二肉峰あり亞剌比亞印度北阿弗利加産のものには一肉峰ありこれは體内脂肪分の堆積せるものなり第一胃には二列に小巾着狀の水胞二三十も附着し凡そ六升位の水を容るべし、運搬用とす、長毛は毛布毛氈とす、肉乳汁を食用とす

アルパカ
南米ペルー、チリのアンデス山地の高峯に産す、形綿羊に似たれど頸長し、毛は軟く且長く毛織物とす

ラマ
南米アルヘンチナ國よりペルー國のアンデス山地方に産す、長頸長脚を有する羊の如く見ゆ運搬用とし、毛を用ふ

第二類　雜食類

ヰノシシ
上顎の犬齒は上方に屈曲す第二第五趾は地につかず、雜食するを以つて胃は單一にして腸は體長の三倍のみ、吻端を以て地を掘り起し作物を害す、蛇を食ひ殊に好んでマムシを食ふ、肉は美味なり

ブタ

亞細亞種はジャバ、スマトラ等に產する野猪の一種より馴らせる變種なりといふ、肉は脂肪に富む腿の肉はハムとす、脂肪は食用とす、皮は鞣して靴、馬具、革嚢、折鞄などとす、硬毛(白色)は刷毛用とす

カハウマ

中央阿弗利加の河湖に二三十疋許宛群居し晝間は水中に隱れ夜間出でて耕地を荒らす、身長一丈二三尺乃至一丈四尺、體は暗褐色にして顏鼻端尾端等に僅少の剛毛ある外體は殆んど裸出す兩肢共に四趾あり皆小蹄を有す

第四目　長鼻類

ザウ

上顎の門齒は象牙となりて突出す下顎には門齒なく兩顎に犬齒なし臼齒は兩顎の各側に一個宛あり其の表面には横隆起あり印度象のものは幅狹く二十七個あるが阿弗利加象にては幅廣く普通は十一個あり、象牙は櫛小箱類小刀の柄裝飾用品、球突の球とす、鼻は長く手の代用をなす其の先端には印度象にては一個阿弗利加象にては二個の指狀突起あり、印度象の耳殼は小さく阿弗利加象のは大なり、馬來半島產の象はサゴ椰子の新芽根芭蕉の實を食ひ夜群をなしてゴム園の苗を折り果樹園稻田野菜畑を一夜にて荒廢に歸せしむる害をなす

マンモス

洪積世に歐亞北米の北部寒地に棲みし化石象にして印度象に似て其の最大のものより少しく大なり六七寸乃至一尺もある黑の剛毛と暗褐色の波狀毛とを全身に被ふ牙は多少螺旋狀に曲り下方稍外方に向ふ其の長さ四米突に及ぶ、臼齒の咀嚼面の横隆起は狹く二十二個あり

第五目　鯨類

セミクヂラ

北太平洋に產す、頭は身長の三分の一以上あり、脊鰭なし胸鰭は水平につく、全身純黑色で腹は白く、體側は雲紋狀をなす、身長普通三丈乃至五丈、鬚は眞黑色なり油は其く白肉は旨く鯨類中で最も美味なり、多くクラゲを食ふ

ナガスクヂラ

北太平洋に產す、身長四丈乃至六丈八尺、頭は扁平にして尖り脊鰭も尖り且縱扁なり、胸より腹にかけて縱襞を有し全體は長き竹簀狀なり、鬚は黑白混交す、肉美なりアミの類イワシを食ふ

イワシクヂラ　北太平洋北太西洋に產す、身長二丈乃至四丈六七尺、全身黒く腹部は稍白く喉下には縱襞あり、鬚には黒白の縱縞あり、イワシ小蝦を食ふ、肉は不味にして油を採るに用ふ

イルカ　體形は魚形をなし身長五六尺より一丈六七尺に及ぶ、頭は小さく口吻は鋭るどく尖り兩顎には數十個の鋭るどき圓錐形の齒あり、齒には門犬臼齒の區別なくまた齒は一回生ずるのみにて乳齒と永久齒との區別なし、背には三角形の大なる脊鰭あり、魚類を食ふ肉は美ならず脂肪より機械油を採り皮は鞣して靴カバン類とす

マツカウクヂラ　北太平洋北太西洋に產す身長四五丈あり、頭は巨大にして體長の約三分の一を占む其前面は切斷せられたる方形なり下顎は伸長し其兩側には二十數本宛の圓錐形の齒あり油は良質なり額骨中より鯨腦と鯨腦油とを採る

サカマター名シヤチ　イルカに似て大なり身長二丈以上脊鰭は長く直立して倒戟の如し、齒は極めて太く大魚アザラシ、イルカ等を攻擊して食ふ、齒を入齒の材料とす

ウニコール　グリーンランドの海岸に多し身長一丈四五尺牡の上顎の左の犬齒は螺旋狀に捩れ、口外に出ることと八九尺に達す

ジユゴン　琉球印度洋濠洲等の沿海に棲む、クヂラと異り頸部判然し頭の前方に鼻孔あり海藻を食ふ

第六目　囓齒類

ネズミ　本邦には三十五種程あり門齒は兩顎に二枚宛あり前面にのみ琺瑯質あり絕えず成長す、犬齒なく門齒と臼齒との間に廣き隙間あり臼齒は兩顎の各側に三枚宛あり人の糞便喀痰を舐めペスト菌に感染して人に傳ふる媒介をなす。

ノウサギ　本州下野邊より以南、四國にも分布す毛色は一般に茶褐色に少しく灰色を混んじ一年中に變色することなし、耳殼と後肢とは長し、尾は極めて短し、森林耕地を害す、肉は食用とす。

カヒウサギ　地中海沿岸の歐洲及阿弗利加原產の一種の野兎を飼養せしものなり多くの變種を生じ愛玩用肉用毛用ののもあり。

エチゴウサギ　北歐洲西比利亞越後加賀仙臺奥州信州の北部西濃に產す夏毛は褐色なるが冬毛は耳の一部の外は全部白色に變ず。

リス　外觀は鼠に似て瘦形なり耳殼と眼とは大く動作敏捷にしてよく跳ぶ。

ムササビ　前肢と後肢との間の皮膚は延びて膜狀をなし之を擴げて樹木より斜に空中を落下し他樹に飛ぶ本邦の深山に棲む。

カイリ　カナダ佛國露國西比利亞樺太に產し湖河の水流を堰き止め堤を造り附近に巣を造り社會をなして棲む。

ヤマアラシ　西班牙伊太利北阿弗利加等に產す、身長三尺體には長さ四寸乃至八寸餘の長き棘毛を密生し一たび敵の攻擊に遇へば直立して栗毬狀に圓まり敵を防ぐ、棘は釣魚用のウキ、筆管等とす、伊太利にては肉を食ふ。

モルモット　原產地は南米なり名古屋地方にて盛んに飼育す耳と四肢は短く掌蹠は裸出し尾なし、醫學上實驗用とし又肉を食ふ。

第七目　翼手類

カウモリ　前肢の拇指以外の指骨は長く伸び飛膜あり、前肢の拇指にのみ鉤爪あり、蚊ブヨを食ひ有益なり。

オホカウモリ　小笠原島沖縄諸島屋久島臺灣等に產す。口吻は長く突出し前肢の拇指と第二指とに鉤爪あり、夜間出でてバナナ等を食ふ、飛び方は烏群に似たり、マングローブの樹林に晝寢せるものは遠く望むとトウの花と見紛ふといふ。

第八目　食蟲類

モグラモチ　地中に棲む、鼻端は錐狀に尖り頸は短く眼は毛皮中に隱る、耳殼なし。前肢の掌部は外後方へ向き土を左右に押し分るシャベルの用をなす、土壤を高く擡げて其の通路に當る作物の根を弛め畦畔に穴を穿つは害なれども ケラ、蝸牛、ナメクヂ、昆蟲を食ふは有益なり。

カハネズミ　池沼河畔に穴居す、鼻端は細く尖る。身長四寸六七分尾もこれと略ぼ同長なり。昆蟲蝸牛(マイマイ)等を食す。

ハリ子ズミ　歐洲中央亞細亞より北支那臺灣朝鮮に產す、身長七八寸體形モグラに似たり、背面一面に硬き鋭るどき長棘毛(チャウキョクマウ)を生じ敵に遇へば身を圓るめて栗毬(クリイガ)狀となりて防ぐ、鼠蛙蛇時に鳥卵を食ひまた植物果實を食ふ。

第九目(モク)　貧齒類(ヒンシルヰ)

センザンカフ　ヒマラヤ高原ビルマ南支那より臺灣に產す、體は狹長にして下面と四肢の內側とを除き全身には幅廣き三角形の鱗甲が覆瓦狀(フクガジャウ)に排列(ハイレツ)す、各趾には鉤爪あり、齒なく舌は細長にして唾液(ツバキ)は粘液に富み蟻(アリ)を食ふに適す。

アリクヒ　中央亞米利加及南米の熱帶地方に產す、口吻は筒狀に尖り舌は一尺餘もあり唾液(ダエキ)は粘(ネ)ばる、身長四尺に達す、蟻を食ふ。

アルマヂロ　產地アリクヒに同じ、數種あり、脊は數多の骨質小板より成れる甲(カフ)を被り其狀恰も鎧(ヨロヒ)を着たるが如し、危險に遇へば完全なる球狀となりて體を捲縮す、兩顎に若干の臼齒あれども齒根(ハノネ)及琺瑯質(ハウラウシツ)なし、土中に穴居す。

ナマケモノ　南米ギイアナ、ブラジルの森林に棲む、性懶惰(ランダ)にして常に鉤爪を以て倒に樹枝に懸垂し、夜出でて樹葉芽果實を食ふ、頭圓く猫に似たり前肢は後肢より長し、臼齒は上顎に五對下顎に四對あり。

第十目(モク)　有袋類(イウタイルヰ)

オホカンガルー　東部濠洲の平原に棲みて牧草を食ふ、頭は小く眼大く圓く耳殼は長く卵形で口吻尖る、牡(オス)は身長四尺以上尾は三尺あり前肢は短小にして靜止の時は胸部に懸垂す、後肢は長大強壯にして跳(ト)ぶ用をなす尾は第三肢の代用となる一產に一仔(シ)あり懷胎日數は三十九日にして生れたる仔(コ)は一吋(インチ)位盲目無毛半透明なり、之を牝(メス)の腹嚢中に入れて養ふ。

コモリネズミ　北米合衆國より南米智利ブラジルに到る地方に産す、仔は生れて五週間目には母の腹嚢を出で其の背上に乗り自分の尾を以て母の尾に絡み付きまた小爪を以て脊部にも縋り付く。

第十一目　單孔類

カモノハシ　東部及南部濠太利亞タスマニアに産す、嘴先より尾端までは一尺五六寸あり、鴨の嘴に似たる角質の嘴あり幼時に齒を失ふ、四肢共に五趾ありこれには鉤爪を有し以て穴を穿つまた蹼にても泳ぐ、小豆大の卵を産む。

ハリモグラ　濠洲及タスマニアに産す、體形ハリネズミに似て背面に鋭き長棘あり、吻は長く口小さく齒なし、山間に棲み砂を堀りたる穴などに棲む、卵を産むや直に牝の腹嚢に入れ孵化せば水飴のやうな乳汁にて養ふ。

第二綱　鳥類

第一目　猛禽類

ワシ　嘴端は鉤曲し翼は甚長く脚頗る強壯にして鉤爪あり、頭上には尖りたる羽を生じ羽毛の大部分は鳶色にして多少白色部あり、オホワシは翼長約二尺尾長一尺二三寸尾は後方に尖り十二枚の尾羽より成り白色なり、イヌワシはオホワシよりは少しく小形なり全身は尾と共に黑褐色にして尾の中央には不規則なる灰色帶あり。

タカ　小形乃至中庸大なりオホタカは翼長一尺内外あり、體の上面は灰黑色にして後頭部に白色部あり、尾の先端は白く四條の褐色の鷹斑あり、コノリ（雌をハイタカといふ）は翼長六寸乃至八寸體の上面は帶青石板色にして眉斑と後頸とは白色を帶ぶ、ノスリはトビに似て體の上面は褐色にして少しく紫色光澤あるが尾は叉狀をなさず、ハヤブサは翼長一尺許頭上黑く上面は灰蒼色にして下面は白く喉下には許多の黑條あり。

トビ　體の上面は褐色少しく紫光澤あり尾は叉狀をなす市中海濱にて屍肉鼠兎イタチの如き小動物を食ふ。

コンドル　南米の智利及秘露のアンデス山脈の九千呎以上の高所に棲む、全頭は裸出し皮は赤く皺多く雄には大なる肉冠あり頸の周圍には純白色の總狀をなせる大なる綿毛あり兩翼を擴ぐれば九尺に達す、老馬、幼牛、羊、鹿、犬、ラマ等を襲ふ。

フクロフ　頭圓く眼は顏の前面につき圓形にして大なり、顏の周圍には剛毛を射出し圓盤形なり、頭上に耳狀の羽なし。

ミミヅク　多くは頭上に耳狀に起立せる耳羽あり。オホコノハヅクは各地に普通なり羽毛はフクロフの如く暗褐色なり。フクロフと共に鼠を捕ふるを以て有益なり。

第二目　攀禽類

キツツキ　樹幹に縱に留る時尾にて體を支へる必要上尾羽は非常に硬く且楔狀なり、舌は長く其先端に小鉤を生じ樹幹內のテツパウムシ及キタヒムシ等を捕ふるに適す、嘴は錐の如く鋭し、アヲゲラは頭頂より頸に掛けて紅色で其他は橄欖綠色なり、他のキツツキと異りより多く木實を食ふ、アカゲラは大さツグミ位雄は頸に赤斑あり、コゲラは雀大なり、上部は濃橄欖褐色にして頭

は稍灰色を帶び背部には白色の橫線を有し翼には白斑あり。

ホトトギス　本州中部には三月上旬渡り來り十一月に去るハイタカ及ツミの如き小鷹類に似たる羽毛あり。胸腹は白く多數の黑色橫斑ありてこれは郭公のよりは太し、翼長五寸內外、ウメケムシ松ケムシ等を食ふ、鶯の巢に產卵す。

クワクコウ　前種より大く翼長七寸內外あり、胸腹の橫斑は細しモズ、キセキレイ等の巢に產卵す、クークーと鳴く。

アフムとインコ　亞細亞の熱帶地方(ジヤバ、馬來半島、スマトラ、印度、ボルネオ、交趾支那、ハルマヘラ群島、南支那) 阿弗利加、濠洲、マダガスカル島、南米メキシコ、中央アメリカに產す、數百種あり、アフムとインコとの區別は不明なり、嘴は大きく甚だしく彎曲す、足は短く二趾は前へ向ひ二趾は後に向ふ、嘴と足とで樹木を攀緣す、舌は多肉質でよく物眞似をなす、果實種子を食す、アフム、キバタン、桃色インコ、テンヂクバタン、セキセイインコ、オホハナインコ、オカメインコ、ダルマインコ、ゴシキセイガイインコ、コセイインコ、ロカケホンセイインコ等アリ。

第三目(モク)　鳴(メイ)禽(キン)類(ルヰ)

ツバメ　本州中部には三月下旬渡り來り九月下旬に去る、空中を飛びながら蟲を啄(ツイバ)む爲に嘴は著く扁平且幅廣くなり、口を廣く開くを得、翼は狹長にして稍鎌(カマ)狀なり、尾羽は叉(サ)狀なり脚は短く弱し尾羽は十二枚あり。

ヒタキ　樹枝に止りて尾を上下に動かし且カチ〳〵と聞ゆる音を出す故にこの名ありといふ。

セキレイ　濕地河邊にありて尾を振りつゝ餌を漁(アサ)る、嘴は細く鋭く飛ぶときは波狀を描(エガ)くキセキレイ脊黑(セグロ)セキレイ等あり。

ヒバリ　上體は淡褐色にして暗褐色の中央縦斑あり、頰(ホホ)と脇(ワキ)とには暗褐色の斑點あり足は丈夫にして地上を歩むに適し後趾の爪は長し、春季は嫩草(ドンサウ)を食するが多くは蠕蟲(ゼンチユウ)ザムシ昆蟲の幼蟲等を食ふ。

ミソサザイ　身長三寸許全身濃褐色にして暗褐色の細き横斑が密にあり、嘴は細長く尾は短く常に之を垂直に立て動作活潑なり。

モズ　頭大く嘴は强壯で上嘴は鷹の如く鉤(カギ)狀なり、根切蟲(チキリムシ)、夜盜蟲(ヨタワムシ)ケラ等の昆蟲類を食す。

ヤマガラ　身長四寸五分脊の上部と下部とは栗色なり、籠の中を宙返(チウガヘ)りして飛び廻り人に馴れ易くよく藝を仕込むべし。

シジフカラ　小形の鳥なり、上部は蒼灰色頸部肩は黃色を帶ぶ頰には大なる白色圓斑あり、よく樹枝面にある貝殼蟲(カヒガラムシ)を食す。

ヒガラ　前種に似れども體は殊に小さく頭の羽毛は冠(カンムリ)狀に直立し後頭に大白斑あり頸部には黃色の部分なし。

カラス　嘴は強く太く脚は丈夫なり、麥ソラマメの實を啄み蒔(マ)きたる種子を食しアヒルの雛(ヒナ)を奪ひ漁場を荒らす。

ムクドリ　頭は黑く上體は灰褐色下部は白く嘴と脚とは黃色なり地上にありてよく走る常に群居しムク及センダンの果實を食ひ冬季稻の切株中に潜めるズイムシを多く食ふ。

メジロ　身長三寸七八分上部は黃色を帶びたる橄欖綠色にして眼の周圍には白環あり、櫻椿の花蜜及小蟲を食ふ。

ゴジフカラ　嘴は太く長く尖り丈夫なり尾は極めて短し上部は蒼灰色下部は白く眼を過ぐる線は太く且黑し樹木の周圍を旋り且上下する性あり故にまたキマハリともいふ。

スズメ　嘴は圓錐形にして短く太く頸背は栗褐色なり、頰に白斑ありて其の中央には大なる黑斑あり、雛を育つる間は昆蟲を食すれども秋季は禾穀を啄み害をなす、本邦各地より英國に到るまで所謂舊北區に產す。

ニウナイスズメ　大さも羽色もスズメに似たれども上部は美しき栗色にして翼と尾は黑く頰には黑斑なく美しき白色なり、內地、臺灣、北支那に產し大群をなして麥畑を害す。

ツグミ　亞細亞の北東部にて蕃殖し秋季我邦に渡來し主として昆蟲類を食ふ、肉を麴漬燒鳥とす石

川、岐阜、富山縣にて多獲す。

ウグヒス　上部は綠色を帶びたる橄欖褐色下部は不純なる白色なり京都以西は三月上中旬群馬、富山縣は三月下旬其他は四月に入りて法華經の鳴聲を聞くといふ。

カナリヤ　原產地はカナリヤ島なるが今は飼鳥として世界到る處にて蕃殖す、全身黃色で所々に黑斑を交ふるものあり。

アマツバメ　燕狀の鳥にして翼は甚だ長く尾は燕の如く叉狀をなせども尾羽は十枚あり尾の根元は白し、一種金絲燕は南支那の沿岸ジヤバ、モロツコ、フヰリツピン等に產す唾液を固めて巢を造る之を燕窩といひ食用とす。

ゴクラクドリ　ニユーギニー及附近の島に產し七十種許あり、全體の大さ形狀習性はカケスによく似たり、雄の胸側にある美しき長き羽束より成れる飾羽は艷美なり、一に風鳥ともいふ。

ヨタカ　口腔は廣く上嘴の緣邊には剛毛あり眼は暗褐色にして大くよく暗所をも見るべし、昧爽及黃昏に蚊を食とす。

ハチドリ　主として亞米利加の南部に產し約五百種あり、大なるは燕位小なるは土蜂(ドバチ)大なり嘴細し、羽毛は金屬光澤を帶び最も普通なるは綠色なり、昆蟲花蜜を食とす。

イスカ　雄は全身稍黃味を帶びたる赤色にして翼及尾は黑く暗褐色の緣(フチ)を有す、雌は暗黃色にして頭背と胸とには暗褐色の斑點を有す、上下の嘴喰(ク)ひ違(チガ)へり其の松の實を食ふや先づ嘴を開き兩顎の尖端を同じ平面に位する樣になして之を松實の鱗片の下に橫に差し込みたる後不意に頭を橫に動かすときは鱗片は直ちに破れて種子を露出するを以てこの時舌を出し之を食ふなり、松林に棲む。

カハセミ　嘴は伸直にして尖り長大强壯なり上體面は瑠璃(ルリ)色にして濃く下面は赤茶色なり川邊に靜止し魚の浮び來る者を食ふ。

第四目(モク)　鳩(ハト)類(ルヰ)

イヘバト一　嘴細く軟く先端のみ硬く且屈曲し嘴の基部に開ける鼻孔は肉質の鱗片を以て被はる、脚は短く赤色にして三趾は前向し一趾は後向す、雌雄交代して抱卵し雛を養ふに嗉囊(エブクロ)より分泌する乳樣

名ドバト　液を以てす、大胸筋はよく發育し全筋肉の重さの約五分の一を占む、傳書鳩は古巣に歸來する性最も强きを利用して通信用となせるものなり、其速力は平均一分一キロ米突(メートル)一日の飛翔力は二百五十里乃至三百里に及ぶ、軍用としてリエジユ種とアントワアプ種等あり。

カハラバト　暗黑色の鳩にして頸は金屬綠色の光澤を帶び肩及腰は淡灰色なり。

キジバト　羽色は雌雉に似て頭頸胸は葡萄鼠色にして頸側に黑色と灰青色の鱗狀の斑紋あり、針葉樹の種子を好む。

アヲバト　頭頸體の下面は黃綠色にして頸以下の背面は濃綠色なり、鳴聲尺八(シヤクハチ)を吹くが如し、各地の山中に極めて普通なり。

第五目(モク)　雞(ニハトリ)類(ルヰ)

ニハトリ　野生の原種は印度、馬來半島、スマトラ、交趾支那、ジヤバ等に棲息するヤドリに似たる赤色野雞なり、體軀肥大頭には肉冠あり、嘴は短直强壯なり、脚は强健にして塵芥(ジンカイ)土砂を搔(カ)きあ

ばく性あり、肉卵を食用とす。

シチメンテウ　北米の原産にしてオハイオ、ケンタツキー、イリノイス、ミシシツピ河オハイオ河附近の森林に棲む、肉美好なるを以て各國にて飼育せらる、面色は青赤、乳白、薄紫色などに變化す、雄は尾羽を扇狀に擴げて雌に媚を呈す。

クジヤク　尾と見ゆるは眞の尾羽にあらずして尾羽の上を覆へる羽なりこれには綠藍色等の混ぜる眼狀紋あり、印度、ビルマ、シヤム、交趾支那、ジヤバ、馬來等に產するマクジヤクは大形にして體は綠色に光る頭頂の冠羽はスポンで細長い羽より成り翼に白色部なし、印度產の印度クジヤクは前種より小さく體は藍色に尖る、冠羽は半開の扇狀をなし羽は先端のみに生ず、原產地にては耕地を荒らす。

キジ　本州四國九州の山地に棲む大さ略ぼ雞位なり、雄は頭部胸部腹部は綠色にして金屬光澤あり雌の頭の上部は茶褐色にして黑色及赤褐色の斑紋あり、食物は植物質の外昆蟲蠕蟲を食ふ。

ヤマドリ　產地はキジと同じ體は幾分かキジより大なり、雄は全身赤黃色にして少しく赤黑色の斑紋を有し金屬光澤あり尾は長し、雌の羽色は暗色にして光澤なく尾は短し、食物は動植物なり。

コウライキジ　朝鮮對馬に產す、頸に白色の輪あり。

ウヅラ　頭頂と頸とは暗褐色なり上體は赤褐色にして淡黃褐色三角形をなせる中央縱線を有す、翼は圓ろく短し、肉は美味にして卵も賞用せられ鳴聲を愛でて籠鳥とす。

ライテウ　本州にては信飛越甲信地方の諸高山の偃松中に棲む、鳴聲は恰も雷鳴の如し、夏羽は腹羽脚毛等の外は黑褐色なれども冬羽は尾羽と下眼瞼の下部とは黑く其他は純白色にして所謂保護色をなす、昆蟲嫩芽果實を食す。

ホロホロテウ　頭小さく黃褐色兜狀の冠と喉下には左右一本宛の肉垂あり北阿弗利加原產なり卵肉を食用とす

第六目　涉禽類

タンチヤウヅル　東洋特有の鳥なり體は全部白く翼端は黑く尾は短く白く頭頂は赤し豆類根菜類水草昆蟲蚯蚓介類蛙小魚を食す。

マナヅル　東洋特有の鳥なり體は鼠色にして頸の兩側は白く眼の周圍に大なる赤色の裸出部（ケノナイトコロ）あり脚は桃色なり。

コフノトリ　鶴よりは寧ろサギに近し、全體は純白色にして肩などは金屬光澤を帶べる黑色なり、嘴は黑く先端淡（ウス）く下嘴の下面は赤し嘴を打ち合はせて大音を連發す三趾は前向し其の基部に膜（マク）あり後趾はよく發達して地につく然るに鶴の後趾は地につかず、朝鮮地方に多し普通樹梢（ジシヤウ）に高く巢を營む然るに鶴は地上に造巢す。

シラサギ　全身純白色にして脊より尾端まで達せる美しき蓑毛（ミノゲ）を生ず之は禮帽等の裝飾品となる水田に入りて蟲類魚類を食ふ。

ゴ井サギ　頭上後頭脊肩（セカタ）は光澤ある帶綠黑色にして顔と體の下面とは白し夜出でて奇怪なる聲で鳴く、魚類を害す。

シギ　嘴は細長し之を土中に挿入して蚯蚓（ミヽズ）等を捕ふ、趾長く且膜を有するを以て柔軟なる地上を歩き易し。大群をなして北地より渡來す、タシギ、ヤマシギ、タマシギ等あり。

クヒナ　體の上部は橄欖褐色（カンランカツ）なり腹は蒼灰色にして喉（ノド）は白く脇（ワキ）に黑帶を有す、翼は短く圓（マル）し體扁平なるを以て巧に叢中を潛行す河邊の雜草中湖沼の泥濕（デイシツ）なる地水田等に棲みて走行極めて迅速なり。

バン　體は灰黑色嘴は基部赤く前半は黃色なり足は黃綠色にして長趾あれども瓣狀の瓣膜（ベンマク）を有せず。

オホバン　體は灰黑色にしてバンより大きく嘴は蒼白色なり足の前方の三趾の兩側には瓣膜あり。

チドリ　シギ類に屬する鳥なり每年春より秋まで海岸に群來す、彼の波（ナミ）に配合して畫かれてあるは、コチドリ、ムナグロ、コバスチドリ、イカルチドリ、シロチドリ等にして種類少し。

ミヤコドリ　シギ類なり頭頸背は黑く腰（コシ）と下面とは白色なり嘴と脚は赤し、海濱にありてカキの殼（カラ）を破り其肉を啄（ツイバ）む。

第七目　游（イウ）禽（キン）類（ルヰ）

カモ　本州中部には九十月頃渡來し四五月頃去る、嘴には櫛齒狀（クシノハ）の缺刻（キザミ）ありて餌と水とを篩（フル）ひ分くる用をなす。

アヒル　マガモを飼養して變化せしめしものなり、體軀は肥大にして翼は短小なり。

ヲシドリ　多く深山の溪流に棲む、雄の羽毛は頗る艶美(エンビ)なり其のヒザバネの一對は左右相對して直立し其の下部は瑠璃(ルリイロ)色にして後側には少しく黑色部あり、これはカモの一種なり。

ガン　本州中部には九月上旬渡來し四月下旬去る本邦に多きはヒシクヒ、マガシ、サカツラガンなり西比利亞にて蕃殖す。

ガテウ　サカツラガンを飼育せしものなりといふ。

ハクテウ　全身純白色なり嘴の側緣にはガン鴨の如き、櫛齒狀の缺刻なし、白海(ハクカイ)附近にて夥しく蕃殖す。

ウ　嘴は細く先端は鈎(カギ)の如く曲り魚を引き掛くるに適す、食道は長大にして此の中に小魚を貯へ置くが雛は親鳥の喉(ノド)の中へ頭を突き込みて其の魚を食する習性あり之を利用して鵜飼(ウカヒ)といふ漁法が出來たるなり。

ペリカン又ガランテウ　下嘴を適當に廣狹すれば下顎にある大袋は伸縮されこれを用ひて水と一所に魚を掬(スク)ひ取るべしまた此の大袋中に小魚を貯へ置きその中より雛に餌を食はせるなり。

カイツブリ　脚は遙に體の中央より後方につく、趾は葉狀膜(エフジヤウマク)を有し爪は扁平にして尾は短し、巢は主に水草を用ひて造り多くは葦(ヨシ)の水中に折れ込みたる先端を織り込み以て水中に浮べり。

ペンギン　南緯四十度より南極圈(ナンキヨクケン)に到る諸島に普通にして十七種位あり、體は肥大す翼は櫂(カヒ)狀をなし羽毛は著しく鱗(ウロコ)狀をなし眞正のホンバネを欠き且翼面に密生せるため一見海龜の前肢の如し、翼と脚とを用ひて迅速に泳ぐ。

カモメ　羽色は背面青灰色腹面白色のもの最も多し、翼は細長にして尖り、飛翔優美なり陸地に近き海灣港口內地の湖沼河川の附近に群棲し魚類屍肉(シニク)を食ふ、在原業平(ナリヒラ)の詠みたる都鳥(ミヤコドリ)は一種ユリカモメなりといふ。

アハウドリ　雁(ガン)よりも大なり、嘴も大きく先端著しく曲(マガ)り翼は長大にしてよく長く飛ぶ、渺茫(ベウバウ)たる太平洋及印度洋にありて風浪間を勇しく飛ぶは只此鳥のみなりといふ。アハウドリとは英名アルバトロスの訛(ナマリ)ならんとの說あり。

第八目 走禽類

ダテウ 阿弗利加の沙漠に棲む、體高六尺乃至八尺、翼と尾とにのみ羽あり之を帽子衣服其他の裝飾用とす、第三第四の二趾あり第三趾にのみ蹄狀の爪を有す、南阿米國南加州ロスアンジエルス地方アリゾナ州西部テキサス州等にて駝鳥を飼育して羽毛を採取す、卵殼はコップ及菓子皿等とす。

レア 南米アルヘンチナ、パタゴニア等の平原に小群をなして棲む、體高四尺位、三趾あり、亞米利加駝鳥ともいふ。

ヒクヒドリ 北濠洲新ギネア、セラン、アルー島に產す丈六尺高五尺に達す、頭は裸出し、頭頂には骨質の兜あり三趾を有す、

エミウ 濠洲の內地に產す、頭上には骨質の兜なし。

キヴ井 ニユージーランドに產し、月夜にキイウイと高き口笛の如き鳴聲を出すを以て土人は斯くいふ體は普通のアヒル位あり翼なく羽毛は皆毛髮狀をなす、嘴は細長にしてシギの嘴の如し、卵は鳥の大さに比して極めて大く其の目方は實に雌の體の四分一に等しといふ。

第三綱 爬蟲類

第一目 龜類

イシガメ 背甲は中央に五個兩側に四個の六角形の區劃あり、前後肢共に有爪の五趾あり、小魚蠕蟲を食す。

スツポン 嘴は長く吻狀に突出す背甲は稍圓く龜紋なく角質ならず橄欖色若しくは褐色にして黃色の斑紋あり、肉を食用とす。

アヲウミガメ 正覺坊といふ體は心臟形にして隆起せる背甲は十三枚の主甲あり、體色は暗綠にして斑點あり、四肢は扁平なる鰭狀なり、小笠原琉球臺灣近海に產す、體長は六尺海藻を食とす、肉は食用とす、歐米にてはスープとして賞用せらる脂肪より食用、工業用、燈用の油を採る、甲は鼈

甲(カウ)の代用とし骨は骨粉に製して肥料とす。

アカウミガメ

體長は六尺あり、背甲は暗褐色主甲板は十五枚あり、魚介を食とす、甲脂肪の用途前種に同じ卵を食用とす。

タイマイ

小笠原琉球臺灣の近海東西兩半球の熱帶の海に產す、背の主甲板は十三枚緣邊にある甲板は二十五枚あり皆覆瓦(フクガ)樣に排列す。背甲の表皮は即ち鼈甲(ベツカフ)にして櫛(クシ)カンザシ美術工藝品とす、體長三尺四五寸に達す。

第二目(モク)　蜥蜴(トカゲ)類(ルヰ)

トカゲ

雄は背黑く五縱黑條ありて其間は靑し、雌は茶褐色にして二條の暗色線あり、二眼の外に頭上に別に一小眼あり、四肢共に五趾あり、眼には眼瞼(マブタ)ありて運動自在なり、長徑四五分位の橢圓形の殼ある卵を產む。

カナヘビ

背は淡茶褐色なり腹面は黃色にして少しく綠色を帶ぶ、體の全長六寸の中で凡そ四寸三分は尾なり兩肢共に五趾あり舌は長く末端叉狀に裂け伸縮自在なり、鱗は粗なり山野草原に棲む、トカゲの如く蟲類を食ひて有益なり。

オホトカゲ

東印度に產す、體長四五尺、皮を袋物(フクロモノ)とし肉を食用とす。

カメレオン

四十五種あり主として阿弗利加マダガスカル島に產す。頭は大く三角形をなし頸(クビ)は短し、眼は大きく左右兩眼は個々獨立に運動す舌は棍棒(コンボウ)狀にして略體長まで口外へ伸出す、體は通常帶綠褐色なり、此動物が體色を變化せしむるは皮膚の下層に於ける數種の色素細胞(シキソサイバウ)が或は表面に近く出て或は下層に沈むに因るなりといふ。

ヤモリ

頭は幅廣く尾は稍長し、體は扁平なり、體色は灰色にして褐色の斑紋がトラフの如くあり體色を變化す、兩肢共に五趾を具へ下面は扁(ヒラ)たく七乃至九個の橫皺(ヨコシワ)が縱(タテ)に一列に並びてこれにて吸著するを以て背を下に向けても匍ふことを得、顎骨の內緣に細齒を列生す、眼瞼(マブタ)なし、臺灣琉球の如き溫熱地方にては夜間天井にあらはれキヨツキヨツキヨツと連呼して鳴く好んで蚊を食とす。

第三目(モク)　鰐(ワニ)類(ルヰ)

ワ　ニ　印度、馬來、シヤム、南支那、阿弗利加、北濠洲、南米、西印度、中央亞米利加、メキシコ、北米合衆國の東南部等の河湖に棲む、印度ガビアル、阿弗利加クロコヂル、アリゲートル等二十餘種あり、頭部は幅廣く扁平なり、背面と頸の頂上には大なる骨質板が密着して龍骨狀となる、甲は鉛彈にても尚貫通し得たりといふ人あり、尾は長く縱扁なり、上下兩顎には顎骨の齒槽より生ずる圓錐形の齒あり、晝間は河の深淵に潛むか或は淺瀨の上に眠ることあり、鼻端と眼のみを水面に露はして居る姿は朽木の木切の浮游するか或は塵芥の一片の漂へるとも見へ又岩礁の突角とも見誤らるべし、雌は河畔等の砂地に穴を穿ち二三十個の卵を產む孵化した儘の幼兒は身長九寸位あり。

第四目　蛇類

アヲダイシヤウ　背には淡黑色の條紋ありこれは幼蛇にはなし一體に少しく綠色を帶び身長六七尺に達す、瞳孔は圓しこれ一般に無毒蛇に通有なりといふ、野鼠、小鳥、鷄卵を食す、黑色のものを俗にカラスヘビといふ。

シマヘビ　色の變化多く黑きをカラスヘビといふ、通常少しく褐色を帶び親蛇にては脊に四本の黑條あり無毒蛇なり。

ヤマカガシ　腹に朱色を帶びたる斑紋あり、蛙を食ふ、無毒蛇なり。

ヒバカリ　背は黑色を呈し腹部は白く其の兩側には黑き小圓斑あり、無毒蛇なり。

マムシ　體は暗灰色にして赤褐色の錢紋あり、頸は細く尾は急に尖る、頭は三角形をなし管狀の毒牙あり、身長一尺五六寸に達す、野鼠、赤蛙、バッタ等を食ふ、毒蛇なり、胎生す一產に六七仔を產む

ハブ　體長六尺三四寸に及ぶ瞳孔は他の毒蛇と同じく縱裂し管狀の牙あり、背面淡黃褐色を呈し正中線の兩側に沿ひ黑褐色の斑紋あり腹面は白し、奄美大島、沖繩諸島の特產なり、野鼠、鷄卵を食とす。

メガネヘビ　馬來群島の大なる島嶼、印度に產する毒蛇なり、身長六尺五寸に及ぶ、頸の背面には眼鏡の如き斑紋あり敵を打たんとする時は體の前部を地上より高め同時に頭巾狀に膨大せる頭部を擴げて跳び付かんとする姿勢を取る、トカゲ、小獸を常食とす。

ガラガラヘビ　北米合衆國の東部に普通なり尾端には十乃至十二個の角質輪あり之を振動せしめて響を出す毒蛇なり。

エラブウナギ　支那海、南洋諸島、琉球近海に産する海蛇なり、體長四尺二三寸體は縱扁にして瞳孔は圓く溝狀の毒牙を有し腹鱗は退化すれども尾は縱扁にして櫂の如く使用して海中を泳ぐ體面には帶青褐色と灰青色の斑紋とが交互に環狀に排列す琉球にては乾製して藥用とし主に産後の養生用とす皮を袋物とす海蛇には五十餘種あり、印度洋、太平洋に産す。

ニシキヘビ　亞細亞の南東部、阿弗利加、ニユーギニー、濠太利亞に産す、體長は二丈餘あり、毒蛇にあらざれども筋力は大に發育し豚などを呑む、距狀の後肢の痕跡を有す。

ウハバミ　南米の熱帶地方に産す、體長は往々十米突以上に達するものありといふ、胎生す、距狀の後肢の痕跡あり。

第四綱　兩棲類

第一目　無尾類

トノサマガヘル　頭は三角形頸なし、兩顎口蓋に細齒あり、體長六寸乃至八寸に達す、背面は概ね淡緑色にして黑色若くは黑褐色の斑紋あり、卵は一粒宛寒天質に包れ塊狀に集り五千乃至一万粒あり、蝸牛イナゴ、コガネムシ等を食し有益なり、佛國の北西部にては養殖し盛んに食用として賣出すパリ料理にて蛙の股肉丈けを揚げて盛れる料理は恰も小鳥の料理の如く然も鷄肉と異れる特獨の美味なりといふ、支那の福建省の如き南部地方にても食用とす。

アマガヘル　體は緑色にして趾端に吸盤あり。二三月頃水邊の土中若くは叢中に産卵し卵はアハユキ狀のものにて包る。

イボガヘル　體は灰黑色にして體面には無數の疣狀突起あり、後肢は長くよく跳躍す、五六月頃産卵す又ツチガヘルといふ。

カジカガヘル　山間の溪流に棲み淸朗なる鳴聲を發す。背面は暗褐色を帶びたる鼠色にして淡き黑斑あり、後肢にてよく跳躍す、趾間には廣き蹼の外に吸盤あり爲めに出水の時石面より流さるることなし

ヒキガヘル　體は肥大四肢は短太前肢には五趾後肢には六趾と其一部には蹼あり、皮膚の疣狀突起より出る

白色粘液は有毒なり、三四月頃産卵し卵は紐狀に集る、害蟲を食ふ、皮を鞣して袋物、卷煙草入、弗入、サゲカバン等とす。

アカガヘル 山野の草中に棲む體は薄赤く暗褐色の斑紋あり、眼の後方には稍三角の黒斑あり、肉は美味なり本邦、福建省にて食用とす。

ウシガヘル 北米ロッキー山脈東側一帶に產す、體長七吋位あり、體は褐色若くは橄欖色にして暗色を帶ぶ、肉は味雛鷄の肉の如く美味にして上流社會にては其の肢丈けを食ふといふ。

第二目　有尾類

井モリ 水草の繁茂せる池沼小川に棲む、背は暗黒色腹は鮮紅色若くは橙黄色にして黒き雲紋あり、四肢は短く五趾を有し尾は長く之を用ひて泳ぐ、昆蟲類及魚類を食ふ。

ハコネサンセウウヲ 本州の山間の溪谷湧泉の邊に棲む、體長は四寸五分以上あり眼は大く突出す前肢には四趾後肢には五趾あり共に黒き角質の爪あり、背は赤褐色にして背と尾の尖線に沿ふて一條の幅廣き黃色若くは紅色帶あり、尾は長し。

オホサンセウウヲ 美濃、伊賀、伊勢、飛驒、大和、丹波、丹後、中國に產す、體長四尺五寸に及ぶ頭は扁平にして口は大きく兩顎に齒を列生す魚類を食とす、前肢に四趾後肢に五趾を有し共に爪なし、尾は縱扁なり、肉は脂肪に富み美味なり、藥用とす。

第五綱　魚類

第一目　硬骨類

第一亞目　棘鰭類

スズキ 淡水と鹹水と混んぜる近海に棲む、體長三尺あり背部は淡蒼色腹部は淡白色なり、鰾より上等の魚膠を製す。

ムツ 二三百尋以上の深海底に棲む、體は稍短小腹部は圓く體長二尺に及ぶ魚餅の材料となる。

オホダヒ 近海魚なり、體長三尺餘背部は赤色にして綠色の光澤あり、幼魚は鮮紅色にして靑色の小斑點

あり、マグヒともいふ。

カサゴ　近海の岩礁間に棲む、體は稍や楕圓形をなし背部は綠褐色にして暗褐色の斑紋ありまた鰭に棘ありて刺すことオコゼによく似たり、初春に胎生す。

アヂ　體は長楕圓形にして腹は扁平なり鱗は小さく側線の鱗は大きく菱形なり背は蒼色腹は銀色なり大なるは尺餘に及ぶ。

サバ　遠洋魚なり、體は紡錘形にして尾鰭は深く叉狀をなす、體の上部は綠色を帶びこれに暗綠色の屈曲せる波紋三十餘條を有し同色の陸に近い海に來る、浮游生物小魚を食とす、生食し、擅藏しまた乾製として食用に供す。

カツヲ　體長二尺背部は藍色腹面は銀白色體側には四乃至八縱線あり、體の如く紺青色をなせる黑潮に接せる深さ百尺以上の深海の上層を回游す、浮游生物を食ふ、多く鰹節を製するに用ふ。

マグロ　一尺內外をシビといひ三尺位をメジといふ、體長六七尺に及ぶ、背は暗藍色にして腹部は白く體の側面は灰色にして往々灰白色の斑紋あり、浮游生物を食ふ、肉は主に生にて食ふ、また水煑、味付、照燒、油漬等の鑵詰とす。

サハラ　體長四五尺、背部は蒼青色をなし背黑色の斑點を散布し腹は白く少しく暗色を帶ぶ卵をカラスミとす。

コバンイタダキ　體長二三尺頭は扁平にして其の上面には脊鰭の棘の變形物と見るべき吸盤ありて鮫、鯨、海龜船底につき廢棄物を食ふ。

アマダヒ　深海底に棲む體は長き楔形をなし背は紅色にして濃淡の斑點あり體長一尺七八寸に及ぶ、興津鯛ともいふ。

アンカウ　頭は扁平にして幅廣く尾は小さく全體の形は琵琶の如し口は濶く細鋭齒を列生す眼の前方には脊鰭の前棘が變化して成れる觸鬚あり其の末端には柔軟なる瓣膜あり之を動し小魚を誘ひ食ふ、體長二三尺。

コチ　近海の沙泥底に棲む、體は扁平にして背は黃褐色に少しく綠色を帶び淡黑色の斑點を有し腹部は白し。

ホウボウ　近海の沙泥底に棲む、體長一尺餘頭は斜方形、背部は黄色にして黒色を帶び腹部は白し、胸鰭（ムナビレ）はカナガシラのよりは幅廣く長く且青色の紋あり、體側には不規則なる青色の斑點あり、胸鰭の前方にある三刺は分離して指狀となり海底にて食物を搜索（ソウサク）するに用ふ同類集る時は大なる鰾（ウキブクロ）の瓦斯を振動させて奇妙な鳴聲を出す。

カナガシラ　前種に似たれども胸鰭は稍短く體色は黄赤色にして、體側には淡黄色と淡黒色との縱線を有す

ハ　ゼ　近海に棲み河水に入り來る體長五六寸脊鰭は前後二部に分れ腹鰭は兩者合して、吸盤となり之を用ゐて岩石土塊等に固著す。

トビハゼ　河口の泥地に棲む體長四五寸兩眼は左右相接して大なる瘤（コブ）の如く突出す。胸鰭と尾とを用ひて陸上を匍匐しまた跳躍（テウヤク）し腹鰭で杭（クヒ）石上等に吸著して攀ぢ登る、一種熱帶亞細亞、阿弗利加、濠太利亞の江灣の泥底に棲めるキノボリトビハゼにては、胸鰭著しく手狀になり往々樹上に登り隨分長い間枝から枝を匐ひ（ハ）小蟲を捕食すといふ。

テツパウウヲ　原名をトキソーテスといふ、東印度、北濠洲、ポリネシア、ニユージーランドの淡水に産す口吻は伸びこれより水滴を射出して昆蟲を捕る。

ボ　ラ　幼魚をチボコ又イナといふ、體長尺餘内灣河口に棲む背面は暗灰色腹面は白し、胃を俗にヘソといふ。

アヲベラ　近海岩礁の間に棲み主として海藻を食ふ口角より鰓蓋（ヒラブタ）に達する紅色線ありてこれら線條間は青く紅色の斑點あり、脊鰭、臀鰭（シリヒレ）には青き縱線を有す、カマボコの材料となる。

ウミタナゴ　近海に棲む體は卵圓形縱扁（ジウヘン）なり、體面には小形の圓形の鱗あり、體長六七寸四五月頃寸餘の仔（コ）十數疋を胎生す。

トゲウヲ　體長二寸七八分脊鰭には棘（トゲ）あり背面は青黒色にしてサバに似たり、水草其他を集めて球狀の巣を造り雌は其中に數十個の卵を産む、雄魚は頭を巣の口に向けて靜止し絶えず之を守り他魚近づけば忽ち棘（トゲ）を立てて勇猛に攻撃す、また幼魚が巣より出で來る時は之を口に啣へて巣内へ入れて保護し其の充分に成育する迄巣番（スバン）をなすなり。

第二亞目（アモク）　軟鰭類（ナンキルヰ）

タラ　ノルウエー近海、ニューフアウンドランド近海、オコツク海、北海、北海道、奥羽近海の深海に棲む、口は濶く口吻は錐狀に突出し顎下には太き鬚あり、脊鰭は三部に 臀鰭 は二部に分る 塩藏し又乾鱈とす肝より肝油を製す。

ヒラメ　近海の沙泥に棲む、胸鰭と腹鰭とに小形なり脊鰭臀鰭は體の全長に亘る、多くは體の左側面が砂色でこの部に眼あり。

カレヒ　多くは體の右側面砂色にしてこの部に眼を有す、數尋乃至十數尋の淺海に棲めどもヒラメは之れより稍深き處に棲む。

第三亞目　喉鰾類

ナマヅ　湖沼河川に棲む、口腔廣く上顎には長き一對の 觸鬚と下顎には短き一對の觸鬚とありて是等を動して魚を誘ふて食ふ、體長二三尺體重三四貫に及ぶ、鱗なし。

コヒ　靜なる河川池沼深淵に棲む體長三尺餘に及ぶ上顎の兩側に一本宛の小鬚と口の後角には左右一本宛の大鬚あり。

フナ　口邊に觸鬚なし、背部は隆起し且つ狹し。

タナゴ　小川に普通なり、口は吻端にありて小なり、體は縱扁にして臀鰭は稍長し。

ヒガヒ　形狀はコヒに似て體は稍長く且側扁し大形の圓鱗あり、頭は小く尖り口には觸鬚二本あり體長七八寸淸流に棲む。

キンギヨ　支那の原產なり、和金、琉金一名尾長一名長崎、蘭鑄一名丸子一名獅子頭等あり、鮒より變化せしものなり。

ドヂヤウ　水田池沼等の止水に棲む、圓筒狀をなし尾部は縱扁なり粘液に富み鱗小く皮膚中に埋沒す肉は滋養に富む。

サヨリ　近海に棲む、上顎は短く下顎は細長く 嘴狀なり脊鰭は體の後方にありて臀鰭と相對す、體長一尺許なり。

ザンマ　遠洋に棲み九十月頃沿岸に來りて產卵す體は圓く且長くして全體刄(カタナ)の如し、體長尺餘あり房相紀伊等に多し。

トビウヲ　熱帶及び亞熱帶の遠洋に產し我邦にては伊豆の大島九州の屋久島等の附近に多し、體長一尺五寸に及ぶ、胸鰭は非常に長く扇(アフギ)の如く開閉しこれにて水上を飛ぶ尾鰭は不正形なり常に群居す。

サケ　樺太露領沿海州より北海道に多く產す、幼魚は五月下旬迄に長さ凡そ二寸餘になりそれが海に入り四五年後に河へ產卵の爲溯(サカノボ)ろといふ、雄は河へ溯る頃より上顎の先端が漸々伸出して下顎の方へ少しく曲り來り以つて雌(ニギ)を捉ろ用をなす、體長三尺、尾鰭は分岐淺くして其の先端は鋭ごく尾根はマスに比すれば稍狹長なり、塩漬、罐詰(カンヅメ)及燻製(クンセイ)とす。

マス　本州、四國、九州、北海道に產すれども根室北見の東部エトロフ等に多し、體はサケより小く一尺五寸乃至二尺なり尾鰭はサケのに比すれば鈍圓で尾根は稍太く吻端(シユ)も稍サケのより圓味を帶ぶ、ヤマベ及アマゴもこれと同一種なりと說く學者もあり。

アユ　北海道より臺灣朝鮮に到るまで產すれども本州の中部に多し、幼魚は河中にて發生し昆蟲を食ひ一旦海に入り四五月頃再び河川に溯り硅藻(ケイソウ)を食ひ體長一尺位に及ぶ、口は大きく鱗は細く背は蒼黑色腹面は黄白色なり。

ニシン　茨城縣沿岸と秋田縣沿岸より以北、又釜山以北に產し樺太北海道には多し、體長五寸數分乃至一尺二三寸あり背は藍色を帶び腹面は白く少しく淡藍色若くは淡紅色を帶ぶ塩漬、燻製、身欠鰊(ミガキニシン)としまた採油し搾糟(シボリカス)を肥料とす。

イワシ　近海に群棲し體長五六寸乃至八寸に及ぶ、背は蒼色腹面は銀白色體側に數個の黑斑あり、鰓(エラ)の側にある篩樣(フルヒヤウ)の仕掛(シカケ)に依つて浮漂生物を食とす、普通イワシと呼ぶはマイワシなれども他にウルメイワシ及びヒシコイワシあり。

コノシロ　近海に棲む體長七八寸上顎は圓錐形をなして突出し脊鰭の後方には長き刺(ハリ)あり多くは鮮食(ナマデクウ)す。

ウナギ　體は圓筒狀なり皮膚は粘液に富み鱗は小形にして皮膚中に埋沒す、脊鰭は頭部より遙に後方に始ろ、腹鰭なし、此魚の變態を研究せしは伊太利のグラッシー氏なり、幼魚は稍や柳葉狀にし

て縦扁し無色半透明なり後一寸五分位に短縮し且圓筒形となる其下吻は上吻よりも前方に突出す、本邦にては年約百五十万貫のウナギを消費す。

ハモ　體はウナギに似たれども脊鰭は頭部の直後（スグアト）より始まる然るにウナギにては頭部の遙か後方より始まる口には鋭齒ありて嚙む、變態（ヘンタイ）し幼魚はウナギの幼魚に似たり。

アナゴ　體はウナギに似たり口大にして鋭齒ありて嚙む、變態し幼魚はウナギの幼魚に似たり、但上吻は下吻よりも突出す、體長七八尺に及び肉は蒲燒（カバヤキ）、天麩羅（テンプラ）などにす。

ウツボ　暗礁間に棲み體長一丈餘となる、鋭齒ありて嚙む、變態す、肉は照燒（テリヤキ）とし皮は鞣（ナメ）して弗入（ドルイレ）、袋物とす。

メダカ　小川田圃中に群居し眼は著しく突出す、蚊の幼蟲を食ふといふ。

ハダカイワシ　深海に棲む、相州三崎邊の海に多產す、發光器あり。

シビレウナギ　南米ブラジル及ギヤナの河流湖沼に產す、體長六尺乃至八尺、全長に亘りて甚だ大なる二對の發電器あり之れにて他魚を殺す、また馬をも斃すといふ。

第四亞目（アモク）　固顎類（コガクルヰ）

フグ　體は肥滿し兩顎の中央には截痕（キリアト）ありて二分す、腹鰭なし、脊鰭と臀鰭とは相對す、食道の一部に空氣を入れて體を膨らし敵を威嚇（イカク）す、河豚毒は睾丸（キンタマ）に最も多く肝卵巢之に次ぎ筋肉には無しマフグ、ナゴヤフグ、トラフグの毒は最も烈し、河豚毒素を石炭酸に溶（トカ）して神經痛、リウマチス等の患者の注射藥劑に使用す。

ハコフグ　體は多角形の骨質板を以て被はれ前後に長棘（チヤウキヨク）あり、體は動くことなく唯鰭（ヒレ）と尾とを動して泳ぐ。

ハリセンボン　兩顎共に其の中央には截痕なし、皮膚には無數の棘（トゲ）を列生し空氣を吞みて體を球狀に膨らして敵を防ぐ。

マンボウ　體は卵圓形脊鰭と臀鰭(シリヒレ)とは鎌狀をなして相對し體の中央より遙に後方にあり、ミヅクラゲ及タコクラゲを食ふ、肉軟骨を食用とす肝より油を採る。

第五亞目(アモク)　總鰓類(ソウサイルヰ)

タツノヲトシゴ　頭は馬形をなし尾はよく屈曲して把握(ハアク)性に富む、眼は大形にして左右別々に動く、雌は雄の腹囊中に產卵す、體長二寸許あり。

ヤウジウヲ　沿海の海藻間に棲む、體は細長にして尖り一尺餘あり、吻は嘴(クチバシ)狀にして長く突出し其の端に小口あり、腹鰭なし全體面に堅き多角形の骨片あり、雄の腹囊に卵を入れて保護す幼魚は自ら泳ぐ時も物に驚けば此中に入りて隱る。

第二目(モク)　軟骨類(ナンコツルヰ)

アヲザメ　遠洋の深海底に棲む、體長八九尺四五十貫に達す、體は藍色にして腹は全く白し、魚類を食ひ人をも襲ふ、八九月頃胎生す、軟骨は明骨(メイコツ)とし鰭は魚翅(ギヨシ)とす。

ホシザメ　體長二三尺乃至六尺、體は灰白色にして腹面は白く側線(ソクセン)の上方には小形の白點をば不規則に列生す、五對の鰓孔(エラアナ)あり、眼の直後には噴水孔あり、胎生す。

子コザメ　體長三四尺、背は褐色にして褐色をなせる濃淡の斑紋あり、貝類を食とす、卵囊は螺旋(ラセンジヤウ)狀にして黑褐色なり。

シユモクザメ　印度洋に多し、體長一丈、頭部は橦木(シユモク)狀になりその左右兩端に眼と鼻孔とあり、胎生す。

ナヌカザメ　近海の沙底に棲む、體長三尺餘、卵囊は長方形にして鼈甲色をなし四隅に紐(ヒモ)あり。

ノコギリザメ　體長四尺、頭の前端は扁平なる吻(フン)となりて突出し其の兩側には鋸齒狀の突起あり之を用ひて大魚の腹部に突きかけ之を殺して食ふ、吻下には二觸鬚(シヨクシユ)を有す。

アカエヒ　體形菱(ヒシ)形をなし、扁平にして長尾あり尾の中央には鋭刺(エイシ)ありて人を刺す、七八月頃胎生す體長三尺に及ぶ。

シビレエヒ　頭と胸鰭との間の筋肉層中に六角柱狀をなせる數百の發電機が垂直に立てり、近海の淺き沙泥底に棲む。

ガンギエヒ　背面は淡褐色にして數多の暗褐色の斑點あり腹面は白し胸鰭は著しく前後に擴り頭胴部の殆んど全長に亘る。

第三目　硬鱗類

テフザメ　體長六尺、口に齒なく、四本の鬚あり、背面と側面とに各一列腹面に二列の硬鱗あり各鱗片は菱形にして光澤あり上下の二層より成り下層は通常の骨質なれども上層は琺瑯質より成る、鰓は左右に四個宛ありて各側一枚の鰓蓋にて被はる、鰾ありて食道と連絡す、石狩川、西別川釧路川に産す、肉は食用となり卵を鹽藏せるものをカビアといひて珍重せらる、鰾よりは最良の魚膠を製す。

第四目　肺魚類

セラトダス　濠洲に産す、頭は小なり體は暗綠色にして葉狀の胸鰭と腹鰭とあり、尾鰭は分岐せず、鰾は一囊より成り肺の用をなす、鼻孔は四個咽頭と交通すこれは肺魚類の通性の一つなり。

レピドサイレン　南米アマゾン河に産す、體長四尺、胸鰭と腹鰭とは鞭狀なり。

プロトプテラス　中央阿弗利加の河湖に棲む、體形はウナギを幅廣くせるが如し、胸鰭と腹鰭とは一尺もあり且鞭狀なり、體長は三尺三寸乃至六尺六寸位あり。

第五目　圓口類

ヤツメウナギ　體は圓筒狀なり胸鰭と腹鰭とを缺き皮膚には鱗なし、口には上下兩顎の區別なく圓形にして其の內面には數多の角質の齒あり、舌はピストンの如く上下に動き爲めに口は一種の圓形吸盤となりて他物に吸著すべし、一個の鼻孔と七對の鰓孔あり、河海に棲みて、他魚につき其肉と血とを吸收す、食用に供するはカハヤツメにして體大なり、山陰、北陸、北海道の如き日本海に面したる河流に産す。

メクラウナギ

體は圓筒狀にして後部に到りて縱扁となる體長二尺內外あり鼻の周圍には三對の鬚と口の前方には一對の鬚とあり、眼は皮膚下に隱る、鰓孔は僅に一對あり、若き時は雄生殖器を生じ年を經ると雌生殖器を生ず。

脊椎動物の附錄

被囊類

ホヤ

體は囊狀にして下端にて固著す、上端には入水孔と出水孔とあり、體面には硬き皮膜ありこれは直下なる皮膚の分泌物にして植物に見ると同じき細胞膜質より成る、雌雄同體なり、食用とす內臟は釣餌として用ゆ、幼蟲は長さ二三分オタマジヤクシ狀をなし尾には半透明の脊索あり口には三突起ありて一たび物に吸著せば次第に變態し尾は消失し且脊索を失ひ途には親と同じき囊狀となる。

第二門 節足動物

第一綱 昆蟲類

第一目 鞘翅類

ミチシルベ

成蟲の體長は六分內外、綠色と紫色とを混じ黃白斑ある美麗種なり、大顎は強く弓形に彎曲し三個の銳齒を具へ他蟲を捕食す、幼蟲は強大なる顎を具へ砂地庭園等に垂直の圓孔を穿ち蟲の陷るを待ち之を食ふ。

ハンメウ

西班牙に產す、芫菁丁幾を採りまた發泡膏等を造るに用ふ、ミチシルベをまたハンメウともいふ混ずべからず。

ゲンゴラウ

比較的淸き水中に棲み、水棲昆蟲魚類を食ふ、觸角は絲狀にして十一節より成る、背面は稍平扁且橢圓形なり。

ガムシ

體は紡錘狀にして背面は凸圓なり觸角は棍棒狀にして九節より成る巧に水中を泳ぐ幼蟲は幼魚を食ふ。

ミヅスマシ　體は卵形前肢は長く後肢は側扁にして短く巧に水上を旋轉す、複眼は上下に分離し水面と水中よりの敵を見るべし、多くは屍魚を食ふ。

コメツキムシ　前胸節には一個の棘狀突起を有しこれが中胸節の凹處に嵌入するを以て背を下にして置けば跳れ上る、幼蟲はハリガ子ムシといひ麥類、トウモロコシ、大小豆、アサ、蔬菜類の莖に侵入す。

コクザウムシ　頭は前方に於て吻狀に伸長して象の鼻に似たり、體長一分内外、赤褐色を帶ぶ、年三四回發生し穀粒に蠹入す。

タマムシ　體長一寸餘翅鞘は所謂タマムシ色をなし、前胸に二條翅鞘に各一條の暗赤褐色の縱帶あり、松を害す。

カミキリムシ　觸角は體長の半分よりも長し、大顎は大に發育す、幼蟲は角質の頭部と有力なる大顎とを有し樹幹に蠹入す、クハカミキリ、シロスヂカミキリ、ミドリカミキリ、ホタルカミキリ。スギカミキリ、トラカミキリ等あり。

トラカミキリ　一名クハトラムシ又トラムシといふ。體長七八分體は黄褐色前胸部は球狀をなし翅鞘に黄色の斜條と横紋とあり蜂と紛れ易し、桑の害蟲なり。

ホタル　成蟲は五月下旬より六月にかけて羽化する所多し、源氏螢平家螢などあり、幼蟲及成蟲は蝸牛ナメクジ等を食ひ殊に平家螢の幼蟲は日本住血吸蟲の中間宿主たるミヤイリガヒを食ひて有益なり、米國ドクトル、ハーベー氏の研究によれば螢の發光器の細胞内の顆粒は光る本體と發光を助くる物質の二者を含み此二者を合はせて水分と酸素とに觸れさせると始めて光を放つといふ、螢光は殆んど熱なく少くも九割二分は光となるものなりと。

ハネカクシ　多くは小形種なり、翅鞘は短く其の下に後翅を疊み込む、ヤスデ、昆蟲類などを食とす。

テンタウムシ　テンタウムシダマシの如く食草性のものあれども多くの種類は幼蟲成蟲共にアリマキ介殼蟲ハマキムシを食とす。

マメハンメウ　體長五分餘翅鞘は黑色にして細短毛を密生し中央部と周緣部とには灰黄縱條あり成蟲は大豆の葉を食ふ。

コガネムシ　マメコガネ、ハナムグリ、ヒメコガネ、クロカナブシ等種類多し桑、豆、葡萄、リンゴ、柿、櫻等の葉を害す。

サルハムシ 體長一分五厘位あり、光澤ある黑色圓形の蟲なり、秋季には害甚しく幼蟲成蟲共に、アブラナ、大根等の葉に大害を與ふ。

ウリバヘ 翅鞘は淡黃色なり、ウリ類及エゾギクの葉に大害を與ふ、成蟲の儘にて越冬す。

カツヲブシムシ 幼蟲は俗にカイタといふ干鰯(ホシカ)、蠶繭(カヒコノマユ)、鰹節、毛皮、動物標本を害す。

第二目(モク) 鱗翅(リンシ)類(ルヰ)

第一亞目(アモク) 蝶(テフ)類(ルヰ)

アゲハノテフ 前翅は長三角形にして中央室には横に綠黃色の四條の點線あり、後翅には燕尾(エンビ)狀のものあり、年三回發生し幼蟲は柑橘(カンキツ)の葉を害す、蛹(サナギ)にて越冬す。

キアゲハ 前翅の中央室には二個の大なる黃斑を有す、幼蟲はミツバ、セリ、ニンジンの如き繖形(サンケイクワ)科の葉を食ふ。

モンシロテフ 兩翅共に白色にして前翅には二個の暗褐點あり、年五回も發生する場合あり、幼蟲は十字科植物の葉を食ふ。

キテフ 翅は黃色にして、早春に現出するものは前翅外緣の黑色部少く中には全く無紋のものもあるが夏月に現出するものは黑斑あり、幼蟲は綠色にしてメドハギ、ミヤコグサ等の葉を食す。

モンキテフ 雄は黃色なるが雌には黃色のものと帶黃白色のものとあり、前翅の中央部には黑點ありまた後翅の中央部には橙(オヤ)黃色の一斑點あり、幼蟲はスズメノエンドウ、ミヤコグサ等の野生の荳科(マメクワ)植物を食す、成蟲にて越年す。

コノハテフ 翅の表面は黑色に青藍色を交へ前翅には著しき橙色(ダイダイイロ)の幅廣き斜帶ありて美なれども翅の裏面は木葉其儘なり、琉球、臺灣に產し靜止の時には頭部を下方に向けて倒になるといふこれ枯葉が枯れて枝より離れんとする瞬間(シユンカン)に似たり。

イチモジセセリ 秋日シオン等の花に多く集る、前翅には七個の白斑あり、後翅には四個の白斑が殆んど一列に並べり、幼蟲は稻竹類を害し絲を吐き葉を綴(ツヅ)り其の中に棲む、年三回の發生なり、群をなして飛翔することあり。

第二亞目(アモク) 蛾(ガ)類(ルヰ)

カヒコ

幼蟲は裸體にして第十一節に尾狀突起あり下唇に開ける一個の吐絲口より絲を吐く、繭より生絲を採る、蛹より油を採り絹練用石鹼、化粧用石鹼の原料とす、蛹粕を肥料とし鯉ウナギの飼料とし又食用とす。

サクサン

成蟲は五八月頃の二回に發生す、翅は黄褐色にして前翅の中央室には透明紋あり、後翅の中央部にも透明紋あり、幼蟲はナラ栗カシハ櫧クヌギ等の葉を食す、繭は褐色にして短き楕圓形なり、絲は絹綢、絹緞、洋傘地、裏地、コール天、窓掛、天鵞絨、肩掛等に用ふ、芝罘サクサン蛹は肥料として本邦に輸入せられ近年養魚用飼料石鹼の原料の蛹油搾出用とす。

ヤママユ

成蟲は八九月頃發生す、前後翅の中央には透明の眼狀紋を有し其の周圍は黄色なり、幼蟲はカシハ、クヌギ、ナラの葉を食ひ繭は帶黄綠色なり、繭を紡ぎて山繭紬、山繭縮緬等の所謂山繭織を製す。

クスサン一名クリケムシ

殆んど日本全土の濶葉樹林に發生す、幼蟲は三寸五六分淡綠色にして各環節の突起部と體面とには白色の長毛を生ず幼蟲の腹より取りたる絲は釣魚用となる、幼蟲はクルミ栗サルスベリ等の葉を食す、繭は茶褐色の楕圓形をなし網狀にして外部より蛹を見透すべし、之を解きて絹絨絲、絹絨織布、其他の織物を織るべし。

テグスガ

南支那海南島にて飼育す、幼蟲は體長三寸五分、幅五分頭は灰色で胴には縱に綠色の線數本あり尾には黒線二つあり胴には長毛が數本あり、海南にては楓の葉にて養ひ廣東廣西にては樟葉にて飼ふ、幼蟲は二月乃至三月に發生し四月下旬より五月にかけて繭をつくり蛹化す其の前之を集め一晝夜水に浸し腹を開き二本の長囊を酢に五分間許漬け後取り出して清水にて洗ひ絲を取る、絲は釣魚用、外科醫の綴絲とす。

ズ井ムシ一名メイチユウ

二化螟蟲は臺灣にては四回其他にては年二回發生す。三化螟蟲は臺灣にては五回其他にては年三回發生す、前者の幼蟲は始め淡褐色全體に毛を生し背には淡褐色の五縱線あり八九分となる。後者の幼蟲は暗褐色にして毛なく背面にも褐色縱線なく老熟すれば黄色となる、兩種共に稻の莖に喰ひ込み大害をなす。

ヨタウムシ

幼蟲は晝間隱れ夜出でて豌豆、ソラマメ、油菜、大麻、大豆各種の蔬菜類を害す蛾は年二回發生し前翅には腎臟紋環狀紋及不正形の斑紋多し。

ネキリムシ　幼蟲は始め體絲色なれども成熟すれば暗灰色となり背面には顯著なる黑色突起を散在し各一本宛の短毛を疎生す幼齡時には晝夜の別なく大根、タバコ、麥、ナスビ等の作物を害す、四齡以後に至れば晝間は地中に潜伏し夜間出でて莖の根際を嚙み切りまた葉を食害す、蛾は年二回發生し全體灰白乃至灰褐色にして前翅の中央に腎臟紋と圓紋とが著明に見ゆ。

クハエダシヤク　桑樹の害蟲中最も分布廣きものなり、幼蟲は桑の枯枝に似たり、蛾は年二回時には三回發生す

ハマキムシ　幼蟲は櫻、桑、リンゴ等の葉を捲き其中に棲み絲を引きて體を垂下するもの多し。

ミノムシガ　雄蛾は翅あれども雌は蛆狀にして常に筒狀の巢内に棲む、幼蟲は枝葉の屑を綴りて筒狀の巢を造り其の中にて蛹となる、幼蟲は梅、櫻、梨、リンゴ、榎、ハンノキ、茶、柿等の葉を害す

イ　ガ　蛾は體長二分翅の開張四五分なり、幼蟲は自ら造れる絹絲より成れる筒を、適當なるものに固著し絹絲を以て其口を閉ぢ其内にて蛹化す、毛織物を害す。

セスヂスズメ　蛾の腹部背面には二本の銀白色の線あり腹面は總べて黃褐色なりスズメガ(天蛾)科のものなり

スカシバ　天蛾科のオホスカシバ(幼蟲はクチナシを害す)スカシガ(硝子蛾)科のコスカシバは共に蜂と擬態す。

第三目　膜翅類

ミツバチ　社會生活をなし、一疋の女王と若干の雄蜂と幾万疋の生殖器の發育せざる雌なる働蜂とあり、女王が交尾せずして產む卵は雄蜂となり交尾して產卵せしものは總べて雌蜂となり之を蜜にて養へば女王となり花粉にて養へば働蜂となる、女王と働蜂とは劍ありて螫す、蜂蜜は甘味調味料となり蠟は電氣鍍金、模型用、藥用とす。

アシナガバチ　黑色にして中胸背に赤褐色の四條あり、腹に天鵞絨様の粗毛夥しく生ず、巢の中には雌蜂、職蜂、雄蜂あれども春季の始めには一疋の雌蜂のみで巢を造り產卵するとこれより職蜂が產れ出で仕事を始め秋季には雌丈け生存す。

ヤドリバチ　昆蟲類の卵若くは幼蟲に寄生する寄生蜂の總稱にして特種を指せるものにあらず、一般に體は

微小なるもの多く種類は万以上あり、桑のエダシヤクトリに寄生するカモドキバチ、アゲハの蛹に寄生するアゲハヤドリバチ螟蟲の卵に寄生するズヰムシアカタマゴバチとズヰムシクロタマゴバチ、松毛蟲に寄生する種類等あり。

ヲナガバチ　馬尾蜂ともいふ、體長六七分全體飴色なり。雌の腹端には馬尾狀の長き產卵管ありこの中央にある一管は輸卵用にして之を被へる二本の鞘あり、產卵管を以て樹幹を穿ちて產卵し孵化せる幼蟲はカミキリムシの幼蟲に寄生す。

アリ　本邦產七八十種あり胸腹の中間には甚しき縊れあり觸角は膝の如く折れたり、社會生活をなし女王、雄蟻、職蟻あり。

モツシヨクシバチ　此類の蜂の雌は樹枝葉等に產卵して其部に蟲癭を生ず、モツシヨクシバチは小亞細亞に產す本邦にて普通なるは、ナラダンゴモツシヨクシバチにして五六月頃ナラ、クヌギ等の頂芽に產卵し赤褐色林檎の實狀の蟲癭を生す。

第四目　雙翅類

イヘバヘ　體長二分五六厘、頭は黑く胸部は灰黃にして四黑縱條あり、肢は黑く先端には二個の膜瓣と二本の爪とありチブス化膿菌其他の細菌を傳搬す、糞便咯痰を舐め病毒を傳へ蛔蟲、サナダムシの卵を食ひ糞と共に體外に排出す。

シマバヘ　ニクバヘともいふ、好んで肉に集る、胸背は灰色にして暗色の三縱線あり、腹部に剌毛を粗生す。

サシバヘ　割合に長吻を有し雌雄共に家畜及人類を螫して其の血液を吸ふ。

カヒコノウジバヘ　蠅は體肥大し、黑色にして粗毛を被り體長五分內外翅の開張は一寸許なり、五六月頃蠶の繭を破りて出でたるウジは床下に落ちて蛹となりて越年し四五月頃蠅となりて羽化し桑葉の裏面に產卵すカヒコの三齡以後は桑葉に着きたる蠅卵をば其儘嚥下するを以て卵は蠶の胃內にて孵化し胃壁を破りて神經節內に寄生し蠶兒[illegible]し繭を害す。

アブ　雌は人畜の血液を吸ふ雄は花間に花粉花蜜を食ふ、體は蠅より大きく肥滿し頭廣く眼大なり。

ウシアブ　大形なる灰黑色のアブにして胸背に五個の黃縱線あり、體長八分內外なり。

ノミ

胸には翅なく其の代りに板狀の附屬物あり後肢は發達してよく跳ぶ印度蚤はペスト菌の媒介者として危險なり。

キリウジカガンボ

年一回の發生にして三四月頃群飛す、幼蟲は苗代田にありて稚苗の根を食ふ。

カ

雌の口器は細長く大顎と小顎は細長にして人畜の皮を穿つに適すまた上唇と上咽頭とは吸收管となり血液を吸ふに適す、雄にては大顎は退化して吸收管なく唯植物の汁液を吸ふのみ、物に靜止の時は其物と平行して止る。

ハマダラカ

全體灰褐色にして翅に斑紋あり物に靜止の時は體の末端を高く擧げ斜に止る吻太し、マラリヤ病を傳染す。

ツエツエバヘ

阿弗利加赤道附近に限り棲み二十數種あり家蠅より大く靜止の時は兩翅を相覆ひ重ぬ、睡眠病を傳染す。

ハナアブ

體長五分内外翅の開張九分内外、腹部の基部の半部は淡黃色にして工字形の黑色あり、幼蟲をチナガウジといふ。

シホヤアブ

雌は體長一寸許翅の開張は一寸五六分許、胸は褐色で腹部は黑く各節の後部は黃色なり、雄は腹端に白色の細毛を密生すセマダラコガネ、コガネムシ、蠅等を捕食して有益なり、幼蟲は苗圃の害蟲なるコガネムシの幼蟲を食す。

第五目　半翅類一名有吻類

クサガメ

前翅は半ば革質半ば膜質にして、口は吻狀となり多くは植物の汁液を吸收して農業上有害なれども、クチブトカメムシ、ルリカメムシ、コブカメムシの如きはハマキムシ其他の小蟲を捕食す又アカサシガメの如くノコギリバチの幼蟲などを食ふものあり、クサガメには種類多く一にカメムシといふ。

タガメ

カツパムシともいふ、體長二寸内外、體は扁平、前肢の腿節は甚だしく膨大し跗節の先端には鉤狀の爪ありて他蟲を捕へオタマジヤクシを食ひ養魚を害す時に蛇を襲すことありといふ。

ナンキンムシ

體長平均一分二三厘乃至二分、扁平なる卵形にして黑褐色なり翅なし、ペスト菌、再歸熱等を傳播すとの說あり。

セミ　頭は短濶(タンクワツ)にして三個の單眼あり、吻は細管狀をなし植物の汁液を吸ふ、四翅は膜質同形なり、雄は腹部の第一第二節の腹面に發音器あり、アブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミ、ヒグラシ等あり。

アリマキ　アブラムシともいふ、草木の新芽綠葉花蕾(ハナツボミ)に群棲す、體長僅に五厘内外、體は紡錘狀且腹部膨大す、初春越冬せる卵よりは雌が孵化しこれより夏の間は雌のみにて多くの仔(コ)を胎生(タイセイ)し秋季に到りて雄を生じ雌雄交尾して産卵し卵態にて越冬す、肛門より甘味ある液を出して蟻を誘ひ腹部の後方に位する角狀管より蠟質液を出して體を保護す。

ウンカ　體より白蠟(ハクラフ)を分泌す、前胸小さくへの字形をなす、後肢の脛節(ケイセツ)の外側にのみ數個の刺狀突起あり、トビイロウンカ、ヒメトビウンカは稻の害蟲なり。

ヨコバイ　體より白臘(ハクラフ)を分泌せず、前胸大なり、後肢の脛節には内外兩側に刺毛あり、ツマグロヨコバイは稻の害蟲なり。

カヒガラムシ　本邦産のもの二百餘種あり樹枝に固著し介殼を分泌して自體を保護す、雌は無翅無肢のもの多く雄は一對の觸角と一對の翅(ハネ)と肢(アシ)とを有するを常とす、雄は完全變態なれども雌は不完全變態なり、果樹の大害蟲なり。

エンジムシ　コチニールといふメキシコ原産なれども、地中海沿岸の地方にて飼育す、雌體を乾燥せしめてカーミン(洋紅)を製す。

フシノアブラムシ　五倍子蚜蟲(アブラムシ)なりヌルデの葉に耳狀の蟲癭(チユウエイ)を生ぜしむ、成蟲の體長三分翅の開張一分八厘許あり。

シラミ　口は伸縮自在なる肉質の吻にして血液を吸ふに適す、翅と複眼とを欠き唯二ヶの單眼あり、發疹(ハツシン)チブスを傳播す。

イボタラフムシ　イボタ及トネリコ類に寄生す、雄の幼蟲は體より蠟を分泌し樹枝に群棲す、秋季には翅を生じて飛び出し、尾端に二個の絲あり雄より蠟を製し光澤布とし又擬珊瑚(ギサンゴ)を製す。

アメンボウ　水流に逆(サカ)ふて游ぐ、頭は胸と略同幅にして頸(クビ)なく體は細く體下に絹狀の毛あり、他蟲を捕食す。

第六目(モク)　脈翅類(ミヤクシルヰ)

トンボ

本邦産のものは八九十種あり、後翅は前翅より大なり、口器は咀嚼性（ソシャクセイ）にして大顎には數個の鋸齒狀突起を有し堅牢なり、他蟲を捕食す、常に一定の處に棲めどもヤンマといふものは遠く飛ぶ、トウスミトンボは前後翅共に同大にして靜止の時は翅を直立せしむ幼蟲（ヤゴ）は下脣長く幅廣くなり頭部と蝶番（テフツガヒ）關節（クワンセツ）をなし頭部の前方へ長く突出し得べし其の先端には鉤（カギ）ありこれにて釘拔（クギヌキ）の如く食物を引き入れるなり。

カゲロフ

羽化せる成蟲は一日以上生存すると困難なり、卵は大塊をなして水中に產（ウ）み落さる、幼蟲は體伸長し頭大く長く水中に棲む、五月中旬頃より成蟲は羽化するが體は暗黃色にして頭は黑く後頭は黃色にして前翅は透明に少しく暗色を帶び翅脈は暗褐色なり、體端には三個の尾毛あり。

ウスバカゲロフ

體長一寸二三分內外翅の開張二寸六七分翅は透明なり、幼蟲をスリバチムシといふ砂中に擂鉢（スリバチ）狀の穴を掘り蟻を捕ふ。

クサカゲロフ

體長三分內外翅の開張一寸內外、體は綠色翅は透明にして綠色を帶ぶ、卵は二三分位の細絲の先に付ける楕圓形の小球で二三十本又は五十本も一ヶ所に集合して產附せらる、四五日經つと球の上方が二つに割れ恰も花が咲けるが如し之を優曇華（ウドンゲ）といふ、幼蟲はアリマキ綿蟲（ワタムシ）を食ふ其の大顎は長大にして頭部の前端に突出し、其の間に他蟲を挿（ハサ）み持ちて、其の液汁を吸ふ。

シロアリ

社會生活をなし女王と王と職蟻と兵卒とより成れるが種類に因りては同一にあらずして或る種類にては兵卒に二三形もあるものあり、俗にハアリといふは未成熟の雌雄にして、地上に戻（モド）り翅が取れるとこれが新巢の中心となる。

第七目（モク）　直翅類（チョクシルヰ）

イナゴ

體は黃綠色なり、後肢は膨大にして跳躍（テウヤク）す、ハネナガイナゴとコバネイナゴとあり稻を害す家禽養魚の飼料となり、また佃煮（ツクダニ）とす。

バッタ

トノマサマバッタ、ハタチリ、クルマバッタ等あり、食道は腺質（センシツ）となりて黑液を分泌す、後肢は膨れて跳躍（テフヤク）するに適す。

キリギリス

頭部は尖り觸角は長く體よりも長し、乾燥せる向陽地（ヒナタ）の草叢間に棲む、キリギリス、ウマオヒムシ、クツワムシ等此科の雄は前翅の左翅をば右翅の上に重ね左翅の裏面に横にある鑢（ヤスリ）狀部を以て右翅表面の其部にある透明の膜質部と摩擦（マサツ）して發音す。

コホロギ　常に地中石木下の如き暗處に棲み作物を害す、マツムシ、カネタタキ、クサヒバリ、オカメコホロギ、ケラ、エンマコホロギ、スズムシ、カンタン、コホロギ等本科の雄は前翅の右翅をば左翅の上に重れ右翅の鑢狀部を以て左翅の硬質部を摩擦して發音す。

スズムシ　體長五六分暗黑色にしてスイクワの種子に足を付けたる狀をなす木株石垣等の間隙に棲み夜リーンと鳴く。

マツムシ　體長六分五厘灰褐色にしてツルレイシの種子に足を付けたる狀をなす、丘陵山麓河堤原野等高燥地のカヤ、ススキ、オミナヘシ小松等の生ずる處に棲みチンチロリンと鳴く。

ケラ　全體褐色なり前肢は短大扁平にして脛節と第一二の跗節とは鋸齒狀をなしモグラモチの前肢の如し夜間ガーと鳴く、農作物苗床等を害するがまたウンカなごを食とす。

カマキリ　前肢は鎌狀となり腿節と脛節とに鋸齒の齒あり相對して折疊み込み他蟲を捕獲す。

ゴキブリ　體は扁平長卵圓形をなし肢は歩むに適し尾端に尾樣狀の附屬物あり厨房に來りて食品に集り動物の屍體、毛織物、革類、蛋白質の糊なごを食ふ一種の惡臭を發す、アブラムシともいふ

第八目　彈尾類

シミ　體は扁平鱗片を被り略々同長なる三尾毛を有しこれにて觸感を司る頭の各側に十二個宛の單[illegible]隠せず書物、紙、砂糖等を食す。

第二綱　蜘蛛類

第一目　眞正蜘蛛類

ヂヨラウグモ　木と木との間に車輪狀の網を張る體は頭胸部と腹部の二部に分れ其の間は縊れ腹端には六個の紡績突起あり其の一個に開ける細孔はクモの某種にては七百餘の多きに及びそれより紡ぎ出されたる一筋の絲は極めて細く一万筋を集めて毛髮の太さに達する位なり、本種の腹部の地は乳黄色にして上面には青黑色の複雜なる斑紋あり少しく後側面には大形の眞紅色の斑紋あり、蜘蛛は他の昆蟲を捕食するを以て有益なり。

ハヘトリグモ　壁間障子などに普通なる灰色のクモにして網を張らず跳躍してハヘ其他の昆蟲を捕ふ。

トタテグモ　體長五分普通三分餘なり、頭胸部の上面は黒く下面は淡茶褐色なり歩肢はよく發達す、傾斜地に管狀の巢を造り入口には蓋あり敵來れば上顎にある牙など裏面の中心に引懸けて閉づ蓋の外面には蘚苔其他の植物を以て被覆す。

アリグモ　樹木の葉上を徘徊し前の一對の肢など蟻の觸角の如く動かし蟻と擬態し蟻を誘ひ之を食ふ。

第二目　節腹類

サソリ　體は環節を有せざる頭胸部と長き環節を有する腹部とより成り腹部には尾ありその末端に毒刺あり、日中は石下樹皮下等に隱れ夜間出でて昆蟲蜘蛛類などを食ふ先づ前顎にて餌を握り次に尾端の刺にて殺し其の汁液を吸ふ胎生す、支那、滿洲、朝鮮、臺灣に普通なるサソリはツクシサソリといふ、體は橄欖褐色乃至黒色にして尾は黄色なり。

メクラグモ　頭胸部は環節なきも腹部は六節より成り後顎は歩肢狀をなし四對の歩肢は非常に細長なり。

アトヒサリ　體は扁平二分許あり腹部は幅廣く十一節より成り氣管にて呼吸す最前方の肢にはハサミを具へ後方に退きながら匍匐し書籍、反古、腊葉間にありてダニ、シミ其他の小蟲を捕食す。

第三目　壁蝨類

ダニ　頭胸部は一塊となり口は咬み刺し又は吸吮に適す犬、牛、馬、鳥類、貝類、昆蟲類に寄生し其の血液を吸ひ植物の葉に寄生して蟲癭を起さしめ或は乾酪の如き食品に寄生するものあり。

アカムシ　新潟縣下魚野川、信濃川、阿賀川の沿岸に於て夏季流行する恙蟲病毒を傳搬するダニなり、楕圓形にして長徑八厘三毛乃至三分五厘で橙黄色のものや長徑六七厘にして球狀鮮紅色のものあり有毒地の野鼠の耳殼の內面に寄生す。

ヒゼンノムシ　人類、猿、馬、羊等の表皮下に穴を穿ち棲息す雄は縱長七八毛ありて各肢端に鋭爪を具へ第三對の肢端には長き剛毛あり、第一第二第四對の肢には有柄の圓吸盤あり雌は縱長一厘五毛位第一第二對の肢の末端にのみ有柄吸盤あり。

ニキビムシ　頭胸腹部の三つに區分せられ腹部は伸長し數多の橫輪あり人類の皮膚の脂肪腺中に棲む。

カブトガニ　瀨戸内海九州の博多灣等に産す、卵圓形にして頭胸部には六對の胸肢あり食物を咬む、腹部には六對の板狀肢ありて游泳に用ひ又呼吸を營む腹部の後端には一本の尾節あり、全長二尺橫徑九寸餘あり古生代の三葉蟲に似たり。

第三綱　多足類

ムカデ　體は頭と胴とより成り頭には一對の長觸角あり、胴の各節より一對宛の肢を出し肢の總數は二十對あり、第一對の肢は變形して顎肢となりて前方に向ひ内部には毒腺を先端には爪を有す蛾其他の小蟲を捕食す。

ゲジゲジ　觸角は長く胴の節毎に一對の肢を出し總計十五對あり細長にして淡靑色なり、夜間出でて蛾其他の小蟲を捕食す。

スデ　體は圓筒狀にして胴には三十乃至七十の環節を有す背面は暗褐色にして環節毎に黑點あり體側に開ける腺口より臭氣を出して體を保護す、顎肢を欠き各節毎に二對の肢を出す、枯葉、朽枝石下、樹幹の隙間等に棲み腐敗の植物質を食ひ生草の根を食ひキウリ等の葉を蝕害す、物に觸るれば直ちに體を螺旋狀に卷く性あり。

第四綱　甲殼類

第一目　胸甲類

イセエビ　房州より四國を經て九州に到る沿岸の近海の岩礁間に棲む、體長六七寸乃至一尺二三寸に達す頭胸部には二對の觸角一對の有柄複眼大顎一對小顎二對顎肢三對の口器と五對の步肢と二十一個宛の鰓あり腹部は七節より成り第七節は尾節にして扁平なり、この節と第一節とを除き第一乃至第六腹節には各一對の橈狀の游泳肢あり、夜間甲殼類を食ふ。

クルマエビ　本邦沿岸には十七八種あり、沙泥質の海岸に群居す海藻半ば腐敗せる動物を食とす、體色は概ね淡褐色又は灰色にして毎節の接合部には略ぼ並行して走れる十餘條の濃色條紋あり、乾製して多く支那へ輸出す、また釣餌とす、卵より出でたる幼蟲をノウプリアスといふ、シバエビの卵より出でたる幼蟲も亦然り。

シバエビ　東京灣、伊勢灣、瀬戸内海等に産す、殼は薄く柔く淡黃色にして微小なる綠色の斑點あり、體長四寸硅藻等を食ふ。

サクラエビ　體は淡褐色にして環節の縫合線の邊などには微小なる褐色點集まる、體長二寸五分位、發光器を有す。

ヤドカリ　卷貝類の空殼に入りて生活するを以て腹部は柔軟となり蝦狀なり、第六腹節の肢は鉤となりて貝殼の內面に引懸る、第一步肢の左方のハサミは大くなり殼孔を閉る蓋となる、成長するに從ひ大なる殼を採りて移る。

ガザミ　近海の沙泥底に棲む頭胸部の左右兩端は棘狀に突出す、第五對步肢の先端は葉狀をなしたち泳ぎに適す。

ベンケイガニ　頭胸部は四角形にして赤く步肢も鮮紅色なり、海に通ずる河流に棲み河堤に穴を穿ちて巣とす

ヘイケガニ　海產なり頭胸部には人面樣の紋理あり、最後の二對の步肢は短縮して背上に向ひ貝殼を支へて身體を保護す、幼蟲は片山病の病原蟲なる日本住血吸蟲の中間宿主たる宮入貝一名片山貝を食ふ利あり。

タラバガニ　イバラガニ科のイバラガニとシマガニ科のズワイガニの二種をいふ、前者は體三角形をなし第一對の步肢は鋏を有し右方のもの著しく大なり、北海道、樺太、勘察加、沿海州等に多く產す肉を罐詰とす、後者は福井、石川、新潟諸縣の日本海の沖合にてスケトウダラ即ち明太魚の群集する處に於てタラと共に捕獲せらるる故に鱈場蟹の名あり肉は美味にして鮮食し又罐詰とす

タカアシガニ　太平洋中の我近海の八十尋位の處に棲む胸甲の長徑は一尺三寸短徑は一尺第一步肢は四尺五寸に及ぶ大蟹なり。

アミ　好みて淺き港灣に來る胸部の八對の顎肢は內外二葉を有し二叉となり游泳用とす、佃煮、鹽辛

とし、また鰯なども餌とす。

シャコ　體長五寸餘蝦に似腹部大きく幅廣く五對の游泳肢あり、胸部には五對の顎肢あり、これに次ぐ胸部の最後の三對の肢は游泳用となる、第二對の顎肢は遙に大形にして鎌形をなし生きたる餌を捉ふるに適す、食用に供す。

第二目　節甲類

フナムシ　海岸に群居す、體は長卵形扁平にして暗綠色なり、屍肉などを食ひ海岸を淸潔にする效あり

ワラヂムシ　濕地陰所に棲む、體は扁平にして白粉を帶びたる淡紅色なり。

キクヒムシ　體長一二分體は扁平なり、大群をなして海中に浸せる木材、船底、土木工事を喰ひ縱橫の穴を穿ち大害をなす。

エラムシ　タヒノムシともいふ、鯛の顎に寄生し扁平にして小判形なり、若き時は雄で其後雌生殖器發育して雌となる。

トビムシ　ハネムシともいふ、濕地に普通なる縱扁の小蟲なり、よく跳躍す。

第三目　切甲類

カメノテ　沿岸の岩礁間に簇生す、鱗片を以て被はれたる柄を有し石灰質の殼片を有す、胸部にはフヂツボ及エボシガヒと同じく六對の分岐せる蔓狀の肢を有し絕えず之を動かして殼內に水流を循環せしむ幼蟲はノウプリアスなり。

エボシガヒ　浮漂せる物體に著生す、扁平なる五殼片を有し柄は長けれども鱗片を缺く。

フヂツボ　沿岸の岩礁木材等に固著す、六枚の硬き殼片は互に結合して城壘の如く體を包む、柄なし。

サツクリナ　海產の蟹の胸腹部の境に在る腸管部に寄生し囊狀にして諸方に根狀部を分枝す、幼蟲はノウプリアスなり。

テウ　ウヲヂラミともいふ、コヒ、鮒、トゲウヲ等の淡水魚に寄生す、扁平なる楯狀の頭胸部と小なる扁平の腹部より成り腹部は縱に二裂片に分れ尾鰭を形成す、口の兩側と下面とには二對の固

著器あり、胸部には四對の游泳肢あり。

レルネア　コチの眼玉タラ及アマダヒ等に寄生せる蠕蟲狀のものにして其前端部は葉片狀なり。

ホウネンギヨ　溜水等に棲み體は淡黃綠色に赤色を帶び美なり、胸部にある多數の葉狀に分岐せる游泳肢を用ひ背を下にして泳ぐ。

ミヂンコ　種類多く形狀も異なり、兩性生殖と雌のみでなす單性生殖と交代す、尤もカヒミヂンコには單性生殖のみをなすものあり、ケンミヂンコは瀦水及湖水に產し體長一分位第一觸角は長くこれにて游泳し胸にも四對の游泳肢あり、赤色の一眼を有す、カヒミヂンコの大多數は淡水に產し二枚の介殼に包まれ土沙上を匍匐す、ウミホタルも二枚の介殼に包れ海產にして上唇附近の腺より無色透明の粘液を分泌し之が海水に觸れて稍紫色の光を放つミヂンコは全體長楕圓狀卵圓形にして池堀等に夥しく棲み胸部の肢は多く且葉狀に分れ泳ぐ用をなす。

第三門　軟體動物

第一綱　頭足類

第一目　二鰓類

マダコ　沿岸の岩礁間に棲み夜間出でて甲殼類魚類等を食ふ、體は卵形にして足は太く三尺に及ぶ吸盤は二列に排列し柄なし、匍匐するや足を以て他物に攀ぢ上り體をば後方に垂れる、卵は多數集りて房をなし他物につく海藤花といふ。

イヒダコ　體長は五寸以內なり、卵粒は米粒狀をなし白色なり、これイヒダコの名ある所以なり、前種と同じく足は八本あり。

タコブネ　雌は薄き美しき殼を具へ背方の二本の扁き足にて之を支へて海面を游ぐ、又水底にあるや蝸牛の如く背上に介殼を運び轉倒の位置を取りて匍匐す、雄は體長八分餘介殼なし足は八本あり。

マイカ　胴は卵圓形にして扁平なり 肉鰭は其の側方を圍み胴の中央と肉鰭の末端との間に凹處あり甲は石灰質小舟狀なり足は十本あり、吸盤には柄を有し角質環を有す、體長七寸餘西南の海に多

しこフイカともいふ。

ヤリイカ　胴は圓筒狀をなし後方に至りて銳く尖る、甲は透明にして薄く鎗の穗に似たり體長一尺四五寸吸盤は小さく柄あり、足は細く短し、肉鰭は胴の半以上に着き二本の捉脚は長さ胴の三分の一乃至五分の一に過ぎず鯣の原料とす。

スルメイカ　胴は圓筒狀をなし頭部は大なり、甲は透明披針狀にして柄を有す、體長七寸許、吸盤は大きく柄あり、足は太く長し、肉鰭は胴の半ば以下につき橫幅廣し、捉脚は長さ胴の半位に過ぎず、東北西北海に多く常に大洋に群居す。

第二目　四鰓類

ホタルイカ　富山灣に產す、胴の長さは二寸位なり、胴の腹面皮膚全面にある小黑點眼下邊の五點等にて發光す。

アフムガヒ　印度洋、南太平洋、大西洋に產し夜間は海面に群泳す、介殼は螺旋狀にして許多の隔壁により て數房に分れ最終の大房中に動物が居るなり、殼の外面は赤褐色の斑紋あり殼を裝飾品、酒盃

等とす、足は數十本の觸脚となり吸盤なし。

第二綱　腹足類

第一目　有肺類

カタツムリ　陸上に棲み夜間活動す、二對の觸角を有し長き方の先端に眼あり、殼には蓋なし肺にて呼吸す植物を害す、マイマイともいふ。

ナメクヂ　普通は介殼を有せず、二對の觸角を有し長き方の先端に眼あり、外套膜は小さく楯狀なり。植物を害す。

第二目　前鰓類

モノアラガヒ　淡水に產し藻類小動物を食ふ、殼は薄く脆く椎實狀をなす、觸角は一對にして眼は其の內基部に在り。

タニシ 軟泥の湖沼、溝、水田等に產し有機物を食とす、殼は帶綠灰色卵形を常とす、眼は觸角の基部にあり胎生す食用とす。

カハニナ 本邦到る所の淡水に普通なる黑色長形の小貝にして暗色の表皮あり。

ウミニナ 沿岸の岩礁海藻中に棲息す、介殼は螺旋狀にして伸長し殼面に結節あり內外共に黑色なり長さ五分乃至一寸位あり。

ヘビガヒ 殼は管狀にして隔壁を具へ幼時は規則正しく螺旋せるも成長するに從ひ不規則に屈曲す、殼口圓く圓き蓋あり海中の岩石、珊瑚礁等に固著す。

ツメタガヒ 溫帶暖帶の淺海に產し砂中に棲む、殼は厚く球狀にして螺層少く殼口は半圓形をなす、口吻の下部に位する腺より酸液を分泌してハマグリ、アサリ等二枚貝類の殼頂附近に小圓孔を穿ち吻を挿入して養分を吸收す。

タカラガヒ 暖海に產し種類多し、殼は卵形若くは橢圓形をなし、厚く、殼口は狹長となり、兩緣は鋸齒狀をなし、殼の兩端に切込みあり、外套膜は兩葉に分れ、反曲して殼を被ふ、ホシダカラは伊太利式彫刻を施して諸器を造り、メンガタダカラは同じく裝飾品を造る外、阿弗利加の土人などは之を貨幣とす。

一名コヤスガヒ

ホラガヒ 殼長一尺六寸に達し殼上には一二の縱の腫脉あり主として熱帶附近に產す殼頂に孔を穿ちて陣貝とす。

アハビ 殼は耳形にして呼水孔は四五個のみ貫通し殼長五六寸あり肉は食用とし殼は青貝細工の原料とすカヂメを食とす。

トコブシ アハビと同所に棲む、殼長二寸餘淡褐色にして蒼色を帶び呼水孔は其緣低く六乃至九個貫通す

サザエ 拳狀の殼を有し、石灰質の蓋あり、殼面には管狀の突起を有するものと、之を有せざるものとあり。

ヤクワウガヒ 殼は往々人頭大に達しサザエの類なり薩摩大隅以南の諸島に產す、杯ボタン玉印材等を製す

アカニシ　介殼は螺旋形獨樂狀をなし殼の內面は鮮紅色なり淺海產の肉食種にして卵囊をナギナタホホヅキといふ因にバイの卵囊をヒヨツトコホホヅキ、ナガニシのをグンバイホホヅキ、房州ボラのをトツクリホホヅキといふ。

サラガヒ　ヨメガサラといふ海岸の岩礁に棲み殼は笠の如く殼面には無數の放射脈あり板狀の足は大きく蹠の中央を以て吸著す。

第三目　後鰓類

アメフラシ　海藻の生ずる處に棲む、體は卵圓形にして長頸と突起せる背と頭には四本の觸角を具へ鰓は背の中央にありて介殼及外套膜の裂片に因りて被はる、敵に遇へば紅紫色の液を出す卵塊は桃色長さ數間に達すトゲアメフラシの卵塊を乾したるものを海粉といふ食用とす。

ウミウシ　常に干滿兩潮線間の岩上等に多し體は長楕圓形にして二本の觸角を有す羽狀鰓は肛門の周圍に於て環狀に排列す。

第四目　有板類

ヂイガセ　海底の岩石に吸著し夜間出でて腐敗せる海藻等を食す、全體は小判形をなし頭と眼と觸角とを缺き足の狀態々齒舌を有することは腹足類に類似す、背には八枚の殼片が覆瓦狀に相連り全體長一寸二三分幅八分位あり。

第四綱　斧足類

第一目　有管類

ハマグリ　淡水の流入する沙泥の海底に棲む、蝶番には主齒三側齒は前方に一あり、雀大水に入りてハマグリとなり雉大水に入てハマグリの大なるものに化すとは古人の迷信なり、肉は食用とし殼は容器、白碁石、蛤粉の原料、貝細工等とす。

アサリ　殼面には輪層あり淡蒼色にして白色の雲紋と淡黑色の斑紋あり、蝶番には側齒なし。

マテガヒ　殼は圓筒形にして垂直の位置を取りて海底の沙中に埋棲す、前端よりは足を、後端よりは二本の水管を出す。

シヤコ　印度洋に多し、長さ四尺五寸重さ六十貫に達す、殼は重厚堅固にして扇形をなし其の表面には五條の强大なる放射狀の隆起あり。

シジミ　淡水に產す、殼は略三角形をなし、暗褐色の表皮あり、殼は往々青貝細工とし肉は剝身として食ふ。

第二目　無管類

カラスガヒとドブガヒ　淡水の軟泥底に棲む、カラスガヒは殼は長楕圓形をなし、長さ尺餘に及ぶ蝶番には後方に一大側齒を具ふるのみ、ドブガヒは殼質薄く表面平滑にして蝶番に齒なく長凡そ二寸五分本州の諸川に棲む、肉は佃煮とし煮ても食ふ。

イガヒ　殼質厚く楔形を呈し黑褐色の表皮あり足は圓柱形にして其の基部にある腺より足絲を分泌して岩石等に固著す。

ヒミズガヒ　イシマテ又カツブシガヒともいふ、延長せる楕圓形にして一寸餘あり岸石珊瑚の骨骼等を穿ちて棲む、鷗貝も穴居す。

タヒラギ　千鳥が化せしといふ迷信あり、扇を半開せる狀の介殼を有し足絲を出して他物に附著す肉柱は罐詰とす。

アコヤガヒ　シンジユガヒともいふ、介殼は稍々四角形右殼は小さく之を下にして海底に横はりこの前緣にある孔より足絲を出して附著す、西南の暖海に多し、優等の眞珠を產し肉は食用となり殼はボタン製造等の原料となる。

ホタテガヒ　奥羽地方、北海道、樺太、千島の海に產す、右殼は皿形左殼は扁平なり、殼の表面には三十有餘の隆起あり、肉柱は美味なり殼を鍋の代用とす、兩殼合ふとき靱帶の左右に二つの隙間を生ず貝がピタリと殼口を閉づる時は水は後方の隙間より勢よく出て其の反動にて介殼は前方へ跳び泳ぐなり、イタヤガヒ、ツキヒガヒも此類なり。

カ　キ　左殼大きくこれにて岩石等に附著す、右殼は多少蓋狀をなす、肉は美味なり殼は燒きて石灰を製す。

第四門　蠕形動物

第一綱　環蟲類

ゴ カ イ　淡鹹水の混ずる泥沙中に棲み體長三四寸環節の兩側に疣足を生じこれより剛毛を生す、釣魚の餌とす。

ケヤリムシ　沿岸の岩礁間に厚き沙泥より成れる膜質の管を造りて著生す、頭には總の如き紫黑色の鰓を生す。

ゼルプラ　海底の岩石介殼等に白色石灰質の彎曲せる管を造りて固著す管口には冠狀の鰓と蓋とあり管の長二三寸に及ぶ。

ミ ミ ズ　土壤を呑みて糞土を排出す、ペリケータ蚯蚓にては硬毛は各節を圍みルンブリクス蚯蚓にては硬毛は四群に排列す。

イトミミズ　池溝の泥中に棲み形小なり、體の構造はミミズの如し。

イヨウビル　水田池等に棲む體輪は百二あり、五對の眼を有し前後二吸盤を有し、交互に用ひて匍匐しまた波狀に上下に體を動して游ぐ、背面には黃色の五縱線あり、下等動　捕食し又體外寄生として血液を吸ふ、醫治に使用す。

第三綱　圓蟲類

カイチユウ　體長八寸乃至一尺三寸圓筒狀にして前部は細く後部は稍太し、口緣には三乳頭突起あり人類の小腸に寄生す。

ゲウチユウ　雌の長さは三分三厘位で雄は其の半分位なり長紡錘狀なり口緣には三乳頭突起あり、人類の大腸に寄生し糞を食ふ。

ジフニシチヤウチユウ　雌の長さは三四分位で雄は其の半分位なり、體の前部は圓錐狀にして少しく背方に曲り口緣には腹面に四牙と背面には二牙とを有しこれにて人類の十二指腸壁及空腸壁に固著し腸粘膜を傷けまた血液を吸ふ、埃及ロース教授の研究により皮膚より侵入すること判明せりまた飲食物に混じても侵入することは勿論なり。

センマウチユウ　豚肉の纖維内の幼蟲が人體内に入れば劇しき吐瀉を起す人類及多くの食肉獸類の小腸内に寄生するものは成蟲にして雌は體長一分位尾端は鈍圓なれども雄はこの半分位なり雌は凡そ千五百疋の仔を胎生す、この仔は後筋肉中に入りて螺旋狀に埋沒す此の場合となれば最早病を起すことなし一にトリキネといふ。

第四綱　扁蟲類

ウヅマキムシ　プラナリヤともいふ池溪流等に棲む、腹面には口あり體の全面にある纖毛を動して石面などを滑かに動く。

カウガイビル　濕地に棲む、頭は笄狀にして左右に擴り體は細長にして腹面に口あり背腹は黑色にして口部は白し、纖毛にて動く。

ヂストマ類　フタクチムシともいふ體軀は通常木葉狀或は舌狀なり、體面には纖毛なく多くは脊椎動物の内臟魚類の鰓等に寄生す、口は體の前端に位し腸は二叉に分れ肛門なし、口の周圍には皿狀の吸盤を有し腹面にも吸盤あり、雌雄同體なり。

肺臟ヂストマ　體は卵圓形にして其鈍端には圓錐形の一小突起あり、體長二三分新鮮のものは赤色なり、岡山、熊本、岐阜縣等に流行し肺臟に空洞を造り咯血せしむ、中間宿主はサハガニ及モクヅガニ等なり。

肝臟ヂストマ　全體は箆形にして體長四分乃至六分餘あり、人類の肝に寄生す、岡山、廣島、宮城、新潟、長崎縣等に流行す、第一中間宿主はマメタニシなりといふ說あり又第二中間宿主はハエ、タナゴ、モロコ等の小魚なりといふ。

カンテツ（肝蛭）　羊、牛等の肝管及膽囊に寄生す、通常幼蟲、胚囊、レヂア、及びセルカリアと四回代を重れて後、長楕形のヂストマとなる。

ミゾサナダ　頭の兩側には各一縱溝あり、頸は細長絲狀なり三四千の片節あり片節は幅廣し幼蟲は絲狀にして主にマスに寄生す。

カギナシサナダ　頭には四圓吸盤あり、千二百節あり老成の片節は縱長なり、幼蟲は圓形の囊蟲にして牛肉に埋存す。

カギサナダ　頭には四圓吸盤と二十二乃至三十二の鉤が二列に生ず、片節は横長なるも後方の者は縱長なり片節は八九百個あり幼蟲は球形の囊蟲にして豚肉中に埋存す、片節は一個宛大便と共に出るが、前二種の者は數個宛切れて出づ。

第五門　棘皮動物

第一綱　海膽類

ウニ　海底の岩石に固著す、體は略半球形をなし棘あり、口は腹面にありて齒あり肛門は背の中央にあり卵巢を食用とす。

マグソガゼ　バフンウニともいふ棘は細く短く殼は暗綠色若くは灰褐色等なり。

タコノマクラ　マンヂユウともいふ、體は扁平なる圓形にして殼頗る厚く步足は背面の中央に花瓣狀に並び肛門は體の後方にあり。

キキヤウガヒ　殼は扁平なる薄き圓盤形にして表には桔梗の花の如き斑紋あり裏面には蓮葉狀の模樣あり、海底の泥土中に棲む。

第二綱　海星類

ヒトデ　海岸に普通なり、五本の腕を有するものにては腕は深く切れ込み先端に至つて次第に狹小となる、暗紫色のものあり、六本の腕ありて赤紅色のものもあり、八九本の腕あるあり、口の奧に囊狀の胃あり、これより各、腕に向ひ二枝に分れたる盲囊あり、これ肝臟なり、腕の先に眼あり步足は腹面の溝より出づ、好んで貝類を食ふ。

モミヂガヒ　岩礁沙濱にあり、體には星形の腕を有し腕には六角形の大なる石灰質の棘あり、肛門なし步足には吸盤なし。

イトマキヒトデ　腕短く全形五角形をなし、背面は青藍色にして赤斑を有し、腹面は樺色にして美なり貝類を食ふ。

クモヒトデ　中央の體は圓盤をなし極めて長き五本の腕あり、腕は上下左右によく動く、肛門なし、步足は側面板と腹面板との境にある孔より出づれども、運動の用をなすことなく、呼吸作用を營む、岩礁下海藻の根部、若しくは砂中に棲息す。

第三綱　沙噀類

ナマコ　内海の波靜に岩礁多く海藻の繁茂する處に棲む、體は伸長せる圓筒狀にして口の周圍に二十本の菊花狀の觸手あり、皮膚は粘質に富み其の中に顯微鏡的の小骨片あり、腸を鹽漬とせるはコノワタにして、煠でて干したる者はイリコなり。

キンコ　三陸の近海、渡島、根室、樺太等に產す、體は長楕圓形にして體長三寸乃至五寸あり、口には十本の樹枝狀の觸手あり體色は灰褐色のもの多し、多くは鮮食しまた乾製してキンコを製す。

第四綱　海百合類

ウミユリ　ヒトデを倒にして柄を付けたるが如し、體は盤狀をなし其の中央に口あり、口緣には五本の腕あり每腕更に分岐し各枝は更に小枝を列生し屈伸自在なり、各腕にある步足は羽狀に變じて呼吸作用を營む、肛門は口の側に開く、柄には節あり長さ三尺許ありこれにて海底に固著す　相模洋及駿河灣の二三百尋の深處に產す、トリノアシともいふ。

ウミシダ　五腕は各分岐し其兩側に小枝を列生して羽狀なり、幼時は柄を有するも、成長の後は離れて海底に匍匐す。

第六門　腔腸動物

第一綱　珊瑚類

第一目　八射類

アカザンゴ　群體をなす、一個體は短き圓筒形にして短き食道を具へ腔腸には放散狀に並べる八個の隔膜を有し、口の周圍には八本の羽毛狀をなせる觸手あり、土佐薩摩等に產す、棲處は五十尋乃至七十尋の岩礁ある海底にして黑潮の通る處か若は水が清く暖かなる處なり、岩礁より懸垂し扇形をなし平面に枝を出す、高さ幅共に一尺軸の直徑一寸に達す軸は暗赤色中心は白し、簪の玉、カフス釦、袋物の緒締用の玉、根掛の玉、裝飾用ピン、諸種の裝飾用彫刻品とす。

モモイロサンゴ　高さ幅共に三尺軸の直徑二寸に及ぶあり、軸は赤く中心は白し、薩摩、四國、紀伊及地中海に產す。

シロサンゴ　軸は白く中心は淡赤色なり、九州、四國、薩摩に多く產す。

イソバナ　我國の東海岸の比較的淺き所の岩礁に附著す、樹枝狀の群體は殆んど一平面に擴り淡紅、黃、橙黃、樺、暗褐等あり。

ウミマツ　黑珊瑚ともいふ主に日本海に產す樹枝狀をなし骨格は黑色なり之を床飾、煙管、印材等とす

ウミエラ　柄を以て二三尋位の海底の沙上に樹立す、肉質にして紅き鰓狀部の緣に許多の圓筒狀の蟲が列生す。

ウミヤナギ　群體は細長眞直にして長さ三尺に達し全觀は柳枝に似たり、中軸は長く硬く白色なり俗に白珊瑚といふ、箸、ステッキ、菓子スダレ等に造る、房州、常陸等の海底の沙中に多く產すれども、因幡鳥取の名產なり。

ウミサボテン　沿岸の沙泥地に柄を挿入して直立す、群體は大なる棍棒狀をなし上端は圓く下端は細長く尖れり。

第二目　六射類

イソギンチヤク　海岸の岩石の上に固著す、體は圓筒形、球形等をなし群體を造らず分裂生殖をなす、口の周邊には九十六本等の如き六の倍數より成れる觸手が菊花狀に開く、體色は紅色のもの、綠色のもの、橙黃色の線あるもの等あり。

ミドリイシ　群體は樹枝狀をなし骨骼を包める軟部は生時は綠色を帶ぶ珊瑚礁を造る骨骼は燒いて石灰とす

クサビライシ　群體は椎茸、松茸などの傘部を裏返しにして其の柄を取り去りたるが如き狀をなし隔膜は放射狀に排列せる褶となる暖海に多く產す。

キクメイシ　群體は半球狀の塊をなし其の表面には數多の菊花狀の凹みありこれは一個蟲の隔膜の跡なり、珊瑚礁を造る。

ビハガライシ　群體は樹枝狀をなし一個蟲の跡は凸隆せる猪口狀をなし全觀は批杷の實を取りたる跡の枝に似たり、珊瑚礁を造る、因に珊瑚礁は赤道の南北三十度以內の低緯度の海に產す、海水の溫度は攝氏二十度以下にては生存せず、且つ河水の流れ込まざる清澄なる海水なるを要す我南洋にては深さ五十尋の處にも存在すれども其の最も多くあるは三十尋位の處なりと、然してミドリイシ多しといふ。

第二綱　水母類

ミヅクラゲ　圓盤形の體即ち俗にクラゲといふ體は、直徑五六寸乃至一尺あり。白色透明にして稍水色を帶ぶ傘の緣邊は八個の緣瓣に分れ緣には絲の如き多くの觸手ありて其の間に八つの眼あり、口の周圍には四個の口腕あり、雌雄異體なり生殖器は四個淡紅色なり、故にヨツメクラゲともいふ圓盤形のクラゲが有性生殖をなして生じたる幼蟲は海底に固著して圓筒狀の體となり芽生して圓盤形のクラゲを生しこのものが離れて海に浮ぶなり、この兩形は親子の間柄にして圓盤形のものは有性生殖をなし子の代即ち圓筒狀のものは無性生殖をなし孫の代に至りて再び有性生殖をなし曾孫の代に至りて亦無性生殖をなすを以て之を變態とは稱せずして世代の交番といふミヂンコ及肝蛭も亦世代の交番をなすものとす。

タコクラゲ　八個の口腕あり其の表面に數多の漏斗狀の小孔を開き食物を吸收す、傘の緣に觸手なし、淡褐色にして淡綠色の斑點あり。

ビセンクラゲ　備前の兒島灣肥前の有明灣等南海に產す、傘深く徑尺餘あり色は藍靑色を帶び外面は厚く硬し之を明礬又は酢に漬けて食用に供す、口腕八本あり。

ヒドラ　池溝等の水草其他に懸垂す雌雄同體にして卵を生すれども芽生に因りて盛んに繁殖し群體を造

らず、體は圓筒狀にて六乃至八本の觸手あり伸びる時は一寸位に達す、ミヂンコ等を食とす。海藻等に固著せる樹枝狀をなせる群體にして外觀植物の如し、一個一個の蟲は圓筒狀をなす顯微鏡にて檢せざれば判明せず。

カヤ

カツヲノエボシ　南海の海洋に浮漂し春季カツヲの群來の際黑潮に流されて本邦近海に來る、カヤと異り群體をなして海面に浮び一個一個の蟲には分業あり即ち氣胞體をなせる蟲は大きく三角形をなし其の下面より營養蟲、感覺蟲、觸手及び葡萄房狀の生殖器を密生して垂下せしむ觸手は細長なる扁平なる紐にして藍色を呈し刺細胞叢ありて螫すこと甚し、一たび刺さるれば嘔吐を催ふし一週間位も惱むといふ、この外にカツヲノカムリ、ボウズニラ、ヤウラククラゲ等を合はせて管水母類といふ俗にニラといふもの是れなり。

第七門　海綿動物

ユアミカイメン　塊狀の群體をなす、中層に在る骨骼は彈性ある角質にして柔なり、我琉球、臺灣に產すれども カリビアン海、メキシコ灣等は主產地なり、沐浴用、化粧用及洗滌用とす。

ウミヘチマ　本邦の沿海に多く產す、生時は淡紫色なれども乾けば骨骼は淡黃色にして强直なり、骨骼は角質纖維と硅質の針骨とを有し實用に供せられず、ワタトリともいふ。

カイラウドウケツ　相模洋、阿波沖、ボルネオ島の沖等百尋二百尋乃至五六百尋の岩底に棲む硅石質の海綿なり高さ五六寸乃至二尺七八寸筒の直徑七八分乃至二三寸位あり、玻璃質の小骨片が無數に集りて籠目狀の筒を造り、この骨骼を取り圍みて無數の海綿蟲が群棲す、筒の內側には肉眼に見へざる無數の鞭毛を生じ絕えず之を動して海水を筒內に取り入れ一旦入りたる水をば筒の頂上の粗い籠目より外へ流し出す裝置あり、筒內に小蝦の雌雄棲み一生涯出でず、故に此名あり。

ホツスガヒ　相州三崎沖の如き三四百尋の暗礁なき平坦なる沙底に一束となれる玻璃質の條を以て直生し海綿體は圓塊狀をなす、束の外面には一種の珊瑚蟲附著せり。

イソカイメン　レニエラともいふ、海岸の岩礁上に噴火山狀の群體をなし赤色黑色等あり。

タウナス 内海の淺き砂泥の海底に棲む、形タウナスに似て徑二三寸あり、橙赤色をなす。

マミヅカイメン 池、湖、河流の岩石、杭、植物の莖等に固著し不規則なる樹狀をなし一尺以上に及び多くは淡綠色なり盛んに水道の水に繁殖して鐵管を閉塞したる例外國にあり。

第八門　原始動物

第一綱　纖毛類

ザウリムシ 淡水海水に產す、體は扁平の長橢圓形にして長さ八毛許、體の前側部に口と漏斗狀の食道あり其內面にも纖毛あり、體の全面にある纖毛を以て游泳す、三百代も分裂生殖す、此時他の容器にありし蟲を放てば二個蟲は互に口を以て吸著し接合して一塊となり亦三百代も分裂生殖す。

ツリガ子ムシ 體は釣鐘狀をなし細柄によりて淡水にある藻類等に固著して群居す釣鐘狀部の口緣にある纖毛を振動して食物を體內に取り入る縱裂して繁殖し又芽生し芽が母體を離れて一個體となる。

ラッパムシ ラッパ狀をなし或時は柄を以て他物に著き、或る時は自在に水中を游泳す、體面には纖毛を生ず、淡水に棲む。

第二綱　鞭毛類

ヤクワウチユウ 海面に棲む體は球狀をなし直徑三厘餘に及ぶ、網狀をなせる原形質は強き伸縮力あり、されば或る刺激を受けて之を伸縮せしむれば海水に觸れて光を放つ、口邊より一本の鞭毛(觸手)を出し、之を用ひて海水を游泳す。

ミドリムシ ユーグレナともいふ、不潔なる池溝に棲む、體は紡錘狀をなし前端よりは一本の長き鞭毛を生じ之を用ひて游泳す、體の前端には赤色の眼點あり、葉綠粒を有するを以て綠藻類に編入することあり。

トリパノゾ 體は多少扁平にして紡錘狀をなし一端は細く尖り一本の鞭毛を生ず、人類、犬、馬、羊、牛、駱駝等の循環系に寄生す、一種トリパノゾーマ・ガンビエンセは人類の血液に入り神經系を犯

ーマ　し睡眠病を惹起す、此病は阿弗利加の北セネガル、コンゴー自由國、佛領コンゴー等より英領東阿弗利加に侵入し數年にして五十萬の人命を奪ひたり、傳播者はチエツチエ蠅なり。

第三綱　胞子蟲類

プラスモヂウム　淡色のアミーバ狀をなす、該蟲の發育せるものを宿せるハマダラカに螫さるるにあらざれば決して傳染せず、マラリヤとは瘴氣と譯し昔時は不良の空氣より傳染するものと思ひしに西暦千八百八十年に佛國の軍醫ラヴエラン氏は本患者の赤血球中に始めて本蟲を發見せり、内地に普通なる三日熱原蟲は胞子を生ずる迄に四十八時間を要す。

微粒子蟲　蠶兒と其の卵蛹成蟲に寄生する楕圓形の小蟲にして透明にして光澤あり、長き一毛の千分の九十九位に過ぎず、病める蠶兒の患部は濃褐若くは黑褐色の斑點を生ず。傳染性のものなり。

第四綱　根足類

ハウサンチユウ　總べて海産にして無數に大洋の表面に浮游す、美しき硅石質の骨骼は放散狀に並び且つ絲狀の僞足を放散狀に出す。

イウコウチユウ　總べて海産にして海底を匍匐するものあれどもまた海の表面に浮ぶものありまた他物に固著するものあり多くは炭酸石灰より成れる殼を有し殼は單室のものや數室のものありて多くは螺旋狀に卷く殼の壁に無數の小孔を有するものにては、この小孔と殼口とより毛狀の僞足を無數に旭狀に出しこれにて運動しまた食物を捕食す、美濃赤阪産の鮫石なるものはフズリナ一名紡錘蟲と稱する古生代の石炭紀に繁殖せし有孔蟲の遺骸より成れるものなり、此蟲は大きく豆粒大なり。

アメーバ　體は粘液狀にして内外二層より成り中央の大部分を占め且顆粒に富むものは内肉にして其の外部にありて透明なるものは外肉なりこれより指狀の僞足を出して水草などの表面を匍匐しまた硅藻などを捕ふ、内肉中には核食物の顆粒と伸縮胞とあり、分裂によりて繁殖す。

動物界の分類表と、各綱目の通性

全動物界を大別して次の八門とし、次に各門を分ちて更に若干の綱とし、綱を更に細別して目とし、目の下に亞目、類を置き、更に之を細別して科、屬とす。

第一門　脊椎動物

（通性）1、體の中軸に脊柱あり　2、脊柱は多數の椎骨より成る　3、體を橫斷すれば、脊柱を中心として其の前後に大小二腔を見るべし、其の背側にある小腔は脊髓を收め、腹側にある大腔には消化器、呼吸器、循環器、泌尿器等を收めたり、この腔を體腔といふ　4、體制は左右同形なり。

第一綱　哺乳類

（通性）1、皮膚の表面に毛を有す　2、溫血なり　3、カモノハシ及ハリモグラは卵生なれども其の他は胎生なり　4、幼兒は必ず乳汁を用ひて育てらる　5、頭骨は二個の髁狀突起を以て脊柱と關節す　6、體腔は橫隔膜に因りて胸腔と腹腔とに分かる　7、心臟は二心耳二心室に區劃せらる　8、肺臟に因りて空氣を呼吸す。

第一目　猿類

（通性）1、四肢皆手の用をなす　2、前肢は後肢よりも長し　3、扁爪あり　4、眼球を容るべき骨の窩あり　5、拇指は他の四指と向き合ふ。

例　サル　シヤウジヤウ　クロシヤウジヤウ　オホシヤウジヤウ　テナガザル　チナガザル　ヒヒ　テングザル　チマキザル　クモザル　キツネザル

第二目　食肉類

（通性）1、多くは他の動物を捕食す　2　門齒は割合に小さく、犬齒は强大にして牙となり、上顎にある最後の前臼齒（脫け換る奥齒のこと）と、下顎にある第一後臼齒（脫け換はらぬ奥齒）は

食肉齒と稱し肉を裂くに適す。

第一亞目　裂脚類

(通性) 1、大多數のものは陸上に棲む　2、兩肢共に趾には分離せる爪を有す。

例　ネコ　シシ　トラ　ヘウ　アメリカトラ　イヌ　オホカミ　ヤマイヌ　キツネ　タヌキ　マダラオホカミ　マングース　イタチ　ラツコ　カハウソ　スカンク　アナグマ　クロクマ　ヒグマ　シロクマ

第二亞目　鰭脚類

(通性) 1、皆水中に棲む　2、體軀は伸長して紡錘狀をなす　3、四肢は鰭狀に變化し、皆五趾を具へ、其の間に蹼を張れるを以て、爪は互に連絡す。

例　オツトセイ　アシカ　アザラシ　セイウチ

第三目　有蹄類

(通性) 1、概ね大形の食草獸なり　2、趾端には蹄あり　3、臼齒は多くは濶大鈍頭にして、植物質の食物を磨碎するに適す。

第一亞目　奇蹄類

(通性) 1、兩肢共に拇趾なし　2、第三趾最もよく發達して地を蹈み、第二第四趾は僅に痕跡を留むるに過ぎず。

例　ウマ　ウサギウマ　サイ　バク

第二亞目　偶蹄類

(通性) 1、兩肢共に拇趾なし　2、第三第四趾最もよく發達し、第二及第五趾の發育狀態は種類に因りて異る。

第一類　反芻類

(通性)1、胃は通例四嚢より成り食物を反芻す。

例 ウシ スヰギウ カモシカ ヒツジ ヤギ シカ トナカイ キリン ジヤカウジカ ラクダ アルパカ ラマ

第二類 雜食類

(通性)1、胃は單一にして食物を反芻せず 2、植物質及動物質を食す。

例 ヰノシシ ブタ カハウマ

第四目 長鼻類

(通性)1、鼻は全部筋肉質より成り、手の代用をも兼ぬ。

例、インドザウ アフリカザウ マンモス

第五目 鯨類

(通性)1、海中に棲む 2、體形は魚に似たり 3、皮膚の表面に毛なし 4、前肢は鰭狀となる 5、後肢を缺く 6、尾はよく發達して筋肉に富み、鰭狀をなし、且水平に擴がり上下に動く 7、眼は小なり 8、鼻孔は頭上にあり 9、骨は質粗鬆にして、其の中室には脂肪充滿せるを以て、骨骼は著しく輕し 10、口には鬚のみを有するものと、齒のみを有するものとあり。

例 セミクヂラ ナガスクヂラ イワシクヂラ イルカ マツカウクヂラ サカマタ一名シヤチ ウニコール ジユゴン

第六目 齧齒類

(通性)1、概ネ小形なる獸なり 2、繁殖力極めて盛んなり 3、草根木皮穀物を食し、門齒は通常兩顎に二枚宛あり、形鑿の如く、其の前面にのみ琺瑯質を被るが故に、堅き物を嚙むに當りて、齒の後面は漸々に磨り耗り、緣は鋭くなるも、常に延びて止まざるが故に、よく消耗せる部分を補ふなり 4、犬齒を缺き門齒と臼齒との間には廣き隙間あり 5、臼齒は小なれども眞に臼狀をなす。

例　ネズミ　ノウサギ　カヒウサギ　エナゴウサギ　リス　ムササビ　カイリ　ヤマアラシ　モルモット

第七目　翼手類

（通性）1、前肢の拇趾以外の指は甚だ長く伸び、これには飛膜ありて飛ぶ用をなす　2、前肢の拇趾と第二趾とには鉤爪あり、尤も食蟲蝙蝠類にては拇趾にのみ鉤爪あり　3、後肢の五趾は皆短くこれには鉤爪あり。

例　カウモリ　オホカウモリ

第八目　食蟲類

（通性）1、口吻は伸長す　2、臼歯の咀嚼面には鋭るどき圓錐形の突起あり　3、多くは昆蟲及蠕蟲を食す　4、短脚を有する小獸なり。

例　モグラモチ　カハネズミ　ハリネズミ

第九目　貧齒類

（通性）1、齒を有せざるものあり（例へばセンザンカフ及アリクヒの如し）　2、齒を有するものにても其の構造は不完全にして、齒根及琺瑯質を缺く　3、センザンカフの外は總べて南米に產す。

例　センザンカフ　アリクヒ　アルマヂロ　ナマケモノ

第十目　有袋類

（通性）1、腹部の皮膚の褶襞より成れる袋あり、この中に仔を入れて養育す　2、コモリネズミの外は濠太利亞大陸及附近の島嶼に產す。

例　オホカンガルー　コモリネズミ

第十一目　單孔類

（通性）1、卵生なり　2、輸尿管と生殖輸管とは、直腸の末端に開き、單一なる排泄腔を成すこと鳥類のと同一なり　3、濠太利亞大陸及附近の島嶼に產す。

例　カモノハシ　ハリモグラ

第二綱 鳥(テウ)類(ルヰ)

(通性)1、體面に羽毛を生ず 2、温血なり 3、卵生なり 4、頭骨は一個の髁狀突起(クワジヤウトツキ)を以て脊柱と關節す 5、體腔には横膈膜なきを以て、胸腔と腹腔との區別なし 6、心臟は二心耳二心室に分かる 7、肺臟に因りて空氣を呼吸す 8、前肢は翼(ツバサ)となり飛翔(ヒシヤウ)の用をなす 9、二足にて運動す。

第一目 猛(マウ)禽(キン)類(ルヰ)

(通性)1、性質猛(タケ)く死屍腐肉(シシフニク)を食するものあれども、多くは弱小なる動物を捕へ食ふ 2、嘴(クチバシ)は強大鋭尖(エイセン)にして、上嘴の先端は鉤曲して肉を裂くに適す 3、翼(ツバサ)は體の割合に強大なり 4、四趾には有力なる鉤爪(コウサウ)を具へ、以て食餌(ニ)を握り且之を支ふるに適す。

例 ワシ タカ トビ コンドル フクロフ ミミヅク

第二目 攀(ハン)禽(キン)類(ルヰ)

(通性)1、脚には四趾を有し、二趾は前向し、二趾は後向す 2、樹木に攀ぢること巧(タク)みなり。

例 キツツキ ホトトギス クワクコウ アフム インコ

第三目 鳴(メイ)禽(キン)類(ルヰ)

(通性)1、烏(カラス)の如く大なるものあれども、多くは小形なり 2、脚は細短にして三趾は前向し、一趾は後向す 3、雄(ヲス)は雌(メス)よりも美麗にして、多くは美音を發してよく囀(サヘヅ)る 4、多くは群居し、性質敏捷(ビンセフ)にして快活(クワイクワツ)なり 5、巧に巣を造るもの多し。

例 ツバメ ヒタキ セキレイ ヒバリ ミソサザイ モズ ヤマガラ シジフカラ ヒガラ カラス ムクドリ メジロ ゴジフカラ スズメ ニウナイスズメ ツグミ ウグヒス カナリヤ アマツバメ ゴクラクドリ ヨタカ ハチドリ イスカ カハセミ

第四目 鳩(ハト)類(ルヰ)

(通性)1、嘴は短く且柔軟にして、唯先端に於てのみ角質(カクシツ)なり 2、鼻孔は膨起(バウキ)せる肉質の鱗片(リンペン)を以て被はる 3、翼(ツバサ)は長く尖り、巧妙且迅速に飛翔(ヒシヤウ)す 4、足は短く赤く、三趾は前向し一趾

は後向す　5、果實穀類等を食とす。

例　イヘバト　カハラバト　キジバト　アヲバト

第五目　雞類

(通性) 1、地上に棲む　2、體は概ね短大にして羽毛を密生す　3、嘴は強壯且短直にして鋭るどく種實を碎くに適す　4、翼は短く且圓く永く高所に飛ぶこと能はず　5、脚は短く強壯にしてよく走り、爪太くして、巧に地を搔撥して、穀類小蟲などを食ふ　6、頭頂には肉冠を具ふるものあり　7、雄にては距よく發達し、性頗る鬪爭を好む　8、通常雄は雌よりも美麗なり。

例　ニハトリ　シチメンテウ　クジヤク　キジ　ヤマドリ　コウライキジ　ウヅラ　ライテウ　ホロホロテウ

第六目　涉禽類

(通性) 1、湖河、海岸、沼澤等の濕地に棲み、淺水を渉りて昆蟲、蠕蟲、軟體動物、魚類、蛙、及植物を食ふ　2、頸と脚とは長し　3、多數は渡り鳥なり。

例　タンチヤウヅル　マナヅル　コフノトリ　シラサギ　ゴヰサギ　シギ　クヒナ　バン　オホバン　チドリ　ミヤコドリ

第七目　游禽類

(通性) 1、水面又は水中を泳ぐを以て、體は肥大し、羽毛は密生し、脂肪腺も發達し、腹部は舟底狀をなし、脚は短く且遙かに體の後方につき、趾間には蹼ありて游泳に適する樣になる　2、常に群居し、多くは渡り鳥なり。

例　カモ　アヒル　ヲシドリ　ガン　ガテウ　ハクテウ　ウ　ペリカン　カイツブリ　ペンギン　カモメ　アハウドリ

第八目　走禽類

(通性) 1、翼は甚だ小さく全く飛ぶに適せず　2、脚は頗る強大にして疾走するを得　3、大胸筋小く、隨つて之を附着せしめる龍骨突起を缺く　4、阿弗利加、濠太利亞及南米の沙漠に產

し、多くは植物を食ふ。

例　ダテウ　レア　ヒクヒドリ　エミウ　キヴ井

第三綱　爬蟲類

（通性） 1、體面に甲鱗を被る　2、冷血なり　3、マムシの如く胎生のものあれども、多くは卵生なり　4、頭骨は一個の髁狀突起を以て脊柱と關節す　5、心臟は二心耳一心室より成れども、鰐類にては、二心耳二心室より成る　6、一生涯肺臟に因りて空氣を呼吸す　7、鱗は皮膚の上層即ち表皮の變じたるものなり　8、皮膚には脂肪腺及汗腺なし。

第一目　龜類

（通性） 1、體は函狀をなせる背甲と腹甲とに因りて被はる　2、兩顎共に齒なし　3、陸棲のものの四肢は匍匐又は走行用となり、水棲のものにありては趾に蹼を有し、之を用ひて泳ぐ、殊に海產のものの四肢は櫂狀をなして游泳に適せり。

例　イシガメ　スッポン　アヲウミガメ　アカウミガメ　タイマイ

第二目　蜥蜴類

（通性） 1、體は細長くして小形の四肢を具ふ　2、全身には表皮より變じて成れる鱗を被ふ　3、兩顎には齒を有すれども、齒は靭帶に因りて顎骨上に附着するに過ぎずして、齒根を有せず　4、此類の大多數のものの尾は切斷しても、また再生す　5、多くは昆蟲類を捕へ食ふ。

例　トカゲ　カナヘビ　オホトカゲ　カメレオン　ヤモリ

第三目　鰐類

（通性） 1、表皮より變化したる鱗の外に、皮膚の下層なる眞皮中には骨板を生ず　2、兩顎には多くの圓錐形をなせる鋭齒を生じ、齒には齒根あり　3、熱帶の河湖沼澤に棲息す。

例　ワニ

第四目 蛇類

（通性）1、體は圓筒形にして、概ね四肢を缺く 2、兩顎には齒を列生すれども、齒は蜥蜴類に見るが如く靱帶に因りて顎骨上に固着するに過ぎず。

例 アヲダイシヤウ シマヘビ ヤマカガシ ヒバカリ マムシ ハブ メガネヘビ ガラガラヘビ エラブウナギ ニシキヘビ ウハバミ

第四綱 兩棲類

（通性）1、皮膚の表面には毛、羽毛、甲鱗を有せず、之を裸出するといふ 2、皮膚は粘液腺に富みよく濕潤す 3、冷血なり 4、大多數のものは卵生なり 5、卵より出でたる幼蟲は蝌蚪にして、幼時は鰓にて水を呼吸し、成長するに從ひ肺臟にて空氣を呼吸するを常とすれども、有尾類の一種なるオルム（墺國カルニオラ地方の洞穴に棲める盲目なる兩棲類なり）の如く終生三對の鰓を有して水を呼吸するものあり 6、頭骨は二個の髁狀突起を以て脊柱と關節す

7、心臟は一心耳一心室より成る 8、變態す。

第一目 無尾類

（通性）1、體は短大にして四肢はよく發達し陸上の運動に適す 2、成長の後は尾を缺く。

例 トノサマガヘル アマガヘル イボガヘル カジカガヘル ヒキガヘル アカガヘル ウシガヘル

第二目 有尾類

（通性）1、體は伸長し、四肢は短小なるを以て、陸上の運動甚だ拙劣なり 2、成長の後も大なる尾を有し、之を用ひて水中を泳ぐ。

例 ヰモリ ハコネサンセウウヲ オホサンセウウヲ

第五綱 魚 類

(通性)1、皮膚には、皮膚の下層即ち眞皮より生ぜし鱗を有す 2、冷血なり 3、多くは卵生なり
4、前肢は胸鰭に、後肢は腹鰭に變化す 5、一生涯を水中に送り、鰓を用ひて水を呼吸す
6、心臟は一心耳一心室より成る。

第一目 硬骨類

(通性)1、骨骼は全く硬骨より成る 2、鱗は圓滑鱗若くは櫛狀鱗にして、覆瓦狀に排列す
3、口は頭の前端に開く 4、鰓蓋あり 5、肛門は臀鰭の前方にあり 6、尾鰭は上下同形なり。

第一亞目 棘鰭類

(通性)1、脊鰭、腹鰭、及臀鰭共に棘を有す。

例 スズキ ムツ オホダヒ カサゴ アヂ サバ カツヲ マグロ サハラ コバンイタダキ ア
マダヒ アンカウ コチ ホウボウ カナガシラ ハゼ トビハゼ テッパウウヲ ボラ アナ
ベラ ウミタナゴ トゲウヲ

第二亞目 軟鰭類

(通性)1、脊鰭、腹鰭、及臀鰭は皆柔軟にしてよく屈撓し、棘を有することなし。

例 タラ ヒラメ カレヒ

第三亞目 喉鰾類

(通性)1、鰭は柔軟にして、屈撓性の環節ある刺より成り、只脊鰭と胸鰭の最前部に位する支條のみは往々棘狀をなすものあり 2、鰾は常に細管に因りて食道と交通す。

例 ナマヅ コヒ フナ タナゴ ヒガヒ キンギヨ ドヂヤウ サヨリ サンマ トビウヲ サ
ケ マス アユ ニシン イワシ コノシロ ウナギ ハモ アナゴ ウツボ メダカ ハダ
カイワシ シビレウナギ

第四亞目 固顎類

（通性）1、上顎骨は前顎骨と共に、頭骨と固著す 2、通例腹鰭を缺く。

例 フグ ハコフグ ハリセンボン マンボウ

第五亞目 總鰓類

（通性）1、體は伸長し、口吻も亦管狀に延び、口には齒なし 2、鰓孔は甚だ狹く、鰓は總狀なり。

例 タツノヲトシゴ ヤウジウヲ

第二目 軟骨類

（通性）1、骨骼は總て軟骨より成る 2、鱗は細齒狀をなし、覆瓦狀に排列せずして、敷石狀に並らべり 3、口は頭部の下面に横に開く、4、鰓蓋なし 5、肛門は腹鰭の間に開く 6、尾鰭は上下不同形なり 7、鰾なし。

例 アヲザメ ホシザメ ネコザメ シユモクザメ ナヌカザメ ノコギリザメ アカエヒ シビ

レエヒ ガンキエヒ

第三目 硬鱗類

（通性）1、鱗は板狀にして琺瑯質を被り、且硬くして光澤あり 2、骨骼は化骨甚だ不完全にして、半ば軟骨質なるもの多し、3、尾鰭は上下不同形なり 4、鰓蓋を有す 5、鰾を有す。

例 テフザメ

第四目 肺魚類

（通性）1、鰓を以て水を呼吸する外、鰾の變じて成れる肺臟に因て空氣を呼吸す 2、鰾は一個若くは二個の長囊にして、内面に網狀の隆起を有し、常に一條の短き氣道に因りて食道に通ず 3、鼻孔は四個あり、他の魚類と異り、口腔に開通す 4、心臟は二心耳と左右不完全に分れたる心室とより成る。

例 セラトダス レピドサイレン プロトプテラス

第五目　圓口類

(通性) 1、口は圓形にして、上下顎の區別なし　2、體は圓筒狀にして、胸鰭と腹鰭とを缺く　3、體の中軸には脊索を具へ、終生之を保有す　4、頭上には一個の鼻孔あり。

例　ヤツメウナギ　メクラウナギ

第一門附錄　被嚢類

(通性) 1、體面には、植物細胞膜と同質なる細胞膜質より成れる被包物を有す　2、幼兒は蛙の蝌蚪狀をなし、尾部に脊索を具へども、成長の後には之を消失す。

例　ホヤ

第二門　節足動物

(通性) 1、體は左右同形なり　2、體は數多の環節にて成る　3、外皮はキチン質(含窒素物なり)若くはこの中に沈澱せる石灰質より成り、硬くして、この內部に筋肉を附著せしむるを以て、之を外骨骼といふ　4、環節ある數對の足を有す　5、神經系は、食道の上に位する腦神經節と、食道の下にある一塊の喉下神經節と、腸の下面にある一對の神經節連鎖より成り、腦神經節と喉下神經節とは、食道を圍める二條の神經環に因りて連絡す。

第一綱　昆蟲類

(通性) 1、體は頭と胸と腹の三部に分る　2、頭には一對の觸角と一對の複眼とを具ふ　3、胸部には三對の肢を具へ、また其の背面には通常四枚の翅を有し、胸部は三環節より成る　4、腹部は九、十時には十一節より成る　5、腹部には肢なし　6、氣管に因りて空氣を呼吸す。

第一目　鞘翅類

(通性)1、前翅は角質硬固にして、腹部と後翅とを被覆して之を保護すれども、飛ぶ用をなさず　2、後翅は膜質にして、靜止する時は幾重にも縱横に疊み込みて、容易に前翅の下に收むべし　3、後翅は飛ぶ用をなす　4、口器は植物質若くは動物質を咀嚼するに適す　5、變態は完全なり。

例　ミチシルベ　ゲンゴラウ　ガムシ　ミヅスマシ　コメツキムシ　コクザウムシ　タマムシ　カミキリムシ　ホタル　ハネカクシ　テンタウムシ　ハンメウ　マメハンメウ　コガネムシ　サルハムシ　ウリバヘ　カツチプシムシ

第二目　鱗翅類

(通性)1、翅は前後二對ありて大きく、これには毛より變化せる紛狀の細鱗を被り、且美麗なる彩色を有するもの多し　2、左右の小顎は相集りて長管をなし、液汁を吸ふに適す　3、變態は完全なり。

第一亞目　蝶類

(通性)1、觸角は棍棒狀なり　2、體軀は割合に小さく、翅は體に比して大形なり　3、晝間飛翔し靜止の時は翅を直立せしむ。

例　アゲハノテフ　キアゲハ　モンシロテフ　スヂグロテフ　キテフ　モンキテフ　コノハテフ　イナモジセセリ

第二亞目　蛾類

(通性)1、觸角は鞭狀、絲狀、羽狀若くは紡錘狀等をなす　2、體軀は割合に肥大すれども翅は體に比して小形なり　3、多くは夜間出でて飛翔すれども、時にはセスヂスズメ、スヂグロスキバホウジャク、マイマイガ、カノコガ、ホタルガ等の如く晝間出でて飛ぶものあり、4、靜止の時は翅を屋背狀に疊む。

例　カヒコ　サクサン　ヤママユ　クリケムシ　テグスガ　ニクワメイチユウ　ヨタウムシ　ネキリムシ　クハエダシヤク　イガ　オホスカシバ　コスカシバ　ハマキムシ　マイマイガ　ミノムシガ　セスヂスズメ

第三目　膜翅類

（通性）1、四翅共に膜質にて、翅脈は少し。2、後翅は前翅よりも小さく、其の前縁には細き鈎の一列を有し、飛ぶとき、之れにて前翅の後端に絡み付けて、翅を廣く擴ぐる用をなす　3、大顎は咀嚼に適し、小顎と他の口器とは變形して舐めるに適す　4、多くは胸部と腹部との間に著しき縊れあり　5、鋸蜂科及樹蜂科を除き、幼蟲は皆無脚なり　6、變態は完全なり。

例　ミツバチ　アシナガバチ　ダンゴバチ　ヤドリバチ　バピホウ　アリ　エイノウアリ　モツシヨクシバチ

第四目　雙翅類

（通性）1、前翅一對のみを有し、これにて飛ぶ用をなす　2、後翅は太皷の撥狀に變化し飛翔の際、體の平均を取る　3、口器は吻狀をなして環節をなすことなく、液汁を吸ひ、また刺すに適す　4、變態は完全なり。

例　イヘバヘ　シマバヘ　サシバヘ　カヒコノウジバヘ　アブ　ウシアブ　ヒラタアブ　ノミ　キリウジカガンボ　ハマダラカ　ツエツエバヘ　ハナアブ　シホヤアブ

第五目　半翅類

（通性）1、口器は長吻となりて伸出し、液體を吸ふに適す　2、翅は種類に因りて一定せず、シラミにては翅を缺き、アブラムシ、ヨコバイ、ウンカ、セミにては膜質同形の前後翅を有す。またカメムシ、ナンキンムシ、タガメ等の如き、多くの種類にては、前翅の基部は革質不透明なれども、外縁には膜質部あり　3、變態はシラミの如く無きものあり、或はカヒガラムシの雄の如く、完全變態をなすものあれども、多くは不完全變態をなす。

例　クサガメ　タガメ　ナンキンムシ　セミ　アリマキ　ウンカ　ヨコバイ　カヒガラムシ　エンジムシ　フシノアブラムシ　シラミ　イボタラフムシ　アメンボウ

第六目　脈翅類

（通性）1、前後翅共に膜質同形にして、翅脈は網狀なり　2、口器は多くは咀嚼に適す　3、ウスバカゲロフ、クサカゲロフにては完全變態を經過すれども、カゲロフ、トンボ、ヤンマ、シロアリにては變態は不完全なり。

例　トンボ　ヤンマ　トウスミトンボ　カゲロフ　ウスバカゲロフ　クサカゲロフ　シロアリ

第七目　直翅類

(通性)1、前翅は革質にして、靜止する時は屋背狀に疊む　2、後翅は大きく、膜質にして略半圓形をなし、太き脈が翅の中央より周緣に向つて扇狀に射出せり、靜止の時は後翅をば、背上に眞直に疊む　3、變態は不完全なり。

例　イナゴ　バツタ　キリギリス　コホロギ　マツムシ　スズムシ　ケラ　カマキリ　ゴキブリ

第八目　彈尾類

(通性)1、翅なし　2、尾端には鞭狀若くは劍狀の附屬物を具へ、之を用ひて跳躍す　2、變態なし。

例　シミ　トビムシ　ザノミ

第二綱　蜘蛛類

(通性)1、頭部には觸角なし　2、胸部には四對の肢あり　3、腹部には肢なし　4、複眼なし　5、氣管若くは肺を以て空氣を呼吸す。

第一目　眞正蜘蛛類

(通性)1、體は頭胸部と腹部の二部に分れ、兩者の界には縊れあり　2、頭胸部と腹部とには環節を有することなし　3、腹部の末端には四若くは六個の紡績突起あり、これには絲腺の開口ありて絲を分泌す。

例　ヂヨラウグモ　ハヘトリグモ　トタテグモ　アリグモ

第二目　節腹類

(通性)1、腹部に環節を有す。

例　サソリ　メクラグモ

第三目　壁蝨(ダニ)類(ルヰ)

(通性) 1、頭胸腹部は結合して一塊となり、環節を有することなし　2、多くは寄生生活を營む。

例　イヌノダニ　ヒゼンノムシ　ニキビムシ　アカムシ　カブトガニ

第三綱　多足類

(通性) 1、體は頭と胴との二部より成る　2、頭には一對の觸角を有す　3、胴は胸と腹との結合したるものにして、多くの同形をなせる環節より成り、環節毎に一對若くは二對の肢を生ず　4、氣管を以て空氣を呼吸す。

例　ムカデ　ゲジゲジ　ヤスデ

第四綱　甲(カフ)殼(カク)類(ルヰ)

(通性) 1、水中に棲息し、鰓(エラ)にて水を呼吸すれども、中には體の全面にて呼吸を營むものあり　2、體は頭胸部と腹部の二部に分れ、頭胸部には二對の觸角を有し、胸部には若干對の肢(アシ)あり、また腹部にも若干對の肢を有し、前觸角の外、總ての肢は二分岐(ブンキ)す。

第一目　胸甲類

(通性) 1、頭部の環節は、前胸部の環節と結合するか、或は胸部全體の環節と結合して頭胸部となり以て一大甲(カフ)を作る　2、頭部は五環節、胸部は八環節より成る　3、頭胸部には一對の柄を有する複眼と、二對の觸角と、一對の大顎と、二對の小顎と、若干對の顎足(ガクソク)とを有す　4、腹部は六節より成り、この外に尾節(ビセツ)を有し、尾節を除く外は、皆一對の肢を具ふ。

例　イセエビ　クルマエビ　サクラエビ　シバエビ　ヤドカリ　ガザミ　タラバガニ　タカアシガニ　ヘイケガニ　ベンケイガニ　シヤコ　アミ

第二目　節(フシ)甲(カフ)類(ルヰ)

(通性) 1、頭部は常に五環節より成る　2、複眼には柄なく、二對の觸角と、一對の大顎と、二對の小顎と一對の顎足(ガクソク)とを有す　3、胸部は八環節より成り、第一胸節(稀に第二胸節も)は頭部と

結合して短き頭胸部を形成すれども、其の他の五乃至七環節より成れる胸部は、全く遊離して一大甲をなすことなく、これには一對宛の肢を具へて、匍匐若くは游泳用に供す。

例　キクヒムシ　フナムシ　エラムシ　トビムシ　ワレカラ　ワラヂムシ

第三目 切甲類

（通性）1、多くは小形の甲殼類なり　2、體の環節數と肢の數と其の形狀とは種類によりて一樣ならず。

例　フヂツボ　エボシガヒ　カメノテ　サツクリナ　ミヂンコ　ケンミヂンコ　レルネア　テウ　カヒミヂンコ　ウミホタル　ホウネンヂヨ

第三門 軟體動物

（通性）1、體は柔軟なり　2、骨骼なし　3、背部をなせる體壁の一部は褶襞となりて、外套膜

を形成して體を包む　4、體面は皆粘液を分泌して甚だ滑かなり　5、環節より成れる肢なし　6、通常外部に介殼を有すれども、唯保護用をなすのみにして、運動には與ることなし　7、體制は左右同形なり。

第一綱 頭足類

（通性）1、體は頭と胴との二部より成る　2、頭の兩側に一つ宛の大なる眼あり　3、頭頂の中央にある口の周圍には數本の圓筒狀をなせる脚を生ず　4、變態せず。

第一目 二鰓類

（通性）1、外套腔内には二鰓を有す。

例　マイカ　ヤリイカ　スルメイカ　ホタルイカ　マダコ　イヒダコ　タコブネ

第二目 四鰓類

（通性）1、外套腔内には四鰓を有す。

例　アフムガヒ

第二綱　腹足類

（通性）1、體は頭と胴とより成る　2、頭には眼を有する觸角を具ふ　3、腹部には筋肉發達して足となり、これにて匍匐す　4、舌を有す　5、多くは一枚の螺旋狀の介殼を有す、故に腹足類をば、また卷貝類、螺類、單殼類、若くは一枚貝類と稱することあり。

第一目　有肺類

（通性）1、陸上若くは淡水稀に鹹水に棲む　2、外套腔の內面には、血管が網狀に纏絡して、肺を形成し、これにて空氣を呼吸す　3、一體中に雌雄兩生殖器を具ふ、之を雌雄同體といふ。

例　カタツムリ　ナメクヂ　モノアラガヒ

第二目　前鰓類

（通性）1、大多數のものは海產なり　2、多くは螺旋狀の介殼を有す　3、鰓は一個にして心室の前

方に位す　4、雌雄異體なり　5、幼蟲は變態す。

例　タニシ　カハニナ　ヘビガヒ　ツメタガヒ　タカラガヒ　ホラガヒ　ウミニナ　アハビ　トコブシ　サザエ　アカニシ　ナガニシ　ヨメガサラ

第三目　後鰓類

（通性）1、海產にして、海藻繁茂する所に棲息す　2、多くは介殼を有せず　3、鰓は一個にして心室の後方に位す　4、雌雄同體なり。

例　アメフラシ　トゲアメフラシ　ウミウシ

第四目　有板類

（通性）1、頭と眼と觸角とを缺く　2、背面には前後に排列せる八枚の殼片を有す　3、淺海の岩礁上に固著す。

例　ヂイガセ

第三綱 斧足類

(通性)1、頭と觸角と眼(例外はあり)と舌とを缺く 2、脚は體の腹部にあり、其の形狀は縱扁にして斧狀をなす 3、鰓は左右二枚宛ありて、薄葉狀をなす、故に瓣鰓類ともいふ 4、左右二枚の介殼を有す、故に二枚貝類又は雙殼類といふ 5、幼蟲は變態す。

第一目 有管類

(通性)、外套膜の一部分は癒著して、長き水管となる。

例 ハマグリ アサリ マテ フナクヒムシ シヾミ トリガヒ シヤコ カモメガヒ

第二目 無管類

(通性)1、外套膜縁は多くは多少分離し、水管を有することなし。

例 カラスガヒ アカガヒ イガヒ カツプシガロ アコヤガヒ タヒラギ ホタテガロ カキ

第四門 蠕形動物

(通性)1、脊椎を有せざる動物の中で、節足動物若くは軟體動物に屬せざる、左右同形の動物を一括して便宜上、蠕形動物なる門に編入せるものなれば、全體に通ずる性質を述ぶること能はず 2、體は圓筒狀若くは扁平にして、皆體をうねらせて徐に匍匐す。

第一綱 環蟲類

(通性)1、體は長くして圓筒狀をなし、數多の同形の環節より成る 2、毎環節の境には隔膜ありて體腔を區劃せり。

例 ゴカイ ケヤリムシ セルプラ ミミズ イトミミズ イヨウビル

第二綱 圓蟲類

（通性）1、體は圓筒狀、紡錘狀若くは絲狀をなし、其の横斷面は圓形なり　2、體の表面には厚き硝子膜を以て被はれ、環節を有することなし　3、大多數のものは寄生々活をなす。

例　カイチユウ　ジフニシチヤウチユウ　センマウチユウ　ハリガネムシ　ゲウチユウ

第三綱　扁蟲類

（通性）1、體は扁平にして、多少伸長し、其の横斷面は扁平なり　1、條蟲類の如く消化管なくして、滋養分を、體の全面より吸收するものあり、ヂストマ及プラナリヤの如く消化管を具ふるものにありても、口、食道及腸を有するのみにして、肛門なし　3、體壁と腸壁との間に、體腔を有することなし　3、大多數のものは寄生々活をなす。

例　ウヅマキムシ　カウガイビル　ヂストマ　カンテツ　ミゾサナダ　カギナシサナダ　カギサナダ

第五門　棘皮動物

（通性）1、體制は放散狀同形なり　2、體は脊と腹との別あるのみにして概ね左右前後の區別なし　3、皮膚内に炭酸石灰質より成れる骨片を有す　4、體内には水管系と稱する運動器官あり　5、總べて雌雄異體なり　6、總べて海產なり。

第一綱　海膽類

（通性）1、體は多くは略半球狀なり　2、皮膚内にある石灰板は硬くして箱狀に結合し、相互に動くことなし　3、殼面にはよく動く所の棘を有す。

例　ウニ　バフンウニ　タコノマクラ　キキヤウガヒ　ブンブクチヤガマ

第二綱　海星類

（通性）1、體は扁平にして、通常星形若くは五角形をなし、通常五本の腕あり　2、體壁中ハ石灰板

は小さく、少し宛動く　3、腹面より管足を出す　4、腕はちぎれても再び生ず。

例　ヒトデ　イトマキヒトデ　モミヂガヒ　クモヒトデ　テヅルモヅル

第三綱　沙噀類

（通性） 1、體は長くして瓜の如く、一端に口を開き、他端には肛門あり　2、體壁には筋肉發達し、石灰質の骨片は、顯微鏡にて見るが如き極めて微小なるものとなり、皮膚中に埋沒するに過ぎず。

例　ナマコ　キンコ

第四綱　海百合類

（通性） 1、球狀若くは杯狀の體盤の下面より柄を出し、これにて海底に固著す　2、體盤の周緣よりは、環節を有する腕を出し、腕には羽毛狀の小枝あり。

例　ウミユリ　ウミシダ

第六門　腔腸動物

（通性） 1、體は放散狀同形をなす　2、體面には石灰質の骨板なく、また無數の小孔を有することなし　3、體壁と腸壁との區別なく、體腔は即ち消化腔なり　4、櫛水母類の外は、皆體の外面に刺細胞と稱する毒液分泌囊を有す　5大多數のものは海產なり　6、芽生によりて盛んに繁殖す。

第一綱　珊瑚類

（通性） 1、一個體は短き圓筒形にして、上端の中央に口あり　2、口の周圍には八本若くは六の倍數の觸手を生ず　3、口は必ず短き食道に因りて、腔腸に通ず　4、腔腸內には、縱に八個若くは六の倍數なる隔膜を有し、腔腸をば幾多の室に分劃し、其の下底に於て相通ず　5、多くは雌雄同體なり　6、多くは芽生によりて繁殖し、樹枝狀または塊狀の群體を造り、石灰

質の骨軸を生す。

第一目 八射類

（通性）1、觸手及隔膜は八個あり 2、觸手は羽毛狀をなす 3、內層と外層との間に骨軸を分泌す

例 アカサンゴ モモイロサンゴ シロサンゴ ウミマツ イソバナ ウミエラ ウミヤナギ ウミサボテン

第二目 六射類

（通性）1、觸手及隔膜は六の倍數より成る 2、外層より骨軸を分泌するもの多し 3、珊瑚礁（サンゴセ）を造るは、此類の動物に屬す。

例 イソギンチヤケ ミドリイシ ビハガライシ キクメイシ クサビライシ

第二綱 水母類（クラゲルヰ）

（通性）1、動物體には二樣の形あり、一つは圓筒形（エントフ）をなし、他物に固著すこれには食道及隔膜なし、一つは圓盤形をなし、寒天質（カンテンシツ）より成り、一面は圓く、緣（フチ）に近き處に發達せる環狀（クワンジヤウ）の筋肉を伸縮させて水面を浮游す、これは生殖作用を營む。

例 ミヅクラゲ タコクラゲ ビゼンクラゲ カヤ ヒドラ カツチノエボシ

第七門 海綿動物（カイメンドウブツ）

（通性）1、放散狀同形（ハツサンジヤウドウケイ）なり 2、塊狀若しくは圓筒狀をなして群體を營める固著動物なり 3、外皮面には無數の入水用の小孔を散在し、體の上端には出水用の一大孔を有す 4、纎毛室（センマウシツ）を有し、水流を體內に循環せしめると同時に、この室の細胞（サイバウ）は食物を吸收す 5、中層は甚だ厚く、其の中に種々の骨片を生す。

例 ユアミカイメン ウミヘチマ カイラウドウケツ ホツスガヒ イソカイメン タウナス マミヅカイメン

第八門　原始動物

（通性）1、總べて極めて細微（サイビ）なる肉眼にて見るべからざる動物なり　2、體は單一なる細胞（サイハウ）にて成る　3、分裂（ブンレツ）によりて繁殖す。

第一綱　纖（セン）毛（マウ）類（ルヰ）

（通性）1、體の全面若くは一部分に纖毛（センマウ）を生じ、之れにて水中を游泳す　2、口は體の一定部に存す

例　ツリガネムシ　ラツパムシ　ザウリムシ

第二綱　鞭毛類

（通性）1、體には一乃至八本の鞭毛（ベンマウ）を有し、これにて水中を泳ぐ。

例　ヤクワウチユウ　ミドリムシ　トリパノゾーマ

第三綱　胞（ハウ）子（シ）蟲（チユウ）類（ルヰ）

（通性）1、皆寄生々活を營み、胞子（ハウシ）を生じて繁殖す、其の宿主（ヤドヌシ）となるものには、環蟲（クワンチユウ）類、節足動物、軟體動物、被囊類（ヒナウルヰ）及脊椎（セキツヰ）動物あり　2、體には頭狀をなせる部分ありて、之れを用ひて固著す。

例　プラスモヂウム　ピリユウシチユウ

第四綱　根（コン）足（ソク）類（ルヰ）

（通性）1、體の外面には被膜（ヒマク）を有することなく、虛足（キヨソク）を出して運動す。

例　アメーバ　イウコウチユウ　ハウサンチユウ

以上

現行の狩獵法施行規則にて狩獵し得べき鳥獸一覽表

大正七年法律第三十二號を以て、狩獵法を公布せられ、翌八年八月、農商務省令第二十八號の狩獵法施行規則の發布により、從來の保護鳥なるものは廢止せられ、邦産約六百餘種もあらうといはれる鳥類の全部は、濫に捕獲することを得ざることになり、其の代りに該施行規則の第一條に於て、狩獵し得る鳥獸の種類を規定せられたり。左に之を分類して掲げん。

一【獸　類】　各種

【猛禽類】　ハヤブサ　ワシ　ミサゴ　クマタカ

【鳴禽類】　アトリ　アチジ　イカル一名マメマワシ　イスカ　ウソ　ルリカケスを除けるカケス一名カシドリ　カシラダカ　カハラヒワ　ホシガラスを除けるカラス　クロジ　シメ　シロハラ　スズメ　トラツグミとクロツグミとを除けるツグミ　ニウナイスズメ　ノジコ　ヒヨドリ　ヒワ　ホホジロ　マシコ　マミチヤジナイ　ミヤマホホジロ

【鳩　類】　ハト

【雉　類】　ウヅラ　ヤマドリ　エゾヤマドリ一名エゾライテウ　キジ

【渉禽類】　アヲサギ一名ミトゴ井　クヒナ　ケリ　ゴ井サギ一名セグロゴ井　シギ　ダイゼン　チドリ　バン　ムナグロ一名アイグロ

【游禽類】　アイサ　アハウドリ　ウ　ガン　カモ　ハクテウ　チシドリ

次に狩獵期間を制限したる鳥獸に就いては、第二條に於て左の如き種類を限定せられたり。

【獸　類】　アナグマ　イタチ　カハウソ　カモジカ　キツネ　シカ　タヌキ　テン　ムササビ　リス

以上、十二月一日より翌年二月末日までを限り、狩獵するを許されたり。

【鳥　類】　キジ　ヤマドリ

以上、十一月一日より翌年二月末日までを限り、狩獵するを許されたり。

新式動物界攬要　終

新式動物界攬要(動物五百種の表解)索引

【ア】

アヲウミガメ……三九頁
アヲゲラ……二四
アヲザメ……五八
アヲダイシャウ……四二
アヲバト……三一
アヲベラ……五一
アカウミガメ……四〇
アカエヒ……五九
アカガヘル……四六
アカゲラ……二四
アカサシガメ……七五
アカサンゴ……一〇八
アカニシ……九六
アカムシ……八三
アゲハノテフ……六六
アゲハヤドリバチ……七二
アコヤガヒ……九九
アサリ……九八
アザラシ……八
アシカ……八
アシナガバチ……七一
アヂ……四八
アトヒザリ……八三
アナグマ……七
アナゴ……五六
アヒル……三六
アフリカクロコヂル……四二
アフリカザウ……一四
アブ……七三
アブラゼミ……七六
アブラムシ……七六・八〇
アハウドリ……三七
アマガヘル……四五
アマゴ……五四
アマダヒ……四九
アマツバメ……二九
アミ……八七
アメフラシ……九六
アメーバ……一一七
アメンボウ……七七
アメリカダテウ……三八
アメリカトラ……四
アユ……五九
アリ……七三
アリクヒ……二〇
アリグモ……八二

アリゲートル……四二
アリマキ……七六
アルバトロス……三七
アルパカ……一三
アルマヂロ……二一
アハビ……九五
アンコウ……四九

【イ】【ヰ】

イヒダコ……九一
イヘバト……三一
イヘバイ……七三
イガ……七〇
イガヒ……九九
イカルチドリ……三五
イシガメ……三九
イシマテ……九九
イスカ……三〇
イセエビ……八五
イソカイメン……一一三
イソギンチヤク……一〇九
イソバナ……一〇八
イタチ……六
イタヤガヒ……九一
イチモジセセリ……三二
イトマキヒトデ……一〇六
イナ……五一
イナゴ……七九
イヌ……五
イヌワシ……二三
ヰノシシ……一三
イバラガニ……八七
イボガヘル……四五
イボタラウムシ……七七
ヰモリ……四六
イヨウビル……一〇一
イルカ……一六
イワシ……五五
イワシクヂラ……一六
インコ……二五
インドガビアル……四二
インドクジヤク……三二
インドザウ……一四

【ウ】

ウ……三六
ウチジラミ……八九
ウグヒス……二九
ウサギウマ……九
ウシ……一一
ウシアブ……七三
ウシガヘル……四六
ウスバカゲロフ……七八
ウツボ……五六
ウヅラ……三三
ウヅマキムシ……一〇二
ウナギ……五五・五六
ウニ……一〇四
ウニコール……一六
ウマ……九

ウマオヒムシ……七九
ウミウシ……九六
ウミエラ……一〇九
ウミサボテン……一〇九
ウミシダ……一〇七
ウミタナゴ……五一
ウミニナ……九四
ウミヘチマ……一一三
ウミヘビ……四四
ウミホタル……九〇
ウミマツ……一〇九
ウミヤナギ……一〇九
ウミユリ……一〇七
ウリバイ……六六
ウルメイワシ……五五
ウハバミ……四四
ウンカ……七六

【エ】

エチゴウサギ……一八
エボシガヒ……八九
エミウ……三八
エラブウナギ……四四
エラムシ……八八
エンジムシ……七七

【オ】【ヲ】【アフ】

オホカミ……五
オホカンガルー……二一
オホカウモリ……一九
オホコノハヅク……二四
オホサンセウウチ……四七
オホシヤウジヤウ……二
オホスカシバ……七一
オホタカ……二三
オホダヒ……四七
オホトカゲ……四一
オホハナインコ……二五
オホバン……三五
アフム……二五
アフムガヒ……九二
オホワシ……二三
オカメインコ……二五
オカメコホロギ……八〇
ヲシドリ……三六
オツトセイ……八
ヲナガ……五三
ヲナガウジ……七四
ヲナガザル……二
ヲナガバチ……七二
ヲボコ……五一
ヲマキザル……三

【カ】【クワ】

カ……七四
カヒウサギ……一七
カヒガラムシ……七六
カヒコ……六八
カヒコノウジバヘ……七三
カイチユウ……一〇一

カイツブリ……一三七
カヒミザンコ……九〇
カイリ……一八
カイラウドウケツ……一一三
カキ……一〇〇
カギサナダ……一〇四
カギナシサナダ……一〇四
クワクコウ……一二五
カゲロフ……七八
カサゴ……四八
カジカガヘル……四五
カタツムリ……九三
カタヤマガヒ……八七
カツヲ……四八
カツヲノエボシ……一一三
カツヲノカムリ……一一三
カツヲブシムシ……六六
カツバムシ……七五
カツブシガヒ……九九
カナガシラ……五〇
カナヘビ……四〇
カナリヤ……二九
カネタタキ……八〇
カブトガニ……八四
カマキリ……八〇
カミキリムシ……六四
カメノテ……八九
カメレオン……四一
カモ……三五
カモシカ……一一
カモノハシ……一三
カモメ……三七
カモメガヒ……九九
カヤ……一一二
カラス……二七
カラスガヒ……九八
カラスヘビ……四二・四三
カレヒ……五二
カハウソ……七
カハウマ……一四
カハセミ……三〇
カハネズミ……一〇
カハニナ……九四
カハヤツメ……六一
カハラバト……三一
カンザウヂストマ……一〇三
カンタン……八〇
カンテツ……一〇二

【ガ】

ガイタ……六六
ガザミ……八六
ガテウ……三六
ガムシ……六三
ガモドキバチ……七二
ガラガラヘビ……四四
ガランテウ……三七
ガン……三六
ガンギエヒ……六〇

【キ】

キアゲハ……六六
キキヤウガヒ……一〇五
キクヒムシ……八八
キクメイシ……一一〇
キジ……三三
キジバト……三一
キセキレイ……二六
キテフ……六七
キツツキ……二四
キツネ……五
キツネザル……三
キノボリトビハゼ……五〇
キバタン……二五
キヴ井……三八
キリウジガガンボ……七四
キリギリス……七九
キリン……一二
キンギヨ……五三
キンコ……一〇六
キンシエン……二六

【ク】

クヒナ……三五
クサカゲロフ……七八
クサガメ……四五
クサヒバリ……八〇
クサビライシ……一一〇
クジヤク……三三
クスサン……六八
クチブトカメムシ……七五
クツワムシ……七九
クマゼミ……七六
クモザル……三
クモヒトデ……一〇六
クリケムシ……六八
クルマエビ……八六
クルマバッタ……七九
クロカナブン……六五
クロクマ……七
クロサンゴ……一〇九
クロシヤウジヤウ……二
クハエダシヤク……七〇
クハカミキリ……六四
クハトラムシ……六四

【ケ】

ケヤリムシ……一〇〇
ケラ……〇
ケンミザンコ……九〇

【ゲ】

ゲウチユウ……一〇一
ゲジゲジ……八四
ゲンゴラウ……六三

【コ】【カウ】
【コフ】【コウ】

コヒ……五三
コフイカ……九二

カウガイビル……一〇二
コフノトリ……三四
コウモリ……一九
コウライキジ……三三
コホロギ……八〇
コガネムシ……六五
コクザウムシ……六四
コゲラ……二四
コスカシバ……七一
コセイインコ……二五
コチ……四九
コチドリ……三九
コチニール……七七
コノシロ……五五
コノハテフ……六七
コノリ……二三
コバスチドリ……三五
コバネイナゴ……七九
コバンイタダキ……四九
コブカメムシ……七五
コメツキムシ……六四
コモリネズミ……三
コヤスガヒ……九五
コンドル……二四

【ゴ】

ゴ井サギ……三四
ゴカイ……一〇〇
ゴキブリ……八〇
ゴクラクドリ……二九
ゴシキセイガイインコ……二五
ゴジフカラ……二八
ゴリラ……二

【サ】

サイ……一〇
サカツラガン……三六
サカマタ……一六
サクサン……六八
サクラエビ……八六
サケ……五四
サザエ……九五
サシバヘ……七三
サソリ……八二
サツクリナ……八九
サバ……四八
サヨリ……五三
サラガヒ……九六
サル……一
サルハムシ……六六
サハラ……四九
サンエフチユウ……八四
サンマ……五四

【シ】【シヤ】【シヤウ】【シユ】

シホヤアブ……七五
シカ……三
シギ……三四・三五
シシ……四

シシガシラ……五二
シジフカラ……二七
シヾミ……九八
シチメンテウ……三二
シバエビ……八六
シビ……四八
シビレウナギ……五七
シビレエヒ……六〇
シマウマ……一〇
シマバヘ……七三
シマヘビ……四三
シミ……八一
シヤウジヤウー……二
シヤウガクバウ……三九
シヤコ……八八・九八
シヤチ……一六
シユモクザメ……五九
シラサギ……三四
シラミ……七七
シロアリ……七九
シロクマ……八
シロサンゴ……一〇八・一〇九
シロスヂカミキリ……六四
シロチドリ……三五
シンジユガヒ……九九

【チ】【ジフ】

【ジ】

ヂイガセ……九七
ジフニシチヤウ……
チユウ……一〇二
ヂストマ……一〇三
ジヤカウジカ……三一
ジユゴン……一七
ヂヨラウグモ……八一

【ス】

スヰギウ……一一
スカシガ……七一
スカシバ……七一
スカンク……七
スギカミキリ……六四
スケトウダラ……八七
スズキ……四七
スズムシ……八〇
スズメ……二八
スツポン……三九
スルメイカ……九二

【ズ】

ズ井ムシ……六九
ズ井ムシアカタマゴバチ……七二
ズ井ムシクロタマゴバチ……七二
ズワイガニ……八七

【セ】

セイウチ……九
セキセイインコ……二五
セキレイ……二六
セグロセキレイ……二六

セスヂスズメ……七〇
セミ……七六
セミクヂラ……一五
セラトダス……六一
セルプラ……一〇〇
センザンコフ……二〇
センマウチユウ……一〇三

【ザ】

ザウ……一四
ザウリムシ……一二四

【タ】

タヒノムシ……八八
タイマイ……四〇
タヒラギ……九九
タカ……二三
タカアシガニ……八七
タカラガヒ……九四
タガメ……七九
タコクラゲ……一一
タコノマクラ……一〇五
タコブ子……九一
タシギ……三四
タツノヲトシゴ……五八
タナゴ……五三・一〇三
タニシ……九四
タヌキ……五
タマシギ……三四
タマムシ……六四
タラ……五二
タラバガニ……八七
タンチヤウヅル……三三

【ダ】

ダテウ……三八
ダニ……八三
ダルマインコ……二五

【チ】【テウ】【テフ】

チドリ……三五
テウ……八九
チンパンジー……二
テフザメ……六〇

【ツ】

ツエツエバヘ……七四
ツキヒガヒ……九九
ツクシサソリ……八二
ツグミ……二八
ツクツクボウシ……七六
ツバメ……二六
ツマグロヨコバイ……七六
ツメタガヒ……九四
ツリガ子ムシ……一二四

【テ】

テグスガ……六九
テツパウウヲ……五〇

テナガザル……二
テン……六
テングザル……三
テンヂクバタン……二五
テンタウムシ……六五
テンタウムシダマシ……六五

【ト】【タウ】

トウスミトンボ……七八
タウナス……一二四
トカゲ……四〇
トキソーテス……五〇
トゲアメフラン……九六
トゲウヲ……五一
トコブシ……九五
トタテグモ……八二
トナカイ……三
トノサマガヘル……四五
トノサマバツタ……七九
トビ……二三
トビイロウンカ……七六
トビウヲ……五四
トビハゼ……五〇
トビムシ……八九
トラ……四
トラカミキリ……六四
トラフグ……五七
トラムシ……六四
トリノアシ……一〇七
トリパノゾーマ……一一五
トンボ……七八

【ド】

ドヂヤウ……五三
ドバト……三一
ドブガヒ……九八

【ナ】

ナガサキ……五三
ナガスクヂラ……一五
ナガニシ……九六
ナゴヤフグ……五七
ナヌカザメ……五九
ナマケモノ……二
ナマコ……一〇六
ナマヅ……五二
ナメクヂ……九三
ナラダンゴモツシヨクシバチ……七二
ナンキンムシ……七五

【ニ】

ニイニイゼミ……七六
ニウナイスズメ……二八
ニキビムシ……八四
ニクバヘ……七三
ニシキヘビ……四四
ニシン……五五
ニハトリ……三二

【ネ】

ネキリムシ……七〇
ネコ……三
ネコザメ……五九
ネズミ……一七

【ノ】

ノウサギ……一七
ノコギリザメ……五九
ノスリ……二三
ノミ……七四

【ハ】

ハアリ……七九
ハイ……九六
ハイエナ……六
ハイザウヂストマ……一〇三
ハイタカ……一二三
ハエ……一〇三
ハヘトリグモ……八二
ハクテウ……三六
ハコネサンセウウヲ……四六
ハコフグ……五七
ハゼ……五〇
ハタヲリ……七九
ハダカイワシ……五六
ハチドリ……三〇
ハナアブ……七四
ハナムグリ……六五
ハネカクシ……六五
ハネナガイナゴ……七九
ハネムシ……八九
ハブ……四三
ハマキムシ……七〇
ハマグリ……九七
ハマダラカ……七四・一一六
ハモ……五六
ハヤブサ……二三
ハリセンボン……五七
ハリネズミ……二〇
ハリモグラ……二三
ハンメウ……六三

【バ】

バク……一〇
バッタ……七九
パピホウ……七三
パフンウニ……一〇五
パン……三五

【ヒ】

ヒガヒ……五三
ヒガラ……二七
ヒキガヘル……四五
ヒクヒドリ……三八
ヒグマ……七
ヒグラシ……七六
ヒシクヒ……三六
ヒシコイワシ……五五
ヒゼンノムシ……八三
ヒタキ……二六

ヒツジ……一一
ヒトデ……一〇五
ヒドラ……一一
ヒバカリ……四三
ヒバリ……二六
ヒヒ……二
ヒミズガヒ……九九
ヒメコガネ……六六
ヒメトビウンカ……七六
ヘウ……四
ヒラメ……五二

【ピ】

ピゼンクラゲ……一一
ピリユウシチユウ……一二六
ピハガライシ……一一〇

【フ】

フウテウ……二九
フクロフ……二四
フグ……五七
フシノアブラムシ……七七
フタクチムシ……一〇三
フヂツボ……八九
フナ……五三
フナムシ……八八

【ブ】

ブタ……一四

【プ】

プラスモヂウム……一一六
プラナリヤ……一〇三
プロトプテラス……六一

【ヘ】

ヘイケガニ……八七
ヘビガヒ……九四

【ベ】

ベンケイガニ……八七

【ペ】

ペリカン……三六
ペリケータミミズ……一〇一
ペンギン……三七

【ホ】

ハウサンチユウ……一一七
ホウ子ンギヨ……九〇
ホウボウ……五〇
ホクキヨクグマ……八
ホシザメ……五九
ホタテガヒ……九九
ホタル……六五
ホタルイカ……九二
ホタルカミキリ……六四
ホツスガヒ……一一三
ホトトギス……二五
ホヤ……六二
ホラガヒ……九五

ホロホロテウ……三三

【ポ】

ポウシウポラ……九六
ポウズニラ……一二二
ポラ……五一

【マ】

マイカ……九一
マイマイ……九三
マイワシ……五五
マガモ……三六
マガン……三六
マクジヤク……三二
マグソガゼ……一〇五
マグロ……四八
マス……五四
マダヒ……四七
マダコ……九一
マダラオホカミ……六
マツカウクヂラ……一六
マツムシ……八〇
マテガヒ……九八
マナヅル……三四
マフグ……五七
マミヅカイメン……一一四
マムシ……四三
マメコガネ……六五
マメタニシ……一〇三
マメハンメウ……六五
マルコ……五三
マングース……六
マンヂユウ……一〇五
マンボウ……五八
マンモス……一五

【ミ】

ミソサザイ……二七
ミゾサナダ……一〇四
ミチシルベ……六三
ミヂンコ……九〇
ミツバチ……七一
ミヅクラゲ……一一二
ミヅスマシ……六四
ミドリイシ……一一〇
ミドリカミキリ……六四
ミドリムシ……一一五
ミノムシガ……七〇
ミミズ……一〇一
ミミヅク……二四
ミヤイリガヒ……六五・八七
ミヤコドリ……三五・三七
ミンタイギヨ……八七

【ム】

ムカデ……八四
ムクドリ……二八
ムササビ……一八
ムツ……四七
ムナグロ……三五

【メ】

メイチユウ……六九
メガネヘビ……四三
メクラウナギ……六二
メクラグモ……八三
メジ……四八
メジロ……二八
メダカ……五六

【モ】

モグラモチ……一九
モズ……二七
モツシヨクシバチ……七二
モノアラガヒ……九二
モミヂガヒ……一〇五
モモイロインコ……二五
モモイロサンゴ……一〇八
モルモツト……一八
モロコ……一〇二
モンキテフ……六七
モンシロテフ……六六

【ヤ】

ヤギ……一二
ヤクワウガヒ……九五
ヤクワウチユウ……一一五
ヤゴ……七八
ヤスデ……八五
ヤツメウナギ……六一
ヤドカリ……八六
ヤドリバチ……七一
ヤマアラシ……一八
ヤマイヌ……五
ヤマカガシ……四三
ヤマガラ……二七
ヤマシギ……三四
ヤマドリ……三二
ヤマベ……五四
ヤママユ……六八
ヤモリ……四一
ヤリイカ……九二
ヤンマ……七八

【ユ】【イウ】

ユアミカイメン……一一三
イウコウチユウ……一一七
ユーグレナ……一一五
ユリカモメ……三七

【ヨ】【ヤウ】

ヤウジウチ……五八
ヤウラククラゲ……一一三
ヨコバイ……七六
ヨタウムシ……六九
ヨタカ……二九
ヨツメクラゲ……一一二
ヨメガサラ……九六

【ラ】